

令和4年度事業報告

社会福祉法人ゆうかり学園

1、評議員会・理事会の開催状況

本年度は、下記のとおり評議員会及び理事会を開催した。

第一回理事会 令和4年6月10日（金）

理事6名中6名出席 監事2名中2名出席

- | | |
|-------|--------------------------------------|
| 第一号議案 | 令和3年度事業報告（案）審議の件について |
| 第二号議案 | 令和3年度決算報告（案）審議の件について |
| 第三号議案 | 監事監査報告の件について |
| 第四号議案 | 社会福祉充実残額に関する審議について |
| 第五号議案 | 令和4年度第一次補正予算（案）の件について |
| 第六号議案 | 定款変更認可申請（案）審議の件について |
| 第七号議案 | 防犯カメラ追加設置に伴う工事契約について |
| 第八号議案 | 育児・介護休業法改正に伴う育児・介護休業等規程改正（案）審議の件について |
| 第九号議案 | 定時評議員会招集に関する審議の件について |

第一回評議員会 令和4年6月27日（月）

評議員8名中8名出席 陪席者：理事6名、監事2名

- | | |
|-------|-----------------------|
| 第一号議案 | 令和3年度事業報告（案）審議の件について |
| 第二号議案 | 令和3年度決算報告（案）審議の件について |
| 第三号議案 | 監事監査報告の件について |
| 第四号議案 | 社会福祉充実残額に関する審議について |
| 第五号議案 | 令和4年度第一次補正予算（案）の件について |
| 第六号議案 | 定款変更認可申請（案）審議の件について |

第二回理事会 令和4年10月7日（金）

理事6名中5名出席 監事2名中1名出席

第一号議案 社会福祉法人ゆうかり学園理事辞任に伴う後任の
人選について

第三回理事会 令和4年11月30日（水）

理事5名中5名出席 監事2名中2名出席

第一号議案 令和4年度社会福祉法人ゆうかり学園第二次補正予算書
（案）審議の件について

第二号議案 人事院勧告の件について

第三号議案 就業規則改定（案）、退職金支給規程改正（案）経理規
程改正（案）、福祉・介護人材処遇改善手当（処遇改善
加算、特定処遇改善加算、処遇改善臨時特例交付金
分）支給規程改正（案）審議の件について

第四号議案 準職員等の賃金改定、及び、福祉・介護人材処遇改善
手当支給規程の交付金名称変更に伴う、臨時職員就業
規則改正（案）について

第五号議案 ゆうかり医療療育センターに於ける分包機の購入
について

第六号議案 ゆうかり医療療育センターに於ける顔認証付き
カードリーダーオンライン資格確認機器の設置、
及び、その運用のためのシステム導入について

第七号議案 評議員会招集に関する審議の件について

追加議案 ゆうかり医療療育センターに於ける本館棟外部側
污水配管修繕工事について

第二回評議員会 令和4年12月12日（月）

評議員8名中5名出席 陪席者：理事5名、監事2名

第一号議案 令和4年度第二次補正予算書（案）審議の件に
ついて

第二号議案 役員退任に伴う後任理事選任の件について

第四回理事会 令和5年3月20日（月）

理事6名中6名出席 監事2名中2名出席

第一号議案 令和4年度第三次補正予算（案）審議の件について

第二号議案 令和5年度事業計画（案）審議の件について

第三号議案 令和5年度当初予算（案）審議の件について

第四号議案 社会福祉法人ゆうかり学園火災保険の見直し及び契約
について

第五号議案 施設長等の契約について

第六号議案 令和5年度給食納入業者の選定について

第七号議案 評議員会招集に関する審議の件について

追加議案 役付手当新設に伴う給与規程改正（案）審議の件に
ついて

第三回評議員会 令和5年3月30日（木）

評議員8名中8名出席 陪席者：理事5名、監事2名

第一号議案 令和4年度第三次補正予算（案）審議の件について

第二号議案 令和5年度事業計画（案）審議の件について

第三号議案 令和5年度当初予算（案）審議の件について

2、令和4年度心身障害児者の施設利用状況

ゆうかり医療療育センターの利用状況は、医療型障害児入所施設（定員 150 名）では延 5,705 名、一日平均 15.6 名、療養介護事業所（定員 150 名）では延 41,406 名、一日平均 113.4 名、私的入院では延 159 名であった。入所率は 150 定員に対して 86.3%であった。短期入所では 13 名の利用があり、延利用日数は 90 日であった。一方、日中一時支援も 4 名の利用があり、延 12 回の利用があった。

コアラ園では、児童発達支援事業（定員 20 名）に対し延 2,518 名、一日平均 10.62 名が利用された。また、放課後等デイサービス事業（定員 10 名）では延 167 名、一日平均 0.7 名であった。保育所等訪問では延 17 名の利用があった。

耳納学園においては、施設入所支援（定員 34 名）に対し、延 10,062 名の利用があり、一日平均 27.6 名、充足率は 81%、就労継続支援 B 型（定員 40 名）では、年間作業参加実績延 5,784 名、定員から見た充足率は、68%、一日平均作業参加実績利用者数は 27.3 名であった。

千歳療護園の利用状況は、生活介護（定員 50 名）が延 11,794 名で 90.0%の充足率、施設入所支援（定員 40 名）は延べ 14,448 名で 98.9%の充足率であった。内訳は 4 名の利用者が延べ 95 日間の入院の他、新規入所 1 名、退所 2 名、外泊については新型コロナウイルス感染予防を徹底していただくことをお願いし 1 名の方が年末年始に帰省されている。短期入所利用者は延べ 19 名、日中一時の利用者はなかった。

第二千歳療護園の利用状況は、施設入所支援（定員 40 名）が年間実利用者数 14,022 名で 96.0%の充足率。1 日平均利用者数は 38.4 名であった。生活介護（定員 40 名）は年間延べ利用者数 10,024 名で 96.0%の充足率であった。内訳は 14 名の利用者が延べ 401 日間の入院の他、退園者等 3 名による減数が 177 日間であった。外泊については新型コロナウイルス感染によるクラスターが 2 度発生したため外泊される利用者様はいなかった。

短期入所は 1 名の利用者が年間延べ 2 日間利用されている。日中一時の利用者はなかった。

施設毎の事業報告の詳細は 15 頁以降に掲載している。

3、助成事業関連

① 両立支援等助成金（新型コロナウイルス感染症小学校休業等対応コース）

子どもの世話を保護者として行うことが必要となった労働者に対し、有給の休暇制度を設けた。

（令和3年11月1日～令和3年12月31日 休暇利用者申請分）

対象者 0名 助成金 0円

（令和4年1月1日～令和4年2月28日 休暇利用者申請分）

対象者 63名 助成金 4,785,734円

（令和4年3月1日～令和4年3月31日 休暇利用者申請分）

対象者 35名 助成金 1,845,118円

（令和4年4月1日～令和4年6月30日 休暇利用者申請分）

対象者 54名 助成金 2,295,040円

（令和4年7月1日～令和4年9月30日 休暇利用者申請分）

対象者 50名 助成金 3,111,030円

【合計】 ￥12,036,922円

② 福岡県医療機関等物価高騰対策支援金

（ゆうかり医療療育センター）

交付金 4,500,000円

③ 久留米市社会福祉施設等物価高騰対策支援補助金

※コロナ禍における原油価格・物価高騰により負担が生じている光熱費及び送迎車輛の燃料費等の上昇分相当額の補助を受け、障害福祉サービスの質を落とすことなく維持出来た。

（ゆうかり医療療育センター）

交付金 4,500,000円

（コアラ園）

交付金 230,000円

（耳納学園）

交付金 1,260,000円

(千歳療護園)

交付金 1,560,000 円

(第二千歳療護園)

交付金 1,500,000 円

- ④ 福岡県障がい福祉サービス施設・事業所等に対するサービス継続支援事業
補助金

(千歳療護園) 衛生用品・感染物回収費用・応援派遣職員給料等

総事業費 2,582,584 円 補助金 2,002,000 円

自己資金 580,584 円

※新型コロナウイルス感染症の感染者等が発生した場合にも、障害福祉サービスを継続して提供するための感染拡大防止対策が出来た。また同法人内の施設にて新型コロナ陽性者が多数発生した際、職員の応援派遣を行った。

- ⑤ 久留米市障がい福祉サービス等事業者に対するサービス継続支援事業費
補助金

(ゆうかり医療療育センター)

総事業費 4,544,000 円 補助金 1,974,000 円

自己資金 2,570,000 円

※新型コロナウイルス感染者に対応した職員への手当及び感染性廃棄物
処理費用

(耳納学園)

総事業費 1,328,967 円 補助金 911,000 円

自己資金 417,967 円

※新型コロナウイルス蔓延防止の為の感染症対策備品購入費用

(第二千歳療護園)

総事業費 1,997,498 円 補助金 1,695,000 円

自己資金 302,498 円

※新型コロナウイルス感染者発生時、衛生用品購入費及び職員派遣に伴う
人件費

⑥ 緊急時介護人材確保・職場環境復旧等支援事業費補助金（介護保険）

（千歳療護園）衛生用品・感染物回収費用

総事業費 760,925 円 補助金 537,000 円

自己資金 223,925 円

※新型コロナウイルス感染症の感染者等が発生した場合にも、障害福祉サービスを継続して提供するための感染拡大防止対策が出来た。

⑦ マイナンバーカード読取機（カードリーダー）設置事業

顔認証付きカードリーダーオンライン資格確認機器の設置事業及びシステムの導入事業を下記の通り実施した。

・カードリーダー 無償

・HOPE/SX-S オンライン資格確認ソフト及び設定作業費 1,045 千円

・PC、モニター、ルーター設置作業代他 628 千円

事業費合計 1,673 千円 国庫補助金 836 千円 自己資金 837 千円

4、賛助会員の状況

今年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止の為に、「典心の湯」の利用や会議室の貸し出し等を中止とし、賛助会員の新規契約・継続更新を見送ることとした。

5、「耳納学園」開設 50 周年

創立 50 周年記念行事については、コロナ感染状況をふまえ、耳納学園の利用者様と職員のみでの参加で、令和 4 年 4 月 21 日（木）に園内食堂にて食事会を実施し、その後、喫茶店形式でコーヒーやデザート等を食べながら過去の作業風景のビデオや写真を観ながら楽しい時間を過ごしていただいた。

本来なら 50 周年という節目の年であり保護者様や各関係者をお招きして盛大に催したかったが、コロナの関係で上記のような形で実施せざるをえなかった事は残念でならなかった。

6、利用者の接遇向上・職員の資質向上

法人及び各施設の安定的な経営を図るためには、利用者様への接遇向上及び職員の資質向上さらには優秀な人材の確保等が必要である。本法人では研修委員会を立ち上げ、これまで以上に職員研修等の機会・充実を図り、『利用者本位のサービス』を一層充実させることに努めた。

7、働きやすい職場の構築

これまでハラスメント防止やワークライフバランスをはじめ働きやすい職場作りに向けて様々な取り組みを行ってきた。また福岡県より男性職員育児休業取得率が極めて高いことから昨年1月福岡県知事表彰を受けたところであるが、本年度は男女共に100%の取得率となった。又、令和5年1月より出生サポート休暇（有給）を新設し不妊治療と仕事の両立支援に取り組んだ。さらに、2024年度より医師の働き方改革が厚生労働省より打ち出される事に伴い、本法人では、令和4年10月に医師の断続的労働許可（医師の宿日直）を取得し、大学病院等からの医師派遣がスムーズに行なえる様取り組んだ。

今後も労働基準法や高年齢者雇用安定法改正に伴う、時間外労働やインターバル制度等、また70歳までの就業機会の確保など様々な労働環境の整備を行い、働きやすい職場を実現するために継続して努めて参ります。

8、障害福祉サービス費等報酬改定への対応

診療報酬の改定については本年度4月1日に改定されたところであったが、新たな仕組みとして医療のDX（デジタルトランスフォーメーション）化が図られることになり、下記3点が令和5年4月1日より臨時改定されました。

- ① オンライン資格確認の導入の原則義務付けに係る経過措置
- ② オンライン資格確認の導入・普及に関する加算の特例措置
- ③ 医薬品の安定供給問題を踏まえた診療報酬上の特例措置

当法人（ゆうかり医療療育センター）においては①②に関しては、読み取り機器導入補助制度を申請し、4月1日（システム等の整備完了次第）よりマイナンバーカードによる保険証確認を実施することとしています。

また、令和6年4月改定が予定されているトリプル改定（診療報酬、福祉サービス報酬、介護報酬）へ向けて関係諸団体と情報の共有を含め対応進めて参ります。

9、地域福祉の推進

久留米市委託事業「久留米市東部障害者基幹相談支援センター」並びに障害者相談支援事業所「夢の紀」における相談支援や児童発達支援センターコアラ園を中心に放課後等デイサービス事業、保育所等訪問支援事業の充実、更に短期入所・日中一時支援を含め、在宅障害児者のニーズを的確に把握し、感染症予防対策を講じながら地域福祉の増進のために更に努力した。

10、新型コロナウイルス感染症対策

厚生労働省通達及び国の基本方針に基づき令和2年2月26日より本法人の基本指針を策定し、保護者、職員他関係者等へ協力依頼及びその周知を図り感染症対策に取り組んできた。まだまだ先行きは厳しい状況ですが、終息するまでは一層の危機意識と使命感を強く持ち続ける事が大事であり、役職員一丸となって感染防止対策に取り組んで行きたい。

令和4年度の新型コロナ感染症罹患者数は、利用者様 116 件、職員 145 件であった。施設内のクラスターは7件発生した。

利用者様罹患者に対してはコロナの治療薬である抗ウイルス薬（点滴）の導入により、ほとんどが軽症であったが、6名の方が他医療機関への搬送を余儀なくされた。クラスター発生施設へは法人内職員が協力し、職員の派遣等をおこなった。

新型コロナ対応として令和4年2月14日（月）にPCR検査機を購入（1,496,000円）したことにより、感染対策上有効かつ迅速な対応が可能となった。令和4年度の学園内総検査数は抗原検査 2078 件、PCR 検査 1028 件であり、うち陽性者は166名であった。

また、学園内でのワクチン接種は4回目を令和4年7月～9月に利用者様 221 名、職員 180 名、5回目を11月～12月に利用者様 213 名、職員 159 名に実施した。

感染症の状況はデスクネット NEO(グループウェア)にて情報を発信していった。

11、定例事業

(1)盆踊り・花火大会の開催

大会期日を令和4年7月21日（木）の開催予定で準備していたが、4月18日所長会議で検討の結果、新型コロナウイルス感染防止のため、盆踊り・花火大会の中止を決定し、各施設・各寮で夏祭りを行った。

(2)運動会の開催

開催期日を令和4年10月15日（土）とし、久留米市東部運動公園にて開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染防止のため運動会の中止を決定し、各施設・各寮において好評を博しているレクリエーションを実施した。

12、 職員研修事業（園内）

(1) 外部講師による人権研修

新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、中止

(2) 園内研修会の実施

・ 理事長講義	実施
・ 薬局研修会	ビデオ
・ メンタルヘルス研修会	実施
・ 感染症研修会	ビデオ
・ 虐待防止研修会	書面
・ 報告会（苦情解決、安全管理、感染症対策）	実施
・ 福祉 QC 委員会	書面

新型コロナウイルス感染症拡大防止を考慮し、上記の通り報告を行った。

(3) 新任職員研修

いずれも別添報告書の通り内容を進化させながら実施した。

13、 委員会活動

苦情解決委員会はじめ各委員会活動は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を行いながら慎重に行ってきた。その他各委員会からの報告は別添のとおりであった。

14、その他の事業

〈防犯対策事業〉

昨年度、ゆうかり医療療育センター玄関への投石、ガラス破損事件を経験し、防犯マニュアルの周知徹底、防犯カメラ等の増設を行ない、防犯対策の強化に取り組んだ。

- ①法人全体で 33 台の屋内防犯カメラ及び 8 台の赤外線センサーを設置し、日中及び夜間において不審者の侵入を監視する。(各施設事務室にモニターを設置)

ゆうかり医療療育センター：13 台 (玄関及び各出入口、廊下)

耳納学園： 3 台 (玄関及び各出入口)

千歳療護園： 6 台 (玄関及び各出入口、廊下)
(赤外線センサー4 台)

第二千歳療護園：6 台 (玄関及び各出入口、廊下)
(赤外線センサー4 台)

地域支援棟：5 台 (玄関及び各出入口、廊下、階段登り口)

- ②令和 5 年 3 月 8 日 (水) 法人全体防犯対策委員会を開催する。不審な侵入者に対する対応意識を再度確認し、防犯対策用具や定期的な防犯訓練等について、各施設の担当で情報の共有を行い、今後の防犯対策についての取り組みを検討する。

令和4年度新任職員研修

研修のねらい

- 1回目は入職にあたっての最低限必要と思われる内容にとどめ、実務をより早く経験する。
 - 2回目を3ヶ月～6ヶ月後あたりに開催し、新任職員に事前にアンケートをとり、新任職員になって自分の抱えている悩みやこれからの期待、日常業務の中で疑問に思っていること等をグループ討議で話し合いしてもらう。
 - 3回目は、1年間を通じての現場実習の最終日とする。(新型コロナウイルス感染予防対策の為、状況により日程調整を行う)
- ①1年間を通じ、法人内の他部署の仕事を体験し、自分の仕事に対する姿勢を振り返る機会とする。
- ②新任職員が顔を合わせて話し合い、同じ様な悩みや不安を持っていながらも、みんな頑張っている状況を知り、自分だけではないことを共有すると共に、今後の自分の仕事に対する姿勢や課題を再確認し、心をリセットする。

令和4年4月1日(金)

地域支援棟 研修室

9:00～18:00

No.	研修概要	内容	開始時間	終了時間	備考
		集合後 ⇒ オリエンテーション	9:00	～ 9:10	研修室
1		辞令交付	9:10	～ 9:40	交流ホール
		休憩	9:40	～ 9:45	
2		自己紹介①	9:45	～ 10:00	
3		理事長講義①	10:00	～ 11:10	※ 必須
		休憩	11:10	～ 11:20	
4		理事長講義②	11:20	～ 12:30	※ 必須
		昼休み (車椅子操作がある為、動きやすい服装で参加)	12:30	～ 13:30	
5		自己紹介②	13:30	～ 14:00	
6		車椅子操作	14:00	～ 14:30	藤川部長
		休憩	14:30	～ 14:35	
7		食事介助	14:35	～ 15:15	佐々木係長
		休憩	15:15	～ 15:20	
8		就業規則	15:20	～ 15:50	海田事務長
9		福利厚生・退職金共済	15:50	～ 16:20	池田事務長
		休憩	16:20	～ 16:30	
10	施設紹介	ゆうかり医療療育センター・耳納学園 千歳療護園・コアラ園	16:30	～ 17:30	各施設担当
11		終礼	17:30	～ 18:00	

※令和4年3月31日までに入職された方は、No.2からの参加となりますので、9時45分までに研修室へご集合下さい。

令和4年度新任職員研修 第2回

令和4年11月8(火)、予備日11月22日(火) 9:00~17:00

会場：研修室（地域支援棟 2F）

研修概要	内容	開始時間	終了時間	備考
1	オリエンテーション 自己紹介	9:00	~ 9:25	
2 ※	大滝所長講義	9:30	~ 10:25	
休憩		10:25	~ 10:35	
3	苦情解決委員会について	10:35	~ 11:05	泉委員長
休憩		11:05	~ 11:15	
4	感染症委員会について	11:15	~ 12:15	宮崎係長
休憩		12:15	~ 13:15	
5	防災委員会について	13:15	~ 13:45	堤委員長
6	防犯委員会について	13:45	~ 14:15	三重野委員長
休憩		14:15	~ 14:25	
7	今までの自分を振り返って 個人評価への記録	14:25	~ 14:35	
8	『今まで仕事に携わってきて』			
	グループ討議	① 説明	14:35 ~ 15:55	
		② 役割分担決め		
	③ テーマの決定及び討議			
休憩		15:55	~ 16:10	
9	グループ発表	④ レポート作成	16:10	~ 16:30
		⑤ 発表	16:30	~ 17:00

※ 必須

施設事業報告

- ゆうかり医療療育センター
- コアラ園
- 相談支援事業所 夢の紀
- 耳納学園
- 千歳療護園
- 第二千歳療護園
- 久留米市東部障害者基幹相談支援センター

ゆうかり医療療育センター

医療部診療課 外来

《概況》

外来受診者の中で、入所前診察者は重症化の傾向にある。

療育前診察は昨年と同様、自閉症スペクトラム障害、注意欠如・多動症、言語発達遅滞等の受診者が多く、1人あたりの診療時間は2時間程度要している。

令和4年度 受診者数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
新患	9	2	15	6	9	6	9	8	9	8	9	8	98
再来	966	562	975	678	671	976	821	973	761	796	1013	1222	10414

新型コロナワクチン4回目 職員 180名 新型コロナワクチン5回目 職員 159名

インフルエンザワクチン 職員 256名(81%) 家族 118名(2回接種あり)

- ・発達障害児の新患予約状況は、9ヵ月待ちの状況にある。
- ・診療時間の調整を行い、スムーズに診療できるように心掛けた。
- ・昨年度末より新型コロナウイルス感染拡大の為、外来診療閉鎖していたが、R4年4月4日より、外来診療開始。開始にあたり、入り口での問診票記入、セラピストが利用者様対応を行い療育までの新しい流れができた。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、職員への抗原検査・PCR検査を外来診療前に実施している。また自宅待機職員の復職前にポスト前での診察を行っている。
- ・コロナウイルス罹患者職員の復職時には、産業医の面談を行っている。
- ・新型コロナウイルス対応・災害対応の為に、必要な医療物品確保、備蓄倉庫管理を行っている。病棟クラスター発生に伴い、医療物品使用数が増加した。医療物品コスト削減、商品見直しを図った。
- ・R4年8月集中豪雨により、外来・訓練・心理・歯科などの床上浸水があり外来診療を中止し対応した。
- ・給食職員コロナウイルス感染発生の為、3日間閉鎖となり、外来、訓練職員を中心に非常食の準備を行った。食事準備手順の情報共有を十分に行いトラブルなく食事提供できた。
- ・R5年より地域事業部、心理療育部とともに連携強化と情報共有を図るため月1回の勉強会を開催した。

医療部診療課 放射線

《概況》

- ・一般撮影の撮影件数は、前年度と比較して増加した。
- ・透視検査は、通年より少し減少となった。
- ・CT 検査の検査件数は、通年よりは増加しているが、昨年と比較すると減少となった。
- ・骨密度検査の検査件数は、昨年より減少となった。
- ・今年度は、利用者さまに新型コロナ陽性者が発生し、病棟の出入りの制限が特に強くなったため、一般撮影以外の検査数の減少に繋がったと思われる。
- ・病棟での一般撮影（ポータブル撮影）手段として、各病棟からの退出の際にポータブルの拭き上げは勿論の事、医師より指示が出た場合は、ポータブル本体にビニールを付け装置全体を覆うなど感染対策を徹底した。
また、撮影後も他職種の方々にフォローしてもらい、撮影者が隔離部屋から出らず、カセット（フィルム）を中継することで現像まで出来る体制をとり、感染拡大に注意を払った。
- ・正当化と最適化の研修会を実施（1回/年 対象：医師・放射線技師）

年度別 撮影件数比較

年度	2020年度	2021年度	2022年度
一般撮影	881	868	903
透視	83	83	81
CT	55	69	60
骨密度	12	59	27

2022年度 放射線部 撮影件数

【各検査 比較】

検査月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
一般撮影	65	62	69	51	74	88	85	69	79	79	89	93	903
透視	6	6	8	2	7	9	9	8	6	3	9	8	81
CT	0	2	6	2	6	7	6	5	3	3	11	9	60
骨密度	5	2	1	1	0	1	0	8	0	1	1	7	27

各検査 詳細【一般撮影】

検査月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	
病棟	35	34	35	29	38	53	46	39	41	53	44	63	510	
外来	5	3	8	10	10	13	6	6	1	5	11	11	89	
健診	病棟 B.D.	12	11	15	7	16	11	11	12	7	0	21	7	130
	耳・千 B.D.	10	13	7	5	8	11	9	11	4	8	8	7	101
	35歳未満	0	1	0	0	0	0	0	0	25	11	2	0	39
	その他	3	0	4	0	2	0	13	1	1	2	3	5	34
一般撮影 各月合計	65	62	69	51	74	88	85	69	79	79	89	93	903	

※健診 その他；雇用時健診・委託業者健診・日中・短期 など

各検査 詳細【透視】

検査月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
ST チューブ入替	1	2	2	2	2	3	2	2	2	2	5	5	30
ED チューブ入替	4	4	4	0	4	4	5	5	4	1	3	3	41
膀胱瘻 入替	1	0	2	0	1	2	1	1	0	0	1	0	9
その他	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
透視 各月合計	6	6	8	2	7	9	9	8	6	3	9	8	81

※その他；透視下での胃瘻交換・チューブの位置や捻じれや破損等の状態確認 など

各検査 詳細【CT】

検査月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
頭部	0	0	1	0	0	1	2	0	0	0	1	0	5
副鼻腔（顔面）	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	2
胸部	0	0	2	2	3	1	1	1	1	2	5	5	23
腹部	0	2	1	0	0	1	3	3	1	0	1	2	14
胸腹部	0	0	0	0	1	3	0	0	1	1	0	1	7
その他	0	0	2	0	1	1	0	0	0	0	4	1	9
CT 各月合計	0	2	6	2	6	7	6	5	3	3	11	9	60

※その他；整形領域や上記にない検査部位

各検査 詳細【骨密度】

検査月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
腰椎+股関節	4	0	1	0	0	1	0	5	0	0	0	4	15
腰椎のみ	1	2	0	1	0	0	0	3	0	1	1	3	12
股関節のみ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
骨密度 各月合計	5	2	1	1	0	1	0	8	0	1	1	7	27

《概況》

- ・本年度も新型コロナウイルス感染により、閉鎖期間が長く続いた寮もあり、利用者様の年 2 回の定期健診、職員（夜勤者・パート職員・35 歳未満）健診や血中濃度検査は、優先順位をつけて行い、異常の早期発見に必要な検査データの提供が出来た。医師と相談し、3 寮利用者様の健診項目を見直し、検査時間の短縮が出来た事で、緊急時の新型コロナウイルスなどの検査を行える体制がとれた。また、コスト削減につながった。
- 3 月、おひさま寮利用者様数名に発熱が見られ、白血球数・CRP や外注検査数が増加した。その後クラミジア肺炎が判明した。
- ・ノロウイルス胃腸炎については、職員（職員家族）に罹患者が確認されたが、利用者様への感染はみられなかった。

<新型コロナウイルスの対応について>

本年度は、新型コロナウイルスオミクロン株が猛威を振るい、約 2000 件の抗原検査、1000 件を超える PCR 検査を行った。クラスター発生時は、感染拡大防止のため、その日のうちに検査結果を迅速に報告出来るような業務体制が取れた。インフルエンザ流行時は、新型コロナウイルスとインフルエンザウイルスの同時測定キットを使用し、利用者様の苦痛軽減や判定時間の短縮を図った。また、感染拡大に伴い増加する医療廃棄物をスムーズに業者に提出できるよう、診療課職員と協力し、必要時は追加便を依頼して調整を行った。

R4 年 月	健診用検査			白血球数・CRP	血液生化学	検尿・検便	血液ガス分析	心電図	脳波	腹部超音波	迅速診断	新型コロナウイルス抗原	新型コロナウイルスPCR	外注検査
	6 ヵ月	誕生月	外部・入園時											
4	21	25	0	41	16	28	20	16	0	5	0	83	53	79
5	19	24	1	58	31	34	1	17	0	4	0	122	101	93
6	23	23	2	63	38	31	1	22	1	4	0	72	112	102
7	13	14	1	30	20	18	0	7	0	3	0	167	108	64
8	20	26	4	48	32	21	12	25	1	2	1	236	109	130
9	15	15	4	37	27	24	0	26	2	11	4	101	51	115
10	21	21	17	46	25	17	0	25	3	4	0	55	68	110
11	26	23	2	31	20	23	0	21	2	1	1	73	94	94
12	20	18	3	53	30	26	0	12	0	1	1	370	220	83
1	19	15	2	72	25	27	0	10	0	2	2	605	79	93
2	25	19	3	51	29	30	0	33	0	3	36	120	12	138
3	14	14	5	97	37	40	16	14	1	1	79	74	21	146
計	236	237	44	627	330	319	50	228	10	41	124	2078	1028	1247

<出張関係>

令和 4 年度 全国重症心身障害児者施設職員研修会医療技術管理コース

《概況》

医師の処方箋に基づき調剤を行った。令和4年度の処方箋枚数及び調剤数については下表の通りである。

① 令和4年度受付処方箋枚数及び調剤数

外来（千歳、耳納、その他）・病棟（おひさま寮、なかよし寮、ともだち寮）

月	日数	外来				病棟					
		臨時		注射		臨時		定期		注射	
		枚数	剤数	枚数	剤数	枚数	剤数	枚数	剤数	枚数	剤数
4	20	37	55	7	7	1189	1382	95	351	123	123
5	19	28	31	5	5	1249	1265	92	346	288	288
6	22	43	55	36	36	1239	1273	93	346	303	303
7	20	120	70	91	91	850	935	92	337	90	90
8	21	72	57	28	28	1362	1498	92	342	90	90
9	20	60	77	22	22	1162	988	93	343	97	97
10	19	38	57	8	8	1128	1306	92	338	95	95
11	20	47	67	0	0	1261	1345	93	340	163	163
12	21	50	50	29	29	1487	1409	93	340	692	692
1	20	55	47	18	18	1563	1310	92	337	808	808
2	19	53	73	8	8	1427	1258	93	340	377	377
3	22	76	124	5	5	1776	1531	92	342	625	625
計	243	679	763	257	257	15693	15500	1112	4102	3751	3751

★吸入処方、外用剤でカウント

② 医薬品の安全使用のための研修会の実施

医療法に基づき、従業員に対し医療安全、医薬品・薬物に関する事故防止対策、特に安全管理が必要な医薬品などについてビデオ研修を実施した。

③ 薬事審査会

各科先生による新規採用医薬品の申請書提出に基づき審査を行った。
また、医薬品に関する安全性情報などの提供を行った。

④ 救急カートの点検

急変時に必要となる注射薬の期限をチェックし、期限の切れたものについては随時交換を行った。

⑤ 院内感染症対策委員会参加

⑥ 医療安全対策委員会参加

⑦ 褥瘡委員会参加

- ⑧ 給食委員会参加
- ⑨ 新型コロナワクチン予防接種
新型コロナワクチン接種において、ワクチンの保管、温度管理、ワクチンの調製を行った。
- ⑩ 新型コロナウイルス感染症治療薬（ベクルリー点静注用 100mg）の調製を行った。また、病棟での調製に際し看護師が確実に調製を行えるようマニュアルを作成した。

医療部診療課 口腔衛生

《概況》

歯科医師の指導に基づき継続的な口腔管理の実施

ゆうかり医療療育センター（おひさま寮・なかよし寮・ともだち寮）

耳納学園 千歳療護園・第二千歳療護園 外来

受診者総数は下記の通りである。

園内歯科受診者 2022年4月1日～2023年3月31日

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
Dr	67	33	71	53	63	61	70	67	51	43	73	64	716
D.H	104	24	102	130	76	117	115	67	86	103	132	153	1209

Dr（歯科医師） D.H（歯科衛生士）

外来受診者数 2022年4月1日～2023年3月31日

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
	17	19	25	12	28	23	29	27	25	23	25	26	279

- ・本年度も新型コロナウイルス感染症により、耳納学園・コアラ園利用者様の集団検診は中止となる。
- ・外来診察中止期間
4/1～4/3 5/16～5/31 6/30～7/4 12/21～12/31
昨年度と比較すると中止期間は短期間になったが外来利用者様には診察のご希望日に添えない結果となった。

・全身麻酔下歯科治療の為医療機関へ紹介状発行

外来利用者様	聖マリア病院	8名
	福岡歯科大学病院	1名
なかよし寮利用者様	聖マリア病院	1名
	福岡歯科大学病院	1名

- ・本年度は新型コロナウイルス感染症による寮閉鎖が多く利用者様への口腔ケアが大幅に減少した。

歯周病・齲蝕の罹患率も高くなっており進行状態にある。

骨粗鬆症治療薬（プラリア）にて治療されている利用者様にはより口腔内の清潔が求められている。その点からも歯周病・齲蝕の予防は大切である。寮スタッフとの連携が重要で今後もブラッシング指導など口腔内状態を共有していきたい。

看護部看護課

《概況》

新型コロナウイルス感染症発生 3 年目の今年度は、オミクロン株が猛威を振るった。3 寮において、利用者様が罹患しクラスターが発生。多職種が一丸となって拡大鎮静に奔走した。特になかよし寮では、利用者様の特性により感染拡大を阻止することが困難で大規模クラスターとなった。適切な治療により死亡例や重症化例もなく施設内にて療養することができた。職員においても自宅待機等で人員不足を余儀なくされ、平時の日常生活支援や感染対策にも支障が出た。

利用者様の外出や面会の制限はあるが、オンラインや窓越し面会は通常となり、感染発生状況を見ながら日常生活支援を行った。

利用者様の加齢に伴い医療必要度や介護度も高くなってきており、安心安全に生活していただくための、高度なスキルも求められる状況となっている。

また、看護師の離職率が高く、新人職員に対して、メンター制度（精神的なサポートを行う職員を配置）を導入し、取り組みを始めた。

重症心身障害認定看護師の活動として、教育委員会を設置し、新人職員の教育計画を実施していたが、今年度は新型コロナ感染拡大により活動が出来ていない。認定看護師も 1 人増え、今後は感染対策を踏まえた教育方法の改善を検討していく。

*委託入院	久留米大学病院	9件	聖マリア病院	3件
	田主丸中央病院	4件	古賀病院 21	1件
	新古賀病院	1件	大牟田病院	1件
	佐賀整肢こども発達医療センター			1件

*医療ケア

◆ 超重症児	8名	◆ 準超重症児	14名
◆ 気管切開者	17名	◆ 鼻腔カテーテル挿入者	14名
◆ 胃瘻チューブ挿入者	25名	◆ 膀胱瘻	3名
◆ 膀胱カテーテル留置	3名	◆ 人工呼吸器	5名

*インフルエンザ予防接種	130名
インフルエンザ罹患者	0名
*新型コロナウイルス予防接種（4回目）	107名
新型コロナウイルス予防接種（5回目）	100名
新型コロナウイルス罹患者	62名
*その他の感染症	
ヒトメタニューモウイルス	1名
クラミジア肺炎	8名
*骨折	4名
*短期入所者（延）	32名
*日中一時支援利用者（延）	23名

<実習生受入数>

古賀国際看護学院小児実習 看護学生 4G (21名)

*新型コロナ感染対策にてオンライン実習とした。

① 令和4年度 在籍者数（月初日）

令和4年4月～令和5年3月

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
療養	114	114	114	113	114	114	114	115	115	115	115	115
医療	17	17	16	17	16	16	16	15	15	15	15	15
私的	1	1	1	1			1					

② 令和4年度入退園者状況

令和4年4月1日～令和5年3月31日

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
措置入園												
退園				1								
契約入園			1		1			1				
退園		1		1			1					
私的入園						1	1					
退園						1		1				

③ 令和4年度年齢別入所者数

令和5年3月31日現在

年齢 (歳)	0～6	7～12	13～15	16～19	20～29	30～39	40以上	計
措置		2	1	4				7
契約		1	5	4	22	13	78	123
私的								

【なかよし寮】

○ゆうかり基本指針に基づく生活様式と健康管理の呼び掛けを随時行っていたが、12月に寮内で利用者様36名、職員22名が新型コロナウイルスに感染するという大規模クラスターが発生した。

平時からの感染対策の重要性と、感染リスクの警戒を更に強化する必要性があることを学んだ。

クラスターを二度と起こさないために、日頃からの利用者様の過ごし方（ソーシャルディスタンスを保つ）の検討や、感染症マニュアルの更新、周知徹底を来年度の計画に盛り込んでいく。

○類似のインシデント、アクシデントが繰り返されており、十分な解決策が導か

れていない。カンファレンスなどを活用し他職種の意見を取り入れるなどの対策を講じる必要がある。

- 今年度中に導入予定であった機械浴の計画が、コロナ拡大の影響により遅延している。来年度の実現を目指す。
- 個々の職員の自発的な研修参加、各委員会からの情報伝達、ケースの支援内容の充実などについては不十分な面が多く、今後働きかけが必要である。
- レスパイト支援、新規入所へ向けての慣らし利用など、積極的に受け入れを行った。

【ともだち寮】

- 感染症委員を中心とし、新型コロナウイルス感染症発生時の対応や、情報更新の周知徹底を図り、対策に取り組んだが、利用者様の感染が確認された。感染終息後に、アンケートやカンファレンスで意見交換を行い感染症対策に努めた。しかし、年間を通じてアルコール手指消毒剤の使用量が少なく、啓発の在り方を今後検討していく。
- インシデントアクシデント報告を毎週実施し、分析、情報共有、意識向上を行ったがインシデントレポートの提出が少なかった。重大アクシデントにおいては医療安全委員を中心に分析、対策を実施し各課情報共有を徹底した。
- 地域支援事業について、新型コロナウイルス感染症指針に沿い、短期入所は可能な限り受け入れを行った。受け入れ時は、ご家族、利用者様の情報共有を行い、安心してご利用して頂けるように対応した。

【おひさま寮】

- 今年度感染症委員を中心とし、感染症発生時の対応や、新型コロナ感染症対策（寮閉鎖）を徹底した。しかしマニュアル通りに動けないスタッフもおり周知できていないことも分かった。利用者様が新型コロナウイルス感染症に 3 名罹患したが、クラスターに至らず終息した。アルコール手指消毒剤の使用量が目標に達していない、啓発に努めているが意識の向上に繋がっていない。自動手指消毒ディスペンサーの導入。個人携帯ボトルを変更し、啓発に取り組んでいる。職員休憩時間の換気・黙食、環境消毒（アルコールクロス）の徹底に努めた。

○インシデント、アクシデントの報告、分析を行い、情報共有し、特に重大アクシデントにおいてはカンファレンスの時間を利用し、より多くのスタッフが参加でき共通の研修会を行なうことでリスクマネジメント力の向上や看護、介護の知識の向上に努めることが出来た。

しかし、内服や注入において確認不足や思い込みによるアクシデントが続いており、次の業務に対する焦りが影響している。

利用者様の重症化により処方量や内服薬の変更が増加し複雑化している。与薬系の作業負担も大きくなりアクシデントに繋がっていると考える。

○短期入所の受け入れに対し、ご家族や地域事業部との情報交換を行ないご家族、利用者様が安心して利用できるように病棟内の支援体制、関わり方の見直しを行ったが、コロナ以外での感染症や入所者の重症化に伴い受け入れが出来ない事がほとんどであった。

病類別入所者数

令和5年3月31日現在

病名		病名	
脳性麻痺	69	染色体異常	4
低酸素性虚血性脳症	1	脊髄破裂後遺症	1
副腎白質ジストロフィー	1	マーシャルスミス症候群	1
脳損傷後遺症	1	先天性眼球欠損症	1
頭蓋内出血後遺症	2	知的障害	3
化膿性髄膜炎後遺症	2	レット症候群	3
左瘻性麻痺	2	急性脳症後遺症	1
滑脳症	1	インフルエンザ脳炎後遺症	1
てんかん性脳症	1	硬膜下出血後遺症	1
クラインフェルター症候群	1	頭蓋咽頭腫摘出術後下垂体機能不全	1
脳形成異常	1	低酸素性脳症	2
ダウン症候群	2	乳幼児揺さぶられ症候群	1
右中頭蓋窩クモ膜胞	1	心肺停止蘇生後状態	1
麻疹脳炎後遺症	1	脳腫瘍手術後水頭症	1
脳炎後遺症	2	頭蓋骨早期癒合	1
無酸素性脳症	1	頭部外傷後遺症	1
水頭症	3	超低出生体重児	2
MCT 変異による甲状腺ホルモン輸送障害	2	水頭症性無脳症	1
難治性てんかん	1	先天性筋緊張性ジストロフィー症	3
ムコ多糖症	1	筋強直性ジストロフィー症	1
ムコ多糖症Ⅱ型	1	筋緊張ジストロフィー症	2

計 130 名

<出張関係>*すべてオンライン参加

◆令和四年度日本重症心身障害福祉協会全国施設協議会

5/20 看護師 2 名

◆社会福祉施設役職員研修 新任職員研修

5/17, 19 看護師 1 名 5/23, 26 介護士 2 名 5/25, 6/2 看護師 1 名

◆社会福祉施設役職員研修 中堅職員研修

6/21, 22 看護師 1 名、介護士 1 名 6/15, 16 看護師 2 名

- ◆令和四年度感染症予防研修（前期）
7/6 介護士 1 名
- ◆令和四年度ストレスマネジメント研修
7/12 中堅職員コース：看護師 1 名、 7/26 管理職員コース：看護師 1 名
- ◆令和四年度全国重症心身障害児者施設職員研修会「看護師コース」
9/8 看護師 1 名
- ◆第 67 回西日本肢体不自由児施設運営研究大会
9/9 看護師 1 名
- ◆第 39 回九州身体障害者施設研究大会
9/29 看護師 1 名
- ◆令和四年度福祉職員キャリアパス対応生涯研修
11/15, 18 初任者コース：介護士 1 名
- ◆令和四年度全国重症心身障害児者施設職員研修会
10/27 看護管理研究会コース：看護師 2 名
- ◆令和四年度アンガーマネジメント研修
11/25 看護師 1 名
- ◆第 43 回日本重症心身障害福祉協会 西日本施設協議会
11/17, 18 看護師 2 名
- ◆令和四年度感染症予防研修（後期）
12/10～23 動画配信 介護士 1 名
- ◆令和四年度福岡県相談支援者現任研修 更新者コース
1/23, 24, 2/27 看護師 1 名
- ◆令和四年度福祉サービス苦情解決従事者研修会
2/1～14 動画配信 看護師 1 名
- ◆令和四年度福岡県障がい者虐待防止・権利擁護指導者養成研修 管理者等コース
2/17 看護師 1 名
- ◆令和四年度福岡県身体障害者施設協議会第 2 回施設長・職員研修会
3/27 看護師 2 名
- ◆日本重症心身障害福祉協会認定 九州地区重症心身障害看護師（7 期生）研修が
終了し、認定を受ける。
看護師 山下沙由美

育成部

《概況》

令和4年度は、前年度以上に新型コロナウイルス感染症による影響で、寮の閉鎖期間、及び居室での個別対応期間が長くなり、十分な支援の提供ができなかった。法人全体での行事（盆踊り花火大会、運動会）は、開催中止の為、各寮内でのレクリエーション会を計画実施した。又、寮内での行事（花祭り、端午の節句、七夕、クリスマス会、節分、雛祭りなど）、個別の活動（趣味的）、グループ活動、ドライブ外出などを計画実施した。8月には当センター敷地内において、寮単位での花火大会を実施した。

次年度も利用者様方へ楽しみ喜びの提供を継続的に計画実施する。

【なかよし寮】

（生活援助）

本年度は、コロナ感染対策の為、利用者様には思うように活動提供が出来ず、前半は殆ど活動を行えず午前ドライブや散歩が中心だった。後半は、一洗庵(湯布院)外出や買い物外出など少しずつ外出活動を行った。

学校を卒業した利用者様には、全体活動（午前活動・午後レクリエーション）や個別活動（生花教室）・趣味活動（ゲーム・DVD鑑賞）等の内容を工夫して実施した。又、寮単独での花火大会やお楽しみ会を開催した。

就学児の利用者様には、土曜日午後ドライブを行った。更に、特別支援学校との連携を密に行い、学業の向上と学校生活の充実に行えるようにし、特別支援学校に登校出来ない時などは、オンライン授業等を行い学校生活が充実に行えるようサポートした。

（センター外活動）

一洗庵外出	11/18（金）	6名
午前買い物外出	2/20（月）	3名
午前買い物外出	2/21（火）	3名
午前買い物外出	2/27（月）	3名
一洗庵外出	3/16（木）	7名
一洗庵外出	3/23（木）	6名
土曜午後ドライブ	月に2～3回	学童児

(センター内活動)

花祭り	4/ 9(土)	全員参加
端午の節句	5/ 7(土)	全員参加
七夕	7/ 9(土)	全員参加
お楽しみ会	8/24(水)	全員参加
なかよし寮花火大会	10/ 5(水)	全員参加
クリスマス会食事会	12/14(水)	全員参加
クリスマスプレゼント渡し	12/28(金)	全員参加
成人を祝う会	1/11(水)	学卒参加
節分	2/ 4(土)	全員参加
ひな祭り	3/ 5(土)	全員参加
還暦を祝う会	3/15 (水)	全員参加
誕生会	第3 土曜日	全員参加

(ボランティア・慰問) コロナ対策の為、中止

生花教室 (職員対応で開催)	毎月第3 水曜日	希望者
----------------	----------	-----

【おひさま寮】

(生活援助)

おひさま寮では、今年度もコロナ感染症で昨年度以上に制限の多い生活となった。園外活動については、コロナ感染者の感染対応が続き、希望外出はほとんどできなかった。土曜日のドライブ外出は、感染者が少ない時期には実施することができた。園内活動は居室対応も多く、みんなでの活動は制限されたが、季節の行事や、お楽しみ会など居室対応でも楽しんでいただけるよう、工夫を凝らして実施することができた。就学児童の学校登校や、訪問教育においてはほとんどがリモート授業での対応となった。面会等は、短時間での窓越し面会、リモートの活用で対応をした。コロナ対策を実施しながら制限が続く環境の中でも、利用者様が安全に安心して、少しでも穏やかに楽しく生活していただけるよう支援した。

(園内・外活動)

花祭り	4/9 (水)	(全員)
誕生会	4/20 (水)	(全員)
端午の節句	5/11 (水)	(全員)
誕生会	5/21 (土)	(全員)
誕生会	6/15 (水)	(全員)
七夕	7/6 (水)	(全員)
おたのしみ会	8/23 (水)	(全員)
花火大会 (寮内)	9/28 (水)	(全員)
お楽しみ会	11/4 (金)	(全員)
買い物外出	11/24 (木)	(2名)
クリスマス演芸会・食事会	12/14 (水)	(全員)
クリスマスプレゼント渡し	12/23 (金)	(全員)
節分	2/1 (水)	(全員)
ひな祭り	3/1 (水)	(全員)

毎月の誕生会 (7月より、第3週土曜日)

(その他主な活動)

毎月第3土曜日誕生会(全員参加)	集団レクリエーション(月3回)
理容(2ヶ月1回程度)	音楽活動(日常的)
居室内レクリエーション(月2回)	
ドライブ外出(第3土曜日以外の土曜日)	

【ともだち寮】

(生活援助)

コロナウィルス感染症対策により活動が制限された中で利用者様が健康・安全に生活出来る事を最重点におき活動計画を実施した。

センター内行事活動は全体で実施する事が中々困難であり、各居室単位で行う等の工夫が必要とされた。また個別支援計画等の活動については、各居室ごとに余暇活動を中心として利用者様を支援した。

センター外行事活動については、多くの制限がある中でも実施出来る場合はドライブ外出、買物外出を短時間ではあるが利用者様が喜んで頂けるよう実施する事が出来た。

寮内の清掃・消毒及び感染マニュアルに沿った業務は、昨年度同様継続した。

(園外活動)

- | | |
|----------------|----------------|
| (1) 午前ドライブ外出 | 年/一人 5 回程度 |
| (2) 午後買物ドライブ外出 | 年/一人 2 回～3 回程度 |

(全体行事)

- | | | |
|----------------|-------------|-----------|
| (1) 花祭り | 4/6 (水) | 全員参加/居室単位 |
| (2) 端午の節句 | 5/11 (水) | 全員参加 |
| (3) 七夕祭り | 7/6 (水) | 全員参加/居室単位 |
| (5) お楽しみ会 | 9/28 (水) | 全員参加 |
| (6) 花火大会 | 10/5 (水) | 全員参加/居室単位 |
| (7) 食事会 クリスマス会 | 12/14 (水) | 全員参加/居室単位 |
| (8) 節分 | 2/1 (水) | 全員参加/居室単位 |
| (9) ひな祭り | 3/1 (水) | 全員参加 |
| (10) 茶話会 | 3/22 (水) | 全員参加 |
| (11) 生花教室 | (毎月第 2 火曜日) | 対象者/居室単位 |
| (12) 誕生会 | (毎週第 3 水曜日) | 全員参加/居室単位 |
| (13) グループ活動 | (毎週 月～金) | 居室単位 |

(その他)

- | | | |
|-----|-------|---------|
| 理容日 | (偶数月) | 全員/居室単位 |
|-----|-------|---------|

【出張・研修関係】

- R4. 5. 17・19 令和4年度社会福祉施設役職員研修
- R4. 5. 23・26 『新任職員研修』(Web研修)
ゆうかり医療療育センター内 保育士2名
- R4. 6. 15・17 令和4年度社会福祉施設役職員研修
- R4. 6. 21・22 『中堅職員研修』(Web研修)
ゆうかり医療療育センター内 育成員1名、保育士2名
- R4. 6. 20 福岡県身体障害者施設協議会
令和4年度『第1回研修委員会』(Web研修)
ゆうかり医療療育センター内 育成員1名
- R4. 6. 30 令和4年度『第1回施設長研修会』(Web研修)
ゆうかり医療療育センター内 育成員1名
- R4. 7. 27 令和4年度
- R4. 8. 2 『福岡県サービス管理責任者又は児童発達支援管理責任者更新研修』
- R4. 8. 10 (Web研修) ゆうかり医療療育センター内 育成員2名、保育士1名
- R4. 8. 22 福岡県身体障害者施設協議会 令和4年度『第2回研修委員会』
(Web研修) ゆうかり医療療育センター内 育成員1名
- R4. 9. 9 『第67回 西日本肢体不自由児施設運営研究会』(Web研修)
ゆうかり医療療育センター内 育成員1名、保育士1名
- R4. 9. 17 『地域サポート研修会(成年後見制度編)』(Web研修)
ゆうかり医療療育センター内 保育士1名
- R4. 9. 20・21 令和4年度『強度行動障害支援者養成研修』【基礎研修・実践研修】
- R4. 5. 26・27 (Web研修) ゆうかり医療療育センター内 育成員1名
- R4. 9. 27 令和4年度『第1回施設長・職員研修会』(Web研修)
ゆうかり医療療育センター内 育成員1名、保育士1名

- R4. 9. 29 令和4年度『第39回九州身体障害児者施設研究大会』(Web研修)
ゆうかり医療療育センター内 保育士1名
- R4. 10. 24・26 令和4年度
『福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程中堅職員コース』
(Web研修)
ゆうかり医療療育センター内 育成員3名
- R4. 10. 27・28 令和4年度
『福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程初任者コース』
(Web研修)
ゆうかり医療療育センター内 保育士1名
- R4. 12. 8 令和4年度 全国重症心身障害児者施設職員研修会
『保育士・児童指導員(療育職員)コース』(Web研修)
ゆうかり医療療育センター内 育成員1名、保育士1名
- R5. 2. 7 令和4年度『説明力向上研修』(Web研修)
ゆうかり医療療育センター内 育成員1名
- R5. 3. 1 令和4年度『業務目標の設定・管理・達成研修』(Web研修)
ゆうかり医療療育センター内 保育士1名
- R5. 3. 27 令和4年度『第2回施設長・職員研修会』(Web研修)
ゆうかり医療療育センター内 保育士3名

【実習生の受け入れ】

新型コロナウイルス感染症対応の為、受け入れを中止した。

《概況》

2022年度は心理療育部として、一般生活援助業務との一部兼務で心理的援助活動を業務指針に基づき展開した。主な内容は、利用者の日常生活の観察、触れ合い並びに治療・検査場面を通じて心理的関係性をつくることである。また重症児・者に対しては、個としての尊重を基本として業務を行った。

地域支援としては、子どもの発達や母親の子育てなどの心理相談の要請に対し、市町村と連携・協力しながら、子育て・家族関係・就園・就学、そして発達についてなど心理支援を実施した。それに伴い、外来診察及びコアアライメント利用案内さらに来所にての心理相談や外来での心理療育につなげるケースも増加した。保育所等への支援については、定期的な巡回相談が始まった地域においては、それ以前に比べ、小学校への就学委員会での保護者様と学校のよりよい共通理解が図られ、就学案内がスムーズになったとの好評価も得ている。さらに、その他の地域においても、個々の対象児ごとに必要に応じて療育場面の見学や関わり方の方向性など、それぞれの保育所等との情報交換もニーズに応じて行った。

《心理療育・相談援助の内容》

「落ち着いているか」「安心しているか」を治療の基点として「人と関われるか」「関わりは適切か」更に「楽しんでいるか」「喜んでいるか」との相互機能関係により個々のニーズに応じ、絵画表現療法、抱っこ法・タッチケア、遊戯療法・行動療法、カウンセリング、感覚統合法、知育活動、音楽療法などを施行した。

心理的関わりの中で、寄りかけられる存在として、日常の触れ合い、遊び、介護、その他を通じての信頼関係作りが主要テーマである。

地域における相談活動においては、二人一組で親子の相談に対応する事を基本として、限られた時間の中でいかに波長を合わせ、行動・状況の背景理解を図り、悩み・心配・不安に寄り添い、より具体的対応や共感的援助をしていけるかを目標に、心理判定並びに相談を行った。

「なかよし寮」

- ① 遊びを媒介とした自己表現（投影・情緒解放）
- ② 発達援助＝知育活動（情緒安定を基盤とした認知学習）・感覚運動
- ③ 面談援助 解決→解消（うなずく・聴く・心の汲み取り・共感・発散・個としての尊重）
- ④ 困った行動（表現として捉える）癖・攻撃・熱発・下痢・身体表現等の理解
- ⑤ 音楽療法（集団／個別）
- ⑥ 散歩（寮内・園内・園外）
- ⑦ タッチケア・マッサージ

- ⑧ 知能検査・発達検査
- ⑨ 介護支援

「おひさま寮・ともだち寮」

- ① 多動・興奮行動への対応 散歩法 「エネルギーの解放」
- ② 面談（心のエントツそうじ・表出能力に応じた受けとめ）
- ③ 音楽療法（集団／個別）
- ④ 介護支援
- ⑤ タッチケア、絵本、絵カード、語りかけなど「いい表情づくり」活動
「集団の中での個としての尊重」
- ⑥ 知能検査・発達検査

「児童発達支援センター コアラ園」

コアラ園のスタッフと連携し、地域支援を行った
コアラ園の療育として集団での音楽療法も実施

「外来療育」

心理療育部における外来療育は、増加しつつある発達障害（自閉症スペクトラム障害、注意欠如多動性障害、学習障害など）に対する心理的発達支援を行うと共に、心因反応としての神経性習癖（チック、吃音、緘黙など）や、不登校を含む子育て不安などへの精神保健的相談・療育を行った。それらの中に、診察待ち期間の療育・相談、コアラ園の前段階としての外来での個別療育のケースなどを含めた多様な外来療育のニーズに対応させていただいている。

本年度は、新型コロナウイルス感染症自粛期間5月16日～5月31日、6月30日～7月4日、12月21日～12月29日まで、外来療育を中止した。

※上記の新型コロナウイルス感染症予防対策自粛期間中は、病棟にて利用者様との関わり、部内の勉強会や遊具の修理、電話による相談業務などを行った。

《治療対象児・者》

日常の行動特徴、生育歴、身体障害の程度、家庭環境などから、精神的サポートの必要性を吟味しその障害の質に応じて、下記人数に対し、定期的あるいは不定期的に心理支援を行った。心理的対応の特殊性から、臨時・緊急の場合も多く、他職種や地域の関係者との連携をもとに対応を行った。

※短期利用者を含む

単位：名

	なかよし	おひさま	ともだち	合計
治療対象児・者※	44	41	45	130

《音楽療法対象児・者》

入所においては表出能力に困難のある利用者を優先的に、必要性に応じて下記人数に対して行った。コアラ園では一療育として集団での実施を、外来においては、医師の指示または保護者からの要望に応じて対応を行った。

単位：名

	なかよし	おひさま	ともだち	コアラ	外来	合計
音楽療法対象児・者	37	40	34	7	9	127

《心理検査》

知能検査と発達検査は定期的に行い、その他の検査、評価は必要に応じて行った。本年度は、特別児童扶養手当・障害者福祉手当の申請に伴う検査や、保護者からの検査依頼が多かった。実施数は下記の通りである。

単位：名

	なかよし	おひさま	ともだち	外来	地域
発達検査	6	6	3	1	1
知能検査	5	0	0	46	4

《地域支援》

地域支援事業は市町村の母子保健活動と連携して展開してきたが、保育所等とも情報交換・共通理解に努め、相互の子ども支援に有効に機能した。今後も地域の信頼に適確に応えていく事業展開を目指したい。

2019年度より、久留米市において、市役所での乳幼児健診が追加され、年2回、土日の日程で行われた。

※災害や、新型コロナウイルスの影響で、実施中止となった日程がある。

朝倉市	1歳6ヵ月児健診		計16回 対象者274名うち相談者31名 別件17名	
	3歳児健診		計12回 対象者310名うち相談者25名 別件12名	
	朝倉・杷木健診		計5回 対象者29名うち相談者9名 別件2名	
	にこにこども相談		計6回 相談者22名	
うきは市	1歳6ヵ月児健診		計6回 対象者214名うち相談者13名 別件7名	
	3歳児健診		計4回 対象者170名うち相談者10名 別件7名	
	すくすく発達相談		計14回 相談者39名	
	保育所等巡回相談		計38回 (うち電話対応8回)	
久留米市	田主丸町	1歳6ヵ月児健診	計4回 対象者38名うち相談者8名	
		3歳児健診	計4回 対象者52名うち相談者15名	
		ママパパ気持ち楽々相談	計2回 相談者4名	
	北野町	1歳6ヵ月児健診	計3回 対象者37名うち相談者8名	
		3歳児健診	計4回 対象者63名うち相談者17名	
		ママパパ気持ち楽々相談	計2回 相談者5名	
	三瀬町	1歳6ヵ月児健診	計4回 対象者29名うち相談者7名	
		3歳児健診	計4回 対象者56名うち相談者18名	
		ママパパ気持ち楽々相談	計2回 相談者5名	
	城島町	1歳6ヵ月児健診	計3回 対象者21名うち相談者5名	
		3歳児健診	計4回 対象者38名うち相談者11名	
		ママパパ気持ち楽々相談	計1回 相談者3名	
	南部	1歳6ヵ月児健診	計5回 対象者74名うち相談者11名	
		3歳児健診	計5回 対象者135名うち相談者30名	
		ママパパ気持ち楽々相談	計2回 相談者5名	
	市役所	1歳6ヵ月児健診	計1回 対象者16名うち相談者6	
		3歳児健診	計1回 対象者30名うち相談者6	
	北筑後保健福祉環境事務所		乳幼児発達診査事業	計2回 相談者4名
	その他の相談対応		電話	17件
			メール	0件
			来所	20件
			訪問	0件
	診察案内※1		66名 (再診含む)	
	わいわい学級		7/18回	のびのび相談会 3回
外来利用児総数		45名	外来心理療育回数 868回	
情報提供書作成数※2			65件	

※1：年度内に診察に至った方のみ（年度内に診察の予約をした方は省く）を計上。

（診察予約は、すでに令和6年1月まで入っている状況）

※2：①診察に案内した対象児の発達状況や経過を記入した医師への
情報提供書

②保護者への心理判定報告書。

③就学に向けて、就学委員会への（保護者を通して）情報提供書。

④それぞれの寮への心理判定報告書。

⑤転勤等の異動による、他の専門機関への情報提供書
（保護者渡し）。

《実習生関係等》

公認心理師の国家資格を定めてその業務の適正を図り、もって国民の心の健康の保持増進に寄与することを目的として、平成29年9月15日に、公認心理師法が施行された。それに伴い、大学院のカリキュラムが変更になったことにより、厚生労働省と文部科学省から、公認心理師要請に係る実習生の受け入れの協力依頼を受けて、2019年度より、久留米大学心理学研究科臨床心理学専攻（大学院）の学生の実習指導を行っていたが、令和4年度においてはコロナウイルス感染症拡大の為中止となった

《参加出張》

- ・令和4年度 うきは市乳幼児健診実務者会議（11月9日）

《講演会等》

- ・4月25日 両築ブロック保健師研究会議
- ・9月12日 久留米市保育所連盟 テーマ指定研修会の講演会

訓練部

《概況》

医療訓練部門における訓練は、すべて医師の処方に基づき個別で実施し、診療報酬は脳血管疾患等リハビリテーション料（I）、運動器リハビリテーション料（I）および障害児（者）リハビリテーション料1・2・3で算定請求した。入所部門において6月、9月、12月、3月、リハビリテーション総合実施計画書を作成した。計画書の説明や交付手順

は郵送形式とし、返信用ハガキで同意の返事があった方について、リハビリテーション総合計画評価料を算定した。

コアラ・外来部門は、土曜日の利用者様など診察の機会そのものが取れない方もいるため、リハビリテーション総合実施計画書の説明をセラピストが行い、その内容を主治医に確認していただき交付した。

毎月第 2 火曜日に医師、看護師、保育士、心理士、栄養士および訓練士（PT・OT・ST）のスタッフが出席して、リハビリテーション部門カンファレンスを開いている。今年度は、新型コロナウイルスの影響で 10 月・11 月・2 月・3 月の 4 回のみ開催であった。内容として、各寮の利用者様の個別カンファレンスを実施した。

訓練は、利用者様の潜在能力や可能性ならびにモチベーションなど多方面から対象児（者）のニーズを見極め、個別に計画を立てて行なうものである。特に、乳幼児期を担当するスタッフは、成長や発達全体を深く理解し、幅広く支援する能力が必要である。そこで、児童発達支援センター契約者に対して、発達全体の手助けおよび保護者の指導を目的に、PT・OT・ST が密に保護者とコミュニケーションがとれるよう集団でのリハビリテーションではなく、個別のリハビリテーションで対応した。

関節の拘縮や変形、異常筋緊張、呼吸問題など生活全般に問題を抱えている重度の障がい児（者）に対して、独自の姿勢保持具を作製し活用するとともに、他部署の職員に対しても姿勢管理や呼吸理学療法（スクイーピング）・移動・移乗・食事介助などの方法について、イニシアチブを取りアプローチすることで利用者様の生活の質（以下 QOL）の向上につなげた。さらに摂食・嚥下機能に問題のある利用者様に対して、嚥下食を導入し、安全で楽しい食事時間の提供を行っている。

今年度も、新型コロナウイルスの影響で病棟と外来の兼任が不可。また、病棟閉鎖時の訓練中止や外来訓練中止など、診療報酬の減額が著明となった。

各部門の報告は以下に示す。

● 理学療法

【なかよし寮】

対象 44 名に対し、理学療法士が 2 名（ほぼ専任制）で、年間訓練実施単位数は 5,504 単位であった。今年度も、新型コロナウイルスの影響で訓練自体ができないことが長期間あり、訓練実施単位数が減少した。対象児（者）の疾患は、脳性まひなどの中枢性運動障がいを中心として、重度の運動機能障がいおよび重度の知的障がいの重複、精神運動遅滞、ダウン症候群、筋ジストロフィーなどである。

訓練内容は、個々のニーズやレベルに合わせた目標を設定し、基本動作訓練、移動動作訓練、筋力増強・関節可動域（以下 ROM）訓練、日常生活動作（以下 ADL）訓練などを実施したが、病棟閉鎖によって居室で訓練を実施する時間が多くなり、歩行訓練や筋持久力訓

練などを実施することができず、利用者様の体力が低下してしまうことがあった。

個人に合わせたクッションや車椅子の作製・修理を行うことで姿勢管理に努め、勉強会などを実施し各部署と情報を共有した。また、短期入所の利用者様に対して他部署の相談にも随時対応を行った。

【おひさま寮】

対象 41 名に対し理学療法士 2～3 名で実施し、年間訓練実施単位数は、4702 単位であった。

対象児（者）は、重度の運動機能障がいおよび重度の知的障がいを重複している人が多く、生活のあらゆる場面において介助が必要である。ベッド上でも非対称な姿勢になることが多く、姿勢の管理や変形・拘縮を防ぐことが重要である。また、近年は加齢に伴い呼吸機能、嚥下機能の低下が見られる利用者様も多く気管切開、胃瘻造設術を施行された方が増加している。人工呼吸器などを使用した呼吸の管理が必要な利用者様も少しずつ増えてきており、日常のリスク管理は非常に重要となっている。

訓練内容として、変形・拘縮の予防のため ROM 訓練を中心にマッサージ、リラクゼーションを行なった。また、人工呼吸器や気管切開の利用者様の呼吸状態の安定を図るためにポジショニング、排痰や呼吸介助（スクイーピング）などの理学療法を行った。動くことができる利用者様には床上でのローリング移動や歩行訓練、立ち上がり訓練、立位保持訓練、遊具を使用した運動などを積極的に行なった。毎年 1 回、個人の身体機能面の評価として ROM の計測を実施し、前年の数値と比較検討し利用者様の生活に活かされるよう取り組んだ。

姿勢管理に関して個々の利用者様に適合した車椅子や姿勢保持器具の検討・作製を行い、リラクゼーション・排痰・側彎変形・拘縮の進行予防に努めた。また、病棟職員に対して各場面に応じた姿勢介助について寮内研修、個別的な指導を行った。

人工呼吸器を使用している利用者様や感染症の利用者様は、居室から出る機会が少なくいろいろな面で活動範囲が制限されているため、人工呼吸器を装着した状態で車椅子散歩や感染症利用者様には外気浴など、できる活動範囲内で楽しみを見つけ実施した。

新型コロナウイルス感染症の流行のため訓練を行う機会は昨年より更に減少した。そのため、利用者様の機能低下は所々に認められるが可能な範囲の中で QOL が低下しないように努めた。

【ともだち寮】

全利用者様 45 名の内 42 名に対し、理学療法士 1 名（12 月中旬～下旬においては、新型コロナウイルス蔓延による外来中止のため、2 名で実施）で行い、年間訓練実施単位数は 2,194 単位であった。対象児（者）の疾患は、脳性麻痺や水頭症、化膿性髄膜炎後遺症などの中枢神経系の異常による運動障がいおよび知的障がい、筋強直性ジストロフィー、染色体異常などであった。

訓練内容は、拘縮・変形の進行防止のための関節可動域訓練や、筋緊張緩和のためのリラクゼーション、筋力増強訓練を兼ねた半介助での移乗動作の反復練習、姿勢保持訓練、歩行や車椅子駆動などの自力移動訓練を中心に行なった。骨折の症例に対しては、褥瘡予防を目的としたクッションを作製した。

令和4年度のともだち寮専任の理学療法士は1名であり、利用者様1名あたりの理学療法頻度は少なく、およそ週1回となった。さらに病棟閉鎖による訓練の減少あるいは中止が重なったことで、運動量の低下に基づく関節可動域の狭小、筋力低下ならびに基本動作能力の低下、移動能力の低下、また利用者様ご本人からの身体の痛み・不調の訴えが多くみられた。

訓練が実施できる期間は、各利用者様に聞き取りや様子観察をしながら、運動量低下によるブランクからの回復に努めた。特にブランクが大きい利用者様については、OT・STの協力により歩行などの運動の機会を増やすことができ、今現在（令和5年3月下旬）では多くの方が回復することができている。ただし一部の利用者様においては、未だ歩行能力が十分戻っていないケースや、自力移動に対するモチベーションが低下したままのケースがあるため、次年度も働きかけを継続していく。

● 作業療法

【なかよし寮】

対象者48名に対して、なかよし寮担当作業療法士1名と外来兼任の作業療法士3名（短期間のみ）が週1～2回個別で行い、年間訓練実施単位数は3002単位であった。昨年度に引き続き今年度も、新型コロナウイルスの影響による病棟閉鎖、病棟業務の補佐に入ることもあり、計画したように訓練を行うことのできない期間も長くあった。

対象児（者）の疾患は、脳性麻痺などの中枢性運動障がいを中心として、重度の運動機能障がいおよび重度の知的障がいの重複、精神運動遅滞、ダウン症候群、筋ジストロフィーなどである。

訓練内容は、身体機能面（特に上肢機能）の向上および維持を目的に、ROM訓練やマッサージ、リラクゼーション、玩具や感覚遊び、作業活動を媒介としたアプローチを行なった。退園が予想される利用者様には、他職種と協力しながら身辺自立に向けた取り組みやコミュニケーション上の課題を共有した取り組みも行ってきた。

本年度は新型コロナウイルスの感染状況を確認しながら訓練室を利用してのリハビリを中心に行うことができていたが、時には病棟内や居室内などの限られたスペースで作業療法を行うこともあった。移動や活動が制限された中でも楽しみや制作活動、運動能力の維持などに努めた。

音楽療法は、感染状況を鑑みながら数回実施することはできたものの継続的な取り組みには至らなかった。

【おひさま寮】

対象 41 名に対して、作業療法士 1 名が週 1～2 回個別で実施し、1 月から外来へ異動となったため、12 月までの年間訓練実施単位数は 2,729 単位であった。対象児（者）の疾患は、脳性麻痺や水頭症などの中枢神経系の異常による重度の運動機能障がいや重度の知的障がいの重複などであった。視力障がいや嚥下障がい、加齢にともなう身体機能の低下や変形・拘縮など、それぞれ多岐多様な問題を抱えており症状も重度化している。また、人工呼吸器での呼吸管理や経管栄養が増えており、リスク管理は非常に重要である。

訓練内容として、身体機能の維持のため ROM 訓練や ADL 訓練（食事動作や姿勢管理および環境調整など）、精神面の安定を目的に集団活動、感覚訓練（スイングやスヌーズレンなど）を行った。また、利用者様のほとんどが寮内での生活が中心となっているため、屋外への散歩や日光浴を行うことで環境の変化による感覚的な刺激を経験し、四季の変化を感じてもらった。特に人工呼吸器、感染症の利用者様は、居室から出る機会が少ない状況であったため、PT・ST と合同で人工呼吸器を使用した状態で車椅子移動や感染症で活動制限がある利用者様も可能な範囲内で楽しみ活動（音楽療法や日光浴など）を実施した。

寮内での活動として、その時期にちなんだ作品を制作した。セラピストが介助しながらできる範囲で作業に参加してもらい、全員で一つの作品を作り上げ居室や多目的ルームに展示した。

今年度も新型コロナウイルスの影響により居室対応となる期間が長く、限られた空間での訓練が多かった。また、職員の人員不足の影響で、リハビリ以外の業務（生活支援や感染症対策による環境整備、検査のサポートなど）も他部署と連携をとりながら行った。そのため訓練ができる状況も減り、音楽療法や集団活動、屋外散歩、日光浴などは限られた回数・期間でしか行うことができなかった。

【ともだち寮】

対象 45 名に対し、作業療法士 2 名（10 月より 1 名増員）で週 1～2 回実施し、年間訓練実施単位数は 3,750 単位であった。対象児（者）の疾患は、脳性麻痺や水頭症、化膿性髄膜炎後遺症などの中枢神経系の異常による運動障がいおよび知的障がい、染色体異常などであった。利用者様の高齢化や新型コロナウイルス感染症による病棟閉鎖期間がふえたことにより、活動量が低下し、身体機能の低下や変形・拘縮もあり、ADL 動作の低下が見られている。

訓練内容として、身体機能や ADL 動作、認知機能の維持および向上、情緒の安定やリラクゼーションを目的に、ROM 訓練や食事訓練、散歩や感覚遊び、制作活動、集団活動などを行なった。

個別活動として、四肢の ROM 訓練やリラクゼーション、パソコン操作や個々のニーズに合わせた様々な活動を行い、利用者様の楽しみや達成感、他者からの称賛などを通して自己実現につなげた。

集団活動では、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、他寮の利用者様と合同で実施することができなかつたので、同じ病棟内の保育士と合同でオイルマッサージやアロマオイルを用いたリラクゼーションを促す活動などを行い、他職種と連携しながら利用者様同士の交流や楽しみの共有、ストレス軽減に努めた。

また、本年度も新型コロナウイルス感染症による病棟閉鎖期間に職員の人員不足により病棟訓練を一時中止し、他部署と協力し生活支援を行った。

● 言語聴覚療法

【なかよし寮】

対象者 48 名に対し、病棟専任言語聴覚士 2 名（6 月から 1 名増員）と外来兼任言語聴覚士 3 名（一時的に稼働）が必要性に応じて週に約 1～3 回実施した。年間訓練実施単位数は 4,522 単位であった。

対象児（者）の疾患は、脳性麻痺などの中枢性運動障がいを中心として、重度の運動機能障がいおよび重度の知的障がいの重複、精神運動発達遅滞、ダウン症候群、筋ジストロフィーなどである。

訓練内容として、重度知的障がいを認める利用者様に対しては、スキンシップ、おもちゃ遊び、歌遊び、音遊び、楽器遊びなどを通じ、聴覚・視覚・触覚などの感覚を用いて、感覚・認知やコミュニケーション（理解面・表出面）の発達を促し、心理的安心感や精神的安定性を育てる関わりを行った。

言語発達障害を認める利用者様には、絵本の読み聞かせや音読、および絵カードなどを用いた呼称やマッチング、読解や説明課題、書字課題、構文課題などといった机上課題に加え、お絵かきやぬり絵、パズルなど、遊びを通じた認知機能へのアプローチも行なった。また、オセロや卓上ゲームでのやりとり遊びなど、発達段階に応じたプログラムで言語機能とコミュニケーション能力の発達を促した。

発声発語障がいや構音障がいを認める利用者様に対しては、発声発語器官を中心としたリラクゼーションや運動、また、発声訓練や音読、構音訓練を行った。

摂食嚥下機能障がいを認める利用者様に対しては、棒付きキャンディーやスナック菓子などを用いた直接訓練、間接訓練、咀嚼訓練などを行った。その結果、食形態アップが可能となったケースもあり、QOL の拡大につながった。また、特に食事介助に注意を要す利用者様をピックアップし、食事介助法の検討を行い、病棟内で安全な介助法のレクチャーを行った。

今年度は、訓練の実施場所として本館 PT 室を使用することとなった。しかし、新型コロナウイルス感染症による病棟閉鎖措置が断続的かつ長期に及んだことで、居室内での訓練に留まったり、病棟業務の補佐のために訓練を中止したりする事態が多くあった。それにより、訓練内容や使用教材は限られたものになった。

行事の中止や居室対応など、学園生活におけるコミュニケーション機会が減少する中、

訓練の一環としての自由会話は、コミュニケーション機会の担保とコミュニケーション意欲の維持という点においても重要な役割を果たした。

【おひさま寮】

利用者様 41 名に対して病棟専任言語聴覚士 1 名と一時的に外来兼任言語聴覚士数名で週 1～5 回個別に実施した。年間訓練実施単位数は 2,457 単位であった。

対象の病名・障がい名としては、脳性麻痺、精神(発達)遅滞などを中心とした身体障がいと知的障がいを併せ持つ重度の重複障がいである。

訓練内容は、口腔機能訓練（口腔とその周辺のケアや活性化を含む）、摂食嚥下訓練、発声発語器官に対して筋刺激訓練やマッサージ、ストレッチ、リラクセーション、構音訓練、言語発達を促す訓練、コミュニケーション訓練、音声や音楽を用いた聴覚的な刺激による訓練などを行った。

摂食嚥下に関して、広く摂食嚥下に関係する器官に対しての感覚訓練、筋刺激訓練、マッサージ、ストレッチ、脱感作や味覚学習などの口腔内感覚の改善、食物を直接用いない間接嚥下訓練、摂食嚥下機能の維持・改善訓練。介助法の改善、食形態の調整、座位姿勢の調整、他職種に対して情報の伝達などを行った。これらを通じて摂食・嚥下機能の維持および向上を目指し、安心して快適にスムーズに食事ができるための支援を行った。おひさま寮の最重度の心身障がい児（者）に対して、リラックスした楽しい関わりの中で、心地のよいスキンシップなどの接触刺激・聴覚的刺激・視覚的刺激や身体的感覚などを充足させるアプローチを通して、心身が満たされ、ゆったりと落ち着くことができるような関わりを持ち、感覚・認知・理解面の成長を促し、iPad やパソコンなどの機器も用いて、重度心身障がい児（者）でも楽しめる機能を使って発達を促し生活の充実を図った。

呼吸器系障がいに対しては、排痰、口腔内清掃やマッサージなどによる口腔器官の活性化を行った。呼吸器や関連する器官の環境を整え、できる限り現在の状態を維持または改善して穏やかに生活できるよう支援を行った。

今年度も新型コロナウイルス等の感染防止対策として利用者様の居室外行動の制限および、職員の入室制限期間が長期間あり、利用者様による訓練回数の偏りが生じた。

【ともだち寮】

利用者様 45 名に対し、言語聴覚士 2 名(1 名は 10 月より途中配属)が必要に応じて週に約 1～3 回個別にて実施した。年間訓練実施単位数は 3,300 単位であった。

対象児（者）の疾患は、脳性麻痺や水頭症、化膿性髄膜炎後遺症などの中枢神経系の異常による運動障がいおよび知的障がい、染色体異常などであった。

訓練内容は言語面に関して、言語表出が困難な利用者様に対し、代償手段の活用としてコミュニケーションボードの作成、パソコン・スイッチの使用をおこなった。

新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、利用者様の行動制限が長引く状況となっ

たため、居室での PC での余暇活動支援を重点的に行った。コロナ禍においても、家族や園外の人とのコミュニケーションを楽しめるよう支援を行った。

摂食・嚥下に関して、直接的な摂食訓練のほか、適切な介助法の定期的な見直し、姿勢調整、食形態の検討、使用する食器具の検討などを行った。誤嚥性肺炎後や胃ろう増設をされた利用者様には集中的に口腔ケアなどのアプローチを行った。さらに介助方法を病棟スタッフへ伝達、誤嚥性肺炎の予防に力を入れた。経管栄養の利用者様へは、口腔機能の維持や肺炎予防を目的とした口腔ケアや顔面マッサージなどの間接的訓練をおこなった。

音声言語面に関して、口腔体操や基礎的な構音訓練を通して発声発語器官の運動を実施した。また、カラオケやニュース原稿の朗読を行い、楽しみながら発声できるよう支援した。

今年度も新型コロナウイルス感染対策対応により、一時的に居室への入室制限、機器の使用の制限があった。また、クラスターも発生し、感染拡大傾向にあったため、訓練中止をせざるを得ない状況もあった。その際は他部署と連携し、利用者の日常生活支援に努めた。

『コアラ園及び外来』

● 理学療法

対象 70 名（契約利用者 3 名、外来利用者 67 名）に対し、外来担当理学療法士 4 名を中心に実施し、利用者様 1 名当たりの訓練回数は週 1～2 回、年間訓練実施単位数は 4,115 単位であった。

対象児（者）は、早産・低出生体重児、脳性麻痺による重症心身障がいや肢体不自由児、精神運動発達遅滞、ダウン症候群など多岐にわたり、年齢も 0 歳の幼児から成人までと幅広い。

以下年代別に取り組みを報告する。

○乳幼児期から学童期

運動発達促進や基本動作能力獲得を目的とし実施した。対象児の興味・関心を引くような遊びを提供する中で定額の促し、寝返り・座位・立ち上がり・歩行などの基本動作の向上や家庭・学校・施設など各環境における ADL 向上・応用動作へのアドバイスに努めた。各児の発達に合わせた自助具や福祉機器（車椅子・ウォーカー・装具）の提案を行い、必要に応じて家庭や学校・施設で使用できる姿勢ケア実施のためクッションを作製し、使用方法を指導したのちに提供し、身体機能面の向上だけではなく、発達が促しやすい環境づくりや QOL の向上に努めた。

○青年期から成人期

運動能力の維持向上・変形拘縮などの二次障がいの予防、介助者の介助量軽減など個々のニーズに合わせた目標に応じ実施した。より複雑化してくる運動の質の向上に対し継続

的な運動指導を図りつつ、能力だけでなく各学校・施設・サービスなどの環境調整・対応にも重きを置き、対象児（者）や保護者、関係者（学校教員、施設職員など）への情報提供を行ないながら実施した。生活上必要不可欠である車椅子に対しても細かな調整や修理・新規作製の促しなど、より充実した生活を送っていただけるように努めた。

今年度もまた新型コロナウイルスの影響により、2回の外来療育の中断を余儀なくされた。そのため電話連絡の際には対象児（者）の近況や健康状態などをお聞きし、必要な際には運動や生活上へのアドバイスも行い対象児（者）のQOL維持や不安解消に努めた。

○耳納学園の利用者

運動機能の維持のため、定期的なりハビリテーションを実施した。本年度は、新型コロナウイルスのクラスター発生のため施設閉鎖になり、訓練を実施できない期間があった。施設閉鎖が介助となり疼痛の軽減・ADL動作の回復および維持に取り組み、マッサージ・ストレッチ・ROM訓練・運動療法を行い、生活に必要な動作も取り入れ練習した。

● 作業療法

対象 215 名に対し、専任担当作業療法士 5 名を中心に訓練を実施した。利用者様 1 名当たりの訓練回数は月 1～5 回、年間訓練実施単位数は 5,573 単位であった。

対象児（者）は神経発達障症（自閉症スペクトラム障がい、注意欠如・多動症）、脳性麻痺、神経筋疾患、さらに精神運動（発達）遅滞など多岐にわたり、対象児（者）も年々増加傾向である。

訓練内容として、トランポリンやボールプール、スイングなどの感覚遊具遊び、縄跳びや鉄棒などの運動遊び、その他ルールのある遊びを行った。特に就学前の利用者様に対して、パズルや運筆などの巧緻動作、机上での活動時間の延長や文字への興味を促し就学に向けての準備を行った。個々の子どもに合わせた発達課題（運動面・日常生活技能・学習基礎能力）に取り組む中で作業遂行能力の向上や子ども自身の気付きの促し、成功体験を通して自己肯定感を育むように実施した。また、日常生活で配慮すべき点や介助方法などに加え、保護者とのコミュニケーションを密に行い、助言・アドバイスを行った。

今年度は新型コロナウイルスの影響により、2回(5月、12月)の外来療育を中止しなければならない状況となった。しかし、前年度のような長期期間の休みもなく 1～2 週間程度であったため電話連絡等の相談は行わなかった。その他、小学校就学を控える児童に対し、進路に関わる各関係機関に文書で情報提供を行い、卒園後の支援について提案や意見交換にも取り組んだ。

現在、学童児の利用増加に伴い、夕方の時間帯に訓練希望が集中する傾向にあるため、学童児の作業療法の利用頻度を調整することで多くの利用者に作業療法を提供できるように努めた。

● 言語聴覚療法

対象 232 名の外来利用者様に対し、言語聴覚士 5 名(10 月より 4 名)のスタッフで訓練を実施した。訓練は 1 回 2 単位(40 分)で実施、毎週、月 2 回、月 1 回、不定期の頻度で行った。年間訓練実施単位数は 6,274 単位であった。

利用者様は、言語発達遅滞、自閉症スペクトラム、注意欠如・多動障がい、学習障がい、構音障がい、脳性麻痺、吃音など多岐に渡り、診断名・年齢が同様であっても、発達の状況に大きな個人差が見られた。また、年齢層も年中から年長の児童を中心に、未満児の利用者様から中学生の利用者様までと幅広い。訓練期間も 1~2 年の短期間で終わる場合もあれば、5 年以上といった長期間訓練を行っている利用者様も見られた。

利用者様は診断名、発達段階、生活環境など一人ひとり異なっており、得意・不得意にも大きな差が見られた。このため、定期的な評価・検査を行い客観的な情報に基づく訓練プログラムを立案した。アプローチは絵カードなどを用いる机上課題が中心となる利用者様もいれば、遊び場面を設定し、その中での関りを通してアプローチを行うことが望ましい利用者様など様々であった。また、具体的なアプローチのみではなく、上手にできた、褒められたといった成功場面を経験していく中で、利用者様の自信や意欲の向上を促した。

利用者様のみでなく保護者との連携も重要であったため、訓練の中でも積極的に日常生活での様子や困り事、成長の様子といった情報交換を行いつつ、必要に応じた情報の伝達、環境調整を行った。

昨年度に引き続き、今年度も新型コロナウイルスの影響により外来療育を中止しなければならない状況となった(5 月と 12 月の計 2 回)。保護者および利用者様の不安な気持ちにできる限り寄り添うため、丁寧な電話対応を行った。

また、コアラ園スタッフや PT・OT との情報共有も積極的に行い、保育園、幼稚園、学校や他施設といった外部との情報交換も、新型コロナウイルスの影響で電話や書面上での対応が中心であったものの積極的に行った。

<地域支援事業等>

1. 肢体不自由児早期訓練事業(県肢体不自由児協会委託、飯塚市)

PT 1 名・・・19 回 OT 1 名・・・20 回 ST 3 名・・・6 回

2. 乳幼児発達診査(県環境福祉事務所委託、朝倉市)

ST 2 名・・・2 回

3. 発達相談(朝倉市)

ST 3 名・・・6 回

4. 特別支援学校専門スタッフ強化事業(田主丸特別支援学校)

PT 1 名・・・3 回

ST 1 名・・・6 回

<実習生の受入状況>

【PT】

令和4年 5月 9日 ~ 5月 16日	(当園コロナ発生により1週間で中止)	熊本総合医療リハビリテーション学院	1名
5月 9日 ~ 5月 16日	(当園コロナ発生により1週間で中止)	柳川リハビリテーション学院	1名
5月 16日	(当園コロナ発生により開始当日中止)	麻生リハビリテーション大学校	1名
7月 19日 ~ 9月 10日		熊本総合医療リハビリテーション学院	1名

【OT】

令和4年 7月 11日 ~ 9月 17日	麻生リハビリテーション大学校	1名
----------------------	----------------	----

【ST】

令和4年 8月 8日 ~ 9月 3日	麻生リハビリテーション大学校	1名
8月 15日 ~ 9月 24日	柳川リハビリテーション学院	1名
9月 5日 ~ 9月 9日	熊本駅前看護リハビリテーション学院	2名

地域事業部

《概況》

令和4年度は、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染防止対策に徹した。その為、見学者や短期入所の利用者は、数名に留まった。この数名の短期入所者は、家庭のやむを得ない諸事情の為に利用受入れとなった。また、外部での対面受講の研修や出張等も減少し、かわりにリモート会議や文書決済に変更されての対応であった。

今年度も、感染対策としてコロナワクチン接種や定期的なPCR検査と感染防止に努めた。福岡県は、緊急事態宣言までには至らなかったが、福岡コロナ警報・特別警報が第6波(R4.1.20~5.31)第7波(R4.7.6~10.5)第8波(R4.12.1~R5.2.13)と発動された。当法人も感染防止対策を施していたが、コロナウイルスの感染力が強まり、当法人施設でも数回にわたりクラスターが発生する状況になった。各施設や各寮の閉鎖を余儀なくされ、その期間中は、通所部門や外来療育も中止となった。外来新患診察は、長く待たせている利用者様を考慮、感染防止対策を徹底したうえで診察を行った。相談支援ではその期間中は電話での対応支援で行ったが、在宅訪問の必要な方については感染防止対策を施して実施した。

地域事業部は、障害者福祉や療育活動など何らかの支援を希望される地域の方々と、法人内施設をつなぐ支援者として機能した。地域の方々の多様な問い合わせや要望に対して、施設機能の紹介や利用手続きの説明、スムーズな利用につながるために相談者と事業所間の連携・調整を図った。

対象地域は主に久留米市、うきは市、朝倉市及びその近隣地域としているが、対象地域以外からの問い合わせも多数あり、この状況に大きな変化は見られていない。

《相談対応業務》

地域事業部が受け付けた相談は、大多数が各機関から紹介されたご本人及びご家族からであり、その他に相談支援事業所や行政関係者、医療機関SWからの問い合わせである。また、相談受付からゆうかり学園事業所のサービスにつながる場合、受診予約や受診時の立会い、関係部署との連絡調整等も担い、利用者と事業者双方にとって出来るだけ安心してスムーズな利用開始につなげるよう努めた。

次表で、問い合わせの内容と実際に施設利用につながった件数を示す。

問い合わせ・相談の内容	件数	施設利用に繋がった件数
① 施設入所支援について	10 件	2 件
② 短期入所等について	14 件	2 件
③ 児童発達支援について	21 件	11 件
④ 外来療育・リハの利用について	44 件	12 件
⑤ 見学依頼など	6 件	0 件
⑥ その他の相談	16 件	0 件

① 施設入所については、10 件の問い合わせに対してゆうかり医療療育センターで2名の入所支援につながっている。入所の問い合わせは、人工呼吸器使用の重症の方や介護保険が適応されるような高齢の方、知的障害がメインで療養介護が該当しない方、0歳児、多動で重心の方が大多数で、結果お断りすることが多かった。療養介護に該当しない方は、当法人内の生活介護事業所へ繋いだり、他の法人を紹介した。

② 短期入所や日中一時支援についての問い合わせも、多動で重心の方、衝動性のある方が多く、在宅での支援の難しい現実が感じとれる。2名の契約につながっているが、呼吸管理が必要な方など重症児（者）の方の利用はお断りしており、地域の療養介護事業所としては今後の課題といえる。

③ 児童発達支援については、利用を希望され契約まで至ったケースは11例である。利用希望の申し出から契約まで時間を要しており、昨年度以前に申し込まれ利用開始に至った方はカウントしていないため少ない数字だが、療育現場ではお試し利用やつなぎ療育などで少しでも早く療育につなげるよう工夫している。

④ 外来療育・リハについては、相談44件中12件が診察を経て訓練部や心理療育部の療育・リハにつなげているが、児童発達支援と同じで相談受付から診察までかなり時間を要しているためこのような数字になっている。

相談受付後連絡ない方やキャンセルされた方も多くおられ、この点も予約受付から受診ま

で時間がかかりすぎるのが原因の一つと考えられる。

⑤ 見学依頼については、新型コロナウイルス感染対策で見学を制限したため、受付自体6件と少なく見学実施行わず、受付の時点でお断りする。

⑥ その他の相談は、法人内事業所の受け入れ状況や利用手続き等の確認、新型コロナウイルス感染対策に対する施設の取り組み方について、計画相談介入の依頼、診断確定目的の診察依頼、宿泊体験の依頼、医師意見書等作成の依頼、新規事業所立ち上げに際し協力機関として名義貸し出しの依頼、過去の自己カルテ照会依頼の相談など、多岐にわたった。

《短期入所予約調整業務》

ゆうかり医療療育センターにおける短期入所及び日中一時預かりの予約受付と調整業務を地域事業部で行ったが、新型コロナウイルス感染防止対策の影響で年度当初より利用制限を設けたため、極端に利用が少なかった。

年間の利用者延べ人数は、次表の通りである。

	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
なかよし寮	宿泊	0	0	0	4	2	5	12	10	0	3	10	19
	日中	0	0	0	0	2	3	1	2	0	1	1	2
おひさま寮	宿泊	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0
	日中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ともだち寮	宿泊	0	0	3	0	0	3	3	0	0	0	0	3
	日中	1	1	0	0	4	3	3	2	0	0	0	4

《施設見学案内》

令和4年度の外部組織・団体から依頼される施設見学は、新型コロナウイルス感染予防対策のため原則すべて中止すると所長会議で決定、受付の段階からお断りした。

10月 小郡特別支援学校

2月 春日市民生委員

3月 春日市北中地区協議会

《出張》

・10月28日 八女筑後・久留米圏域相談支援従事者研修 (ズーム研修)

古賀係長、古賀瑠美、吉田修平

・12月16日 九州地区障がい者相談支援事業合同研修：沖縄大会 (ズーム研修)

吉田修平

・2月17日 県医療ケア児等コーディネータースキルアップ研修

吉塚合同庁舎 (福岡市)

古賀係長

(その他の会合出席等)

- 久留米市ライフレスキュー事業連絡会…5回 吉田修平
- うきは市地域障害者支援協議会 相談部会…3回 古賀係長
- 久留米市地域生活支援協議会 重心部会…16回 古賀係長
- 久留米市介護サービス事業者協議会 重心連携会議…1回 古賀係長
- くるめ相談ネット (6回) : 古賀係長、古賀瑠美、吉田修平
- くるめ相談ネット事務局会 (6回) : 古賀係長

給食部 (中央給食)

給食部理念 : 栄養管理・健康管理に努め、真心のこもった調理で食の喜び大切さを伝える。

(1) 区分別熱量

ゆうかり医療療育センター、耳納学園、千歳療護園の区分別熱量に差があるので副食の量をそろえ、主食の量で調整している。

	ゆうかり	千歳・第二千歳	耳納
中		1,960	2,150
A	2,100	1,790	
B	1,960	1,480	1,640
C	1,470	1,250	1,350
D	1,250		
E	1,080		

(単位 Kcal)

(2) 行事食

ゆうかり医療療育センター

令和4年

7/21 夏祭り (焼きそば、たこ焼き、唐揚げ、フライドポテト)

8/24 なかよし寮夕食会 (オムライス、海鮮サラダ、デザート)

9/28 ともだち寮お楽しみ会 (デザート)

11/4 おひさま寮 運動会

ともだち寮 お楽しみ会 (外注弁当)

なかよし寮 運動会レクリエーション

12/15 クリスマス会 (スマイルポテト、Lチキン、エビフライ、焼き肉

もみの木ハンバーグ、ズッキーニソテー、マカロニサラダ、コーンスープ

いなり寿司、おにぎり、ケーキ、フルーツ)

令和5年

- 1/1 おせち料理（昼）（がめ煮、干支かまぼこ、昆布巻、エビのつや煮、牛肉の八幡巻き、伊達巻、紅白なます、肉団子、チキンナゲット、黒豆、数の子、苺、干支まんじゅう）

耳納学園

令和4年

- 4/15 開園50周年記念行事（外注弁当、ケーキ）
6/23 夕食会（ざるそば、ざるうどん、じゃがバター、ヤングコーン）
7/21 夏祭りレクリエーション（焼きそば、たこ焼き、唐揚げ、フライドポテト焼き鳥、キャベツ甘酢、ところてん）
9/22 夕食会（ステーキ、たまねぎ焼き、そばサラダ、シャインマスカット）
11/17 夕食会（しゃぶしゃぶ鍋）
12/14 もちつき・忘年会（Lチキン、エビフライ、コロケ、もみの木ハンバーグ、焼肉、ズッキーニソテー、ウィンナー、マカロニサラダ、スマイルポテト、かに爪、いなり寿司、サラダ巻き、ケーキ、フルーツ）

令和5年

- 1/1 おせち お弁当（ゆうかりと同じ）
2/3 節分（巻き寿司、サラダ巻き）
2/21 一日レクリエーション（ラーメン）
3/17 夕食会（チャーハン、餃子、かきたまスープ）

千歳療護園・第二千歳療護園

令和4年

- 4/7 千歳療護園開園記念日（外注弁当、おすまし、ケーキ）
8/10 第二千歳療護園開園記念行事（外注弁当、ケーキ）
8/25 第二千歳療護園納涼祭（焼き鳥、かき氷、アイスクリーム、スープ）
・・当日は焼き鳥を焼くことが出来なかったため別日に設定
9/22 千歳療護園納涼祭（焼き鳥、かき氷、アイスクリーム、スープ）
11/4 レクリエーション大会（外注弁当）
12/14 忘年会（Lチキン、エビフライ、コロケ、もみの木ハンバーグ、ステーキ、ズッキーニソテー、ウィンナー、スマイルポテト、マカロニサラダ、いなり寿司、納豆巻き、巻き寿司、卵巻き、ケーキ）

令和5年

- 1/1 おせち お弁当（ゆうかりと同じ）

(3) 研修関係 すべてオンライン研修

2022/9/9 第 67 回西日本肢体不自由児施設運営研究会

2022/10/14 令和 4 年度全国重症心身障害児者施設職員研修会
(栄養士・調理師コース)

2023/2/17 令和 4 年度 第 49 回 九州障害者支援施設研究大会

2023/3/9 令和 4 年度 給食関係者等研修会

(4) 衛生管理

- ① 食品の納品時、品質のチェックと納品時間記入（冷蔵品は表面温度記入、冷凍・冷蔵品は収納庫の温度記入）
- ② 手洗い液による手洗いとウェルパスによる消毒の励行
- ③ 調理時、中心温度計にて中心温度測定、記入
- ④ 調理の出来上がり時間記入
- ⑤ 調理後、冷蔵庫に入れるものは入れた時間・温度記入
- ⑥ 調理器具やシンクの除菌にアルペット E（食品添加物除菌剤）使用
- ⑦ 冷蔵庫の清掃、温度記入
- ⑧ 調理室の温度・湿度記入
- ⑨ 検収室の温度記入
- ⑩ 盛りつけ時、使い捨て手袋、使い捨てマスク使用
- ⑪ 洗浄室、下処理室にて専用のエプロン、スリッパ使用
- ⑫ 水質検査 始業前、終業後に残留塩素測定（毎日）
業者による管理
- ⑬ 細菌検査（検便）
腸管出血性大腸菌（O-157 他）を含む病原腸内細菌検査（毎月）
ノロウイルス抗原検査 10 月、3 月
- ⑭ 業者（トキワビル）によるネズミ・ゴキブリ駆除（毎月）

(5) 給食委員会

ゆうかり医療療育センター

構成メンバー 所長、看護部長、薬剤師、看護課、育成課
訓練課、給食部より代表者

開催回数 月 1 回（感染症対策で開催できないときは書面で行う）

耳納学園

構成メンバー 利用者様 28 名、生活課 2 名、栄養士

開催回数 月 1 回

千歳療護園

構成メンバー 利用者様 4 名、総務課、生活支援課、
訓練支援課、栄養士

開催回数 2 ヶ月に 1 回（感染症対策で開催できないときは書面で行う）

〔内容〕

各施設で構成メンバーは異なる。毎月の誕生会の希望メニューや、行事食の希望、給食についての感想や反省点などを話し合っている。

また、行事食は、終了後に感想や反省をあげて、次回の参考にしている。

嗜好面や食事形態、食器等についても、様々な部署の方を交えて検討ができる良い機会なので、今後もいろいろな方面からの意見を参考に、より良い食事提供をしていきたい。

(6) まとめ

今年度は一年を通して、コロナ対策に追われました。

急激な食材の値上がりや使い捨て資材の不足、また、退職者が相次いだための人員不足と、それによる仕事量の増加など、今までにない忙しさでした。

年明けの 1/9 からの 8 日間、給食職員の新型コロナ感染拡大により給食部を閉鎖。

1/9～1/11 の 3 日間は各部署職員の応援体制で、各施設内で非常食の調理・提供。

1/12～1/16 は朝はパン食、昼・夕は外注弁当にて対応した。

緊急事態に滞りなく利用者様に食事提供することができ、協力頂いた各部署には大変感謝しています。この経験で、非常時の食事提供について気付いた事が多くあり、マニュアルや備蓄の見直しが検討課題となりました。

今後も、安心、安全な給食を毎日おいしく食べていただけるように、研鑽に努めます。

誕生会のメニュー 令和4年度

	主メニュー	一品メニュー		
		おひさま寮	ともだち寮	なかよし寮
4月	鮭いくらごはん	いちごパフェ	チョコケーキ	いちごパフェ
5月	牛丼	プリンパフェ	プリンアラモード	チョコパフェ
6月	ハンバーグ	プリンアラモード	プリンアラモード	いちごケーキ
7月	カツカレー	該当者なし	チョコパフェ	チョコケーキ
8月	オムライス	該当者なし	もものデザート	プリン
9月	チーズビビンバ	チョコパフェ	みたらし団子	チョコアイス
10月	焼きカレー	プリンパフェ	たい焼き	フルーツパフェ
11月	焼肉	該当者なし	冷たい和菓子	バニラアイス
12月	ビビンバ	プリンパフェ	フルーツ盛り	いちごパフェ
1月	天丼	プリンアラモード	プリンアラモード	チョコケーキ
2月	ハンバーグカレー	プリンアラモード	チーズケーキ	いちごパフェ
3月	ステーキ	プリンアラモード	該当者なし	チョコケーキ

千歳療護園、第二千歳療護園は誕生会にデザートと飲み物を提供。また、利用者様の誕生日に希望メニューを1品つけている。

こもりぐま保育所

本園では、家庭に代わり子供達を預かり家庭内の温かさにより近づけるよう、愛情溢れたスキンシップの保育を目指してきた。健康で意欲的、創造的な心と身体を育成する目的で、戸外活動も取り入れており、自然に恵まれた環境の中、四季折々の果物・花・虫などと触れ合っている。

その他、個人の能力、年齢に合わせた生活習慣の習得を子供の発達状態をよく見極めて、無理なく個別指導をしている。そして、集団の中における協調性を遊びの中で養ってきた。

本園がまず何よりも、大切にしているのは家庭的雰囲気の中での保育である。そのためにも健康状態など、家庭との連絡を密に心掛けている。

	【	令和4年度	利用児	】			
延べ	432	人	開所日数	193日	1日平均	2.2	名

【 園外活動 】

新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、中止

児童発達支援センター コアラ園

福祉型児童発達支援センターとして、3事業（①児童発達支援 ②放課後等デイサービス ③保育所等訪問支援）に取り組む。

① 児童発達支援

日常生活における基本的な動作の指導、知識技能の付与、集団生活への適応訓練等の便宜を付与することを目的とし、月曜日～金曜日の週5日に、「あそび教室」というかたちで、グループ療育及び個別療育を実施した。

内容として、日常生活動作（食事・排泄・衣類着脱等）の獲得及び、小集団での行動獲得を基本療育とし、感覚あそび、知育あそび、歌あそび、製作、母子あそび、運動あそび、戸外あそびなどのカリキュラムを、個々の成長段階に合わせて提供した。夏季期間に実施予定のプール遊びは、新型コロナウイルス感染拡大防止対策の為、昨年に続き中止する。

遊びを通しての楽しさ、自己表現、作品完成への自信や達成感を味わうことを大切に、不快ではなく、快な状態を出来るだけ多く提供する事を心掛けながら進めていった。

また、母子関係の安定と充実に努め、そこから対人関係づくりへと発展出来るように配慮し、集団における社会性や協調性を伸ばすことも目的とした。

平成30年度より取り組んだ、下記①②の活動も継続して実施した。

① 文化庁の伝統文化親子教室事業への参加として、生花教室を専門の先生

（片岡清美 氏）にお願いし、月1回（6月～1月）の教室と、年1回の作品発表会（11月19日～20日 田主丸町そよ風ホール）を実施する。

*新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、オンラインにて片岡先生の指導を受け、コアラスタッフにて生花教室を実施する。

② 耳納学園陶芸教材による陶芸教室を実施する。

年長児に対する、就学に向けての机上での活動と、集中力の持続を自発的に促す取り組みとして効果を感じることが出来た。卒園記念品のマグカップ等を作成する。

年間行事としては、

園内行事：子育て講座（講師：小児神経科 Dr 大滝悦生 ゆうかり医療療育センター所長）を参加人数の調整の為、2グループに分けて実施する。

（10/31(月)26名参加、11/29(火)26名参加 研修室にて）

季節の行事（クリスマス会、初詣、節分）、卒園を祝う会は、通常療育カリキュラムの中で実施する。

園外行事：新型コロナウイルス感染拡大防止対策により、ゆうかり学園盆踊り
花火大会、ゆうかり学園運動会が中止となる。代替行事として、開
催予定日の1週間を「盆踊りウイーク」、「運動会ウイーク」として
園内療育活動の中でお楽しみ活動を実施する。

月1回の避難訓練を毎月の曜日を変えて実施する。その内年1回は消防署員立合い
の避難訓練（11/28月）、地震時の避難訓練（10/20木）を実施し避難誘導等の流れを
園児、保護者と共に体験した。

その他、就学を迎える園児の保護者に対し、特別支援学校（2校）、地域小学校（特
別支援学級）22校への見学案内を行うと共に、並行通園をしている保育園、幼稚園へ
の情報提供書作成や園内見学等の受け入れも行った。

また、地域の依頼により、久留米市、うきは市、朝倉市へスタッフ2名を派遣し、
保育療育支援及び、相談支援業務を行った。（年間合計106回の支援）

新型コロナウイルス感染拡大防止の為、派遣中止あり（久留米市9回、朝倉市7回、
うきは市7回）

コアラ園登園に、年間で100名の利用契約を行った。

② 放課後等デイサービス

生活能力の向上のために必要な訓練、社会との交流の促進その他の便宜を供与するこ
とを目的とし、月曜日～金曜日の週5日、15時～18時の時間帯で就学児を受け入れる。

久留米特別支援学校生徒1名（小学1年生）

久留米市京町小学校生徒1名（小学1年生）

田主丸小学校生徒1名（小学1年生）

計3名が年間で定期利用する。（不定期利用児7名）

③ 保育所等訪問支援

当該施設を訪問し、当該施設における障害児以外の児童との集団生活への適応のため
の専門的な支援その他の便宜を供与することを目的とし、年間で6名の利用あり。

久留米市高良内小学校1名 1回訪問

久留米市高良内保育園1名 3回訪問

久留米市正進幼稚園1名 3回訪問

朝倉市立石小学校1名 3回訪問

朝倉市ひろにわ保育所1名 4回訪問

朝倉市馬田保育園1名 3回訪問

■ 知能検査

就学を迎える年長児に対して知能検査を実施し、就学先への情報提供として作成すると共に、対象児の課題等を見つけ出し、今後の療育方針を決定する上での参考資料としていった。(コアラ園契約児 6名実施)

また、コアラ園卒園児の特別児童扶養手当等の更新に必要な検査を実施した。
(コアラ園卒園生 4名実施)

■ 在宅支援

新型コロナウイルス感染拡大防止の為、5月16日～5月31日まで、12月14日～12月29日まで、2(3)度(6/30～7/4 在宅支援無し)の臨時休園対策をとる。この期間在宅支援に切り替えてサービスの提供を継続する。支援内容としては、各園児の登園曜日に電話にて、親子の状況確認や連絡事項、お悩み相談対応を行う。また、自宅で学習する療育教材を作成し各自宅へ送付した。

■ 学校見学案内 24校 (特別支援学校 2校・地域小学校 22校)

	学校名	参加園児		学校名	参加園児
1	久留米特別支援学校	2名	13	久留米市立大橋小学校	1名
2	小郡特別支援学校	5名	14	朝倉市立甘木小学校	1名
3	久留米市立田主丸小学校	1名	15	〃 三奈木小学校	1名
4	〃 高良内小学校	1名	16	〃 立石小学校	3名
5	〃 善導寺小学校	2名	17	〃 大福小学校	1名
6	〃 大城小学校	1名	18	うきは市立吉井小学校	1名
7	〃 東国分小学校	1名	19	〃 御幸小学校	1名
8	〃 南薫小学校	1名	20	〃 千年小学校	1名
9	〃 北野小学校	1名	21	日田市立咸宜小学校	1名
10	〃 船越小学校	1名	22	熊本市立楠小学校	1名
11	〃 弓削小学校	1名	23	〃 西合志南小学校	1名
12	〃 竹野小学校	1名	24	〃 南ヶ丘小学校	1名

■ 通園児診断名 契約児 100 名（診断名複数該当あり）

診断名	該当児	診断名	該当児
構音障害	67	筋緊張低下症	3
言語発達遅滞	71	未熟児網膜症	1
発達性協調運動障害	45	ダウン症候群	2
自閉症スペクトラム障害	52	両偏平足	1
知的障害	17	両外反偏平足	1
運動発達遅滞	21	先天性心臓病	1
精神運動発達遅滞	61	心房中隔欠損症	1
多動症	10	肺高血圧	1
筋力低下	3	症候性てんかん	1
歩行障害	3	境界域知能	1

■ 出張関係

出張名	出張者	期 日	会 場
福岡県児童発達支援管理 責任者更新研修	保育士 1名	R4. 8. 31	オンライン研修
福岡県児童発達支援管理 責任者更新研修	管理者 1名	R4. 9. 16	オンライン研修
第 39 回九州身体障害児者 施設研究大会	保育士 1名	R4. 9. 29～9. 30	オンライン研修
福岡県相談支援従事者現任 研修（更新者コース）	保育士 1名	R4. 12. 1～12. 8 R5. 1. 10、1. 11 R5. 2. 20	オンライン研修
福岡県身体障害者施設 協議会施設長・職員研修会	保育士 1名	R5. 3. 27	オンライン研修

相談支援事業所 夢の紀

《概況》

夢の紀は、当法人内全施設のほぼ全員の入所者に対する計画相談を始め、久留米市、朝倉市、うきは市等に在住の障害児（者）の計画相談を行った。本年度の実績は下表の通りである。

<計画相談契約件数>

サービス等利用計画・障害児計画相談契約件数		401件
内 訳	障害児計画相談	133件
	サービス等利用計画（在宅）	55件
	サービス等利用計画（当法人施設入所者）	213件

昨年比：契約件数 25件増

内訳：障害児計画相談/17件増

サービス等利用計画（在宅）/7件増

サービス等利用計画（入所）/1件減

<計画相談作成件数>

新規相談	42件（児童32件 者10件）
障害児支援利用計画・サービス等利用計画 作成件数	328件（児童153件 者175件）
継続障害児支援利用援助・継続サービス利用支援 作成件数	323件（児童103件 者220件）
サービス提供時モニタリング加算、退院加算、 サービス担当者会議加算等	10件
医療ケア児、強度行動障害体制換算	1302件

昨年比：新規相談7件増

障害児支援利用計画・サービス等利用計画作成件数/2件増

（児童21件増 者19件減）

継続障害児支援利用援助・継続サービス利用支援作成件数/24件減

（児童5件増 者29件減）

- ・コロナの影響で面談が出来ないことで、モニタリングがとれず、件数を増やせなかった。
- ・コロナの影響で担当者会議や事業所モニタリングが行えず、加算をとることが出来なかった。
- 本年度、ケースの抱える複雑な課題等により法人内外の関連事業所や医療機関、公的機関との連携・調整等に特に多くの時間を費やした特徴的な事例を、以下に挙げる。
- ・施設入所からグループホームへの移行の調整、定着への支援。
- ・施設入所から療養介護への移行の調整、行政手続き。
- ・母の入院に伴い、一旦医療型障害児施設へ入所され、在宅生活に戻るまでの福祉事務所、児童相談所、各関係事業所、学校関係者との調整。

- ・入所措置延長児童がグループホームの体験を行う際に必要な手続きと、児童相談所、サービス事業所、基幹相談支援センター等、各関係機関との連携、調整。
- ・成年後見の申し立てに支援が必要な方に、関係機関との調整、及び申し立て手続きの補助。
- ・出生時より医療的ケアの必要な児童が退院し、在宅生活にむかうためのサービスの調整、保護者支援。
- ・家庭内で困難を抱える児童に対し、サービス事業所、医療機関、学校、地域の子育て支援団体との連携。
- ・高齢の母の介護を担う本人への精神的支援が必要な方のサービスの調整。
- ・難病をもたれ、余命宣告も受けながらも「自宅に戻って単身生活を送りたい」という思いを叶えるため、ご家族、病院関係、在宅支援事業所で連携し、サービスの調整を行った。
- ・医療的ケア児のきょうだい児の支援に関する会議を教育機関、こども子育てサポートセンターと連携し行った。
- ・台風時における事前避難において、医療的ケアを必要とする方のご家族より、地域支援棟3階への避難要望があり、避難経路、時間、方法を確認し、調整を行った。
- 本年度の計画相談業務に関する考察を以下に挙げる。
- ・在宅、関係事業所への訪問時には、訪問地域の感染症のコロナ発生状況を確認し、訪問時には、マスクや手指スプレーでの消毒、検温等、感染症対策を遵守した対応を行った。
- ・新型コロナウイルス感染症対策にて、通所事業所の利用調整が必要な方へのサービス利用事業所の調整を行った。
- ・新型コロナウイルス感染症対策にて、各サービス事業所や学校等への訪問を控える状況もあり、文書や電話等でのやり取りが中心となった。十分な対応を行うことへの難しさを感じ、顔の見える関係を築いていくことの重要性を改めて感じた。
- ・24時間の相談対応体制を整え、夜間、休日に相談利用者、その家族、関係事業所からの連絡対応を行った。

《基幹相談支援センターとの連携》

東部基幹相談支援センターから依頼4件を受け、福祉サービスの必要な対象者に、計画相談での対応を行った。また、すでに計画相談に入っている困難事例の計画相談において東部基幹相談支援センターと連携して支援を行った。

《関連事業所との連携》

・新型コロナウイルス感染症対策にて、事業所や保育所、学校への訪問、会議の開催は可能な限り行わずに、FAXやメール、郵送での照会にて、支援状況の確認を行った。緊急時や必要時には感染症対策を十分に行うことで、短時間の会議開催、訪問を行った。

(相談業務における連携機関)

○公的機関

- ・久留米児童相談所
- ・大牟田児童相談所
- ・福祉課(久留米市、うきは市、朝倉市、他、施設入所給付市町村)
- ・久留米市こども子育てサポートセンター
- ・久留米市学校教育課 (スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー)
- ・久留米市生活支援課
- ・久留米市地域福祉課
- ・久留米市幼児教育研究所
- ・久留米市社会福祉協議会
- ・久留米市保健所
- ・うきは市子育て支援課
- ・うきは市社会福祉協議会
- ・朝倉市子ども未来課
- ・筑前町こども未来センター

○学校関係

- ・特別支援学校 (久留米、田主丸、小郡)
- ・小学校 (田主丸、善導寺、山本、宮の陣、山川、高良内、柴刈、竹野)
- ・中学校 (宮の陣、三輪)

○医療機関 (久留米大学病院、聖マリア病院、田主丸中央病院、のぞえ総合診療病院、倉田内科小児科医院、むたほとめきクリニック、耳納クリニック、聖ルチア病院、久留米リハビリテーション病院、くまがえクリニック、やなぎ医院、筑後吉井こころホスピタル、本間病院、姉川脳神経外科、姫野病院、筑水会病院)

○児童発達支援 (ひばり園、おひさま、るんるん、いきいきハッピーステップ津福、芽愛、POSC、こぐま学園、こどもプラス甘木2号教室、OZ デイあさくら)

○放課後等デイサービス (ころころ、おひさま、るんるん、すまいる、クレア、芽愛、COCORO、こどもプラス久留米教室、あっぷ、いきいきハッピーステップ津福、かぶとむしクラブみのう、かぶとむしクラブさうすみのう、MIRAI、プラムチャイルド、Like-Pot、放課後等デイサービス寺子屋、リブライフ、愛の家くるめ館、にじ高良内館、COCOT、アクア愛の家あさくら館、ヒカレ、こどもプラス甘木教室、こどもプラス甘木第2教室、ひまわり、あんばん、ういずあっぷる浮羽校、かぶとむしクラブしらかべ、ハッピースペース、POSC、きらきら、菊池園放課後デイサービス、かなむ、アロハキッズ)

- 保育所等訪問支援 (Switch)
- 生活介護 (一麦寮、ちとせ園、和歩わく、どんぐり、若葉、楓樹、愛らんど、たけの子、浮羽学園、デイルームみなみかぜ、風の丘、陽だまりの里、シンフォニア、赤坂園、菊池園、ふるさと、ちるる、ひばり～ヒルズ)
- 就労移行支援 (Join 五灯館大学校専門課程)
- 就労定着支援 (あゆむ)
- 就労継続支援 (レインボー、わくワークステーション千歳、K'sBee、みどりの園、荒木学園、ラ・ソレイユ、不思議の国のマーメイド、寺子屋工房、まんまる、プロジェクト-T、だいちに水、パプリカ、天心園)
- 療養介護 (聖ヨゼフ園、柳川療育センター、久山療育園、若楠療育園、東佐賀病院)
- 居宅支援 (田主丸社協、ひまわり、アップル久留米、えがお、生協、ライフケアステーション、ニチイケアセンター、しんらい、心にスマイル、心にスマイルウエスト、Find and Act、れふと、ちとせ、さくら介護、あかり、涼風、アップル小郡、りあん、HAPPY)
- 重度訪問介護 (ホームケア土屋)
- グループホーム (ルーツ田主丸、浮羽学園、筑後吉井こころホスピタル、天心園、ルーツ大木)
- 自立訓練 (ひとつ星、フレア)
- 訪問入浴 (アップル久留米、くましろ、アサヒサンクリーン)
- 福祉用具 (きさく工房、九州ホームケア)
- 短期入所・日中一時 (和歩わく、のびのび、ASOBIVA、赤坂園、さくらあと)
- 訪問看護 (アップル久留米、聖マリア、訪看くるめ、田主丸、デューン、ルナ、子守柿、ういずは一と、あかり、よもぎ、あいぞら、国分、ありす、らいと、あいず、ちとせ、アップル小郡、ひばり、アソシオール、うきは医師会、けんせい)
- デイケア (筑後吉井こころホスピタル)
- 地域活動支援センターⅢ型 (さくらんぼ、すまいるハウス)
- 就業・生活支援センター (ぼるて)
- 介護支援専門員 (江戸くま、スカイメディカル)
- 福岡県医療的ケア児支援センター
- 《自立支援協議会への参加》
- ・久留米市地域生活支援協議会施策推進部会重心分科会に所属し、部会長としての責務を担った
- ・久留米市地域生活支援協議会施策推進部会相談部会 (相談ねっと) の事務局に、機能強化型の事業所として参加し、会議運営における責務を行った。
- ・久留米市地域生活支援協議会施策推進部会相談部会委員 (相談ねっと) に所属し、会合へ参加していく中で、情報交換、研修、地域課題への取り組みを市福祉課と連携して行った。

- ・うきは市地域障害者協議会計画相談部会に所属し、情報交換、研修、地域課題への取り組みを市福祉課、事務局と連携して行った。

《相談援助実習の受け入れ》

新型コロナウイルス対応にて実習の受け入れ中止

《出張》

- ・10月28日 八女筑後・久留米圏域相談支援従事者研修（ズーム研修）
古賀剛、古賀瑠美、吉田修平
- ・12月16日 九州地区障がい者相談支援事業合同研修：沖縄大会（ズーム研修）
吉田修平
- ・2月17日 県医療ケア児等コーディネータースキルアップ研修 吉塚合同庁舎
（福岡市）
古賀剛

（その他の会合出席等）

- 久留米市地域生活支援協議会 重心部会…16回 古賀剛
- 久留米市介護サービス事業者協議会 重心連携会議…3回 古賀剛
- くるめ相談ネット(6回)：古賀剛、古賀瑠美、吉田修平
- くるめ相談ネット事務局会(6回)：古賀剛
- 福岡県医療的ケア児等への支援に関する情報交換会
(県南連携会議)…2回 古賀剛
- 久留米市ライフレスキュー事業連絡会…5回 吉田修平
- うきは市地域障害者支援協議会 相談部会…3回 古賀剛

耳 納 学 園

《概況》

昨年度と同様に、耳納学園でも、ゆうかり学園における感染拡大防止対策を守りながら感染防止に努めていたが、8月から9月初旬にかけて、利用者様12名が新型コロナウイルスに罹患された。又、12月中旬から翌年1月初旬にも、9名の利用者様が新型コロナウイルスに罹患された。

その間、施設内をレッドゾーンやイエローゾーンなどのゾーニングを行ない、感染拡大防止のため利用者様は、居室での生活をお願いした。緊急事態でもあり利用者様も、理解されておられ長期にわたり、我慢を強いる生活をしていただいた。

職員も、利用者様のために、真夏と真冬に防護服を着て、食事の配膳・園内清掃・罹患者の隔離室への移動など多岐にわたる仕事をこなしていた。職員は、いつ感染してもおかしくない状況の中、感染予防マニュアルにそって一人一人対応したこともあり、誰も感染せずに新型コロナウイルス感染の終息をむかえた。

感染された利用者様の家族には、ただちに学園より状況を電話にて報告し、安心していただいた。(看護課による罹患者への初動対応(点滴など)により、重篤になる利用者様もでていない事などを報告する。)

利用者様には引き続き自粛生活をお願いしておりますが、次年度も安全・安心そして快適な施設づくりに向けて取り組んで行きたい。

1) 本年度の各事業別利用状況

《施設入所支援》定員 34 名

年間延べ利用者数 10,062 名、充足率 81%、1 日平均利用者数 27,6 名

《就労継続支援 B 型》定員 40 名（通所 6 名含む）

年間作業参加実績延べ利用者数 5,784 名、定員から見た充足率 68%、

1 日平均作業参加実績利用者数 27,3 名

2) 本年度の地域別入退園状況は、別表（1）の通りである。

別表（1） 本年度の地域別入退園状況

入園状況 地域別	前年度末		入 園		退 園		本年度末	
	男	女	男	女	男	女	男	女
福岡市		1						1
久留米市	5	3					5	3
柳川市		4				1		3
朝倉市	2	1					2	1
大川市		1						1
小郡市		1						1
うきは市	1	1					1	1
佐賀白石町		1						1
新宮町		1						1
八女市	1	1					1	1
みやま市		1						1
壱岐市	1						1	
東峰村	1						1	
唐津市	1						1	
武雄市	1						1	
計	13	16	0	0	0	1	13	15

【2022 年度研修等出張記録】

期日（期間）	研 修 会 名 称	出張先	参加数
令和 4 年 5/17～19	福岡県社会福祉協議会 新任職員研修	WEB 研修	2
令和 4 年 6/14	全国社会福祉法人経営者協議会 経営者セミナー	WEB 研修	1
令和 4 年 6/18	久留米市集団指導	WEB 研修	1
令和 4 年 8/22	全国社会福祉法人経営者協議会 経営者セミナー	WEB 研修	1
令和 5 年 2/1	福岡県社会福祉協議会 福祉サービス苦情解決従事者研修会	WEB 研修	1
令和 5 年 3/27	福岡県身体障害者協議会 施設長・職員研修会	WEB 研修	1

【就労支援課】

陶芸部門においては注文品対応が多い一年であった。「注文品」というキーワードは、利用者の作業意欲だけではなく、技術面、連携面での向上に繋がった。特に連携面に関しては、一つの製品完成までに携わる利用者を多くする事で、次の工程にスムーズに渡すよう考えた。更には、制作に計画性の重要さも気掛けられるようにもなった。

工芸部門では、主に「絆・まごころ農園」の野菜販売POP作りを中心に行った。日々、作業内容についての模索が続いている。また、今年度より耳納の里での委託販売品目に手工芸品を追加し、「ふくろう製品」の販売を開始した。現在、陶芸注文品の「高台擦り作業」や「包装作業」にも協力してもらっている。

食品加工部門では、「焼肉のたれ」を継続生産販売する。施設閉鎖中も、品質管理、在庫管理に勤める事が出来た。現在、農作物を加工するための許可申請の準備も進めている。また、給食部への「米」、「野菜」の納品が開始され、使用する野菜の下処理（皮むき）作業も加わり、作業の充実の一端となった。

農作物部門では、従来通り生産を行った。各事業所の閉鎖もあったが、継続して法人職員を対象に実施する事が出来た。前述したように、今年から野菜を給食部に納品する事が始まった。

陶芸教室は、1件の問い合わせがあったが、徐々に悪化していく感染状況により中止となった。

販売関連においては、出向販売を「耳納の里」で5月、11月と実施した。委託販売では、展示する商品やPOPに趣向を凝らし、今までにない展示、販売が出来た。

今年は新型コロナウイルスでの施設閉鎖が二回、作業中止日は合わせて34日間となった。閉鎖期間中は、作業の事、心身機能の事が利用者、職員共に不安があった。解除当初は、大きな心身機能の低下は感じる事は無かった。しかし、一人での時間が多かった事と、元に戻った生活リズムへの対応の困難さなどで、徐々に不調を訴える利用者も現れた。その中で、利用者一人一人の状況を職員全体で捉え、共に支えあえるような作業環境を目指していきたい。

1) 本年度の売上及び工賃支給状況は、別表(2)の通りである。

月	売上金額	工賃支給額
4月	585,683	200,446
5月	679,737	200,844
6月	587,312	201,215
7月	661,320	200,911
8月	161,305	81,000
9月	341,391	199,684
10月	850,062	199,932
11月	651,598	199,665
12月	605,587	118,782
1月	489,440	201,980
2月	386,220	210,450
3月	419,966	293,799
計	6,419,621	2,308,708

※ 本年度の工賃支給率は、35.9%

【生活支援課】

生活面においては、ゆうかり学園のコロナ感染防止策にそって利用者様、保護者様に自粛をお願いしていたが、8月から9月初旬と、12月中旬から1月初旬に、利用者様が、新型コロナウイルスに罹患され、長期隔離生活を余儀なくされていった。この期間、緊急事態である事をよく理解されて、不満を言われる利用者様もおられずに無事にコロナ終息を迎えた。

利用者様が楽しみにしている、恒例の行事においては、4月の開園記念行事から始まり、毎月定期的に開催する事ができた。利用者様との面談においては、コロナ禍で体験外出ができないので、早く外出ができるようになればよいのにと話されていた。利用者様には我慢をしいる生活をしてもらっており、いつ終息するのかわからない状況の中で、生活をしていただいている事を職員はよく理解し日々の仕事をこなしている。次年度も、利用者様が安心して安全で快適な生活ができるように支援して行きたい。

1) 本年度の在園期間別人員数及び平均在園期間は、別表(3)の通りである。

別表(3) 入園期間別人員数及び平均入所期間

区分	1年未満	1-4	5-9	10-14	15-19	20年以上	計	平均
男		2	2		1	8	13	25年0ヶ月
女			1	1	1	12	15	31年8ヶ月
計	0	2	3	1	2	20	28	28年6ヶ月

2) 本年度の年齢区分別人員数及び平均年齢は、別表(4)の通りである。

別表(4) 年齢区分別人員数及び平均年齢

区分	20歳未満	20-29	30-39	40-49	50歳以上	計	平均
男		1	2	1	9	13	52歳10ヶ月
女				1	14	15	60歳5ヶ月
計	0	1	2	2	23	28	57歳4ヶ月

3) 本年度の主な実施事項は、別表(5)の通りである。

別表(5) 主な実施事項

月日	行事	月日	行事
4/21	祝50周年開園記念行事	11/4	お弁当を食べよう
5/19	映写会	11/17	夕食会(しゃぶしゃぶ)
6/23	夕食会(ざるそば・うどん)	12/14	もちつき・忘年会
7/21	1日レクリエーション	1/19	喫茶店(コーヒー他)
9/22	夕食会(ステーキ)	2/21	ラーメンを食べよう
10/20	喫茶店(コーヒー他)	3/17	夕食会(チャーハン他)

4) 本年度実習生の受け入れ

介護等体験実習・保育実習 I

*新型コロナウイルス感染拡大対応の為中止する

[看護課]

今年度も新型コロナウイルス感染症により、日常生活が余儀なく制限された1年であった。そんな中、骨折で6月と8月に入院手術をされた者2名、9月末には女性2名が带状疱疹で内服治療をし、その他、内科的治療での入院が6月と今年2月に2名で内1名はADL低下で7月に退園することとなった。年2回の健康診断は実施、年1回の口腔健診は随時実施中。インフルエンザ罹患者はなかったが、コロナ感染が8月に12名と12月に9名でいずれも抗ウイルス剤の点滴と解熱鎮痛薬での対処療法で重症化することなく経過した。感染予防対策においては職員・利用者様への意識向上と周知徹底を図ることと、制限された生活でストレスが蓄積しており、体調の変化に注意し環境の調整を行っていく必要を感じた。又、加齢に伴う身体機能の低下で誤嚥や転倒事故が増加しており、生活環境の見直しと利用者様への注意喚起を行い、職員全体で情報を共有し常日頃から状態に応じた看護を提供し残存機能を考慮しながら、その人らしい生活ができる様な看護の提供に努めたい。

1) 月別受診人員数は別表の通りである。

2) 別表(6)月別受診人員数

月別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
定期薬	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
臨時薬	23	23	22	22	20	21	21	21	21	21	21	21	257
循環器科	0	0	4	0	2	2	0	2	3	0	4	0	17
内分泌科	1	2	1	2	0	2	2	0	4	3	1	0	18
脳神経科	1	2	1	2	0	1	2	1	1	2	2	1	16
消化器科	0	1	1	0	0	0	2	1	0	0	0	0	5
一般内科	10	5	1	8	2	4	1	3	2	3	3	1	43
整形・外科	8	6	4	11	2	5	5	3	3	5	4	6	62
歯科	13	14	13	12	0	6	6	20	9	5	2	6	106
皮膚科	5	5	3	5	2	6	7	2	3	2	3	5	48
眼科	2	0	7	1	2	1	6	3	6	3	3	1	35
婦人科	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
精神科	2	1	1	1	0	1	0	1	1	2	2	2	14
入院	0	0	2	2	2	2	1	0	0	0	2	0	11
耳鼻科	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	3

千歳療護園

〈概況〉

本年度、新型コロナウイルス感染症も4年目を迎えるが、主流となっているオミクロン株は変異するごとに感染力が強くなる傾向にある。職員及び職員家族の感染が続き、利用者様への感染も危ぶまれる状況であった。法人内の他事業所ではクラスターが発生していたが、千歳療護園においては未だ利用者様の感染はあっていない。千歳療護園、第二千歳療護園では、事前に利用者様がコロナに複数名罹患した場合の対応や職員派遣の要請などの話し合いを行った。

6月後半、第二千歳療護園でクラスターが発生し、支援センターちとせを療養場所として使用した。陽性になられた9名の利用者様の支援のため、千歳療護園からは看護師2名及び介護士4名を派遣し約3週間対応し、7月の後半に第二千歳療護園のクラスターが終息となった。その後も職員の感染が後を絶たず施設内における様々な制約(施設への出入り、外泊、面会等)を繰り返している状況が続き、11月頃より第8波が猛威を振るい始め、職員の感染はあるも利用者様が感染することは無かった。今後も利用者様が新型コロナウイルス感染症に罹患しないよう努めて行きたい。

毎年、被害に遭遇している自然災害に於いては、前年度に大きな被害が出た台風の直撃はなかったが、8月24日の夜間に記録的な集中豪雨に見舞われ、千歳療護園西側の女性棟全室(11部屋)が床上浸水し利用者様に多大な不安を与えた。3年前の豪雨の際、浸水した経緯があるため、大雨警報や台風接近時には高さ20cm程度の板で女性棟西側に水除けを設置していたが、今年は予想以上の豪雨で回避することが出来ず、床上浸水の被害となった。再び被害に遭わないよう、災害対策委員会を中心に環境整備を図っていく。

防犯対策に於いては、一昨年9月にゆかり医療療育センターの自動ドアに人為的な破損があった事を踏まえ、千歳療護園においても防犯強化のため、10月4日から出入口4ヶ所に防犯カメラを増設し、不審者侵入防止等含め利用者様の安全確保に努めてきた。

感染法上の位置付けが5月より2類相当から5類へ移行される事が決まり、一般社会では日常の生活に戻りつつあるが、今後も感染防止対策に努め、利用者様の安心・安全そして楽しく過ごして頂けるよう職員一丸となって邁進したい。

<千歳療護園 総務課>

1. 本年度の各事業別利用状況

【施設入所支援：定員 40 名】

定員延数 14,600 名

年間実利用者数 14,448 名 定員から見た充足率 98.9%

1 日平均利用者数 39.5 名

【生活介護：定員 50 名（内、通所 10 名）】

入所：定員延数 10,480 名 年間延べ利用者数 10,338 名 充足率 98.6%

通所：定員延数 2,620 名 年間延べ利用者数 1,456 名 充足率 55.5%

【短期入所：定員 2 名】

年間延べ利用者数 19 名

【日中一時支援】

利用なし

【入院・外泊者】

入院延日数：94 日間 入院者：4 名

入院者 4 名のうち、1 名の方は令和 4 年 5 月 2 日から腎臓の数値が高いため入院加療していたが、5 月 10 日急性心筋梗塞により死亡退園された。

また、1 名の利用者様が誤嚥性肺炎による入退院を繰り返しておられたが、令和 5 年 3 月に救急搬送され、施設での生活は難しいとのドクター見解により退園されている。尚、令和 5 年 3 月 31 日現在の入院者数は 0 名である。

外泊については、1 名の方が 12 月に帰省している。

【入所】 1 名 令和 4 年 6 月 30 日

【退所】 2 名 令和 4 年 5 月 10 日(死亡退園)

令和 5 年 3 月 24 日(医療機関へ入院の為、退園)

2. 本年度の地域別入退園状況は別表 (1) の通りである。

別表 (1) 本年度の地域別入退園状況

(パートナー係)

個別支援計画のニーズを中心に利用者様の立場に立ち、自主性・選択性・対等性を尊重したサービス提供を行っている。また、園長との懇談会・職員との懇談会・利用者様の話し合いの場（ちとせ会・暖和会）等を通して、サービス提供に対する改善や意見の汲み上げ等も行っている。園内活動は感染対策を取りながら、納涼祭(模擬屋台にて食事のみ提供)、秋のお茶会(焼き芋)・運動会代替レクリエーション大会・節分豆まき等を実施している。利用者忘年会は施設閉鎖の為、中止。個別支援活動の時間に行っている外出ドライブについては、平年と比較すると施設閉鎖影響もあり、減少傾向であった。オンライン面会では、タブレット端末を利用し、遠方のご家族様との対話コミュニケーションが来ている。窓越し面会については、パーテーション使用して実施しており、定期的な面会予約があっている。生け花の活動に関しては、担当職員と利用者様にて、2か月に1度実施し、季節のお花を生けたり飾る事により楽しみを持って頂いている。ネイルボランティア・出張散髪等の外部訪問に於いては、コロナ感染対策の為、自粛させて頂き、職員対応にて行っている。

行政手続きでは、12月に久留米市に住民票がある利用者男性17名、女性13名の計30名を対象に久留米市及び国給付金の受給手続き。その他、受給者証・確定申告等の行政手続き代行も行っている。保護者との連絡関係では、園生活状況を記載した状況調書、保護者への連絡書、小遣い帳複製書類作成、状況調書発送等の業務を行っている。

利用者様の買物代行については、購入要望に沿って2週間に1度の間隔で行っている。

今年度はコロナウイルス感染症影響により、施設閉鎖も相次ぐ状況であった。幸いなことに利用者様へのコロナウイルス感染はあっていない。今後、例年計画している希望外出やランチ外出などの計画は、感染症対策における緩和状況をみながら徐々に社会との接点・行事再開を模索していきたい。

(サポート係)

令和4年度の千歳療護園は生活介護50名(現在の入所実人数40名・通所15名・短期入所1名)で構成されており、短期入院2名、新規入所1名であった。

高齢化が進むなか、誤嚥性肺炎の予防については力を入れており、看護課と協力し昨年同様、数名の利用者様を対象に吸引ブラシによる口腔ケアを1日2回実施している。しかし、今年度は誤嚥性肺炎にて、1名の方が6月・12月に2度入院された為、看護課・栄養士と相談し、食事の内容を見直している。

また、夜間巡回を強化(息遣いの確認・確認表)し観察を行っている。緊急事態に対応出来

るよう職員の意識向上に努めた。10月に眠りスキャンが15台増え、見守りが必要な利用者様に使用する事により、睡眠時の体調変化等、素早く対応出来る様にしている。

7月には、オミクロン株による感染が流行しており、第二千歳利用者様、職員よりクラスターが発生し、支援センターをコロナ隔離棟として使用している。協力要請があった為、千歳より看護師2名、サポート職員4名を派遣している。初めてのクラスター発生で緊張が走る中、コロナウイルス感染症マニュアルに則り、感染防止に努めた。約1ヶ月程で終息しているが、12月から1月にかけて職員よりコロナ陽性者がでていた。千歳の利用者様は現在まで一人も罹患される事なく元気に過ごされている。1月には給食職員より数名のコロナ陽性者があり給食閉鎖となる。それに伴い、数日間非常食の提供となっている。予想もしない出来事が多々あり、試行錯誤しながらではあったが、全職員一丸となり乗り越える事が出来た。

法人行事では、コロナウイルスの影響により、盆踊り大会が中止となっている。代わりに夕食時に屋台メニューを提供し、盆踊りの雰囲気を楽しんでいただいている。他には焼き芋会が行われた。11月には感染対策を取りながら、千歳内で運動会を開催している。久しぶりに全利用者様が食堂に集まり、パン食い競争やリレー等楽しいひと時を過ごす中で、利用者様の喜びの声を多くいただいている。

アクシデント報告については、19件発生した。中でも転倒、外傷事故が多く発生している。今一度職員に意識向上と改善を図るため、事故が多く発生する場所にポスターを掲示し職員に呼び掛けている。

少しずつコロナ陽性者数も減少傾向にあるが、今後も気を抜く事なく感染防止対策の強化を図っていきたい。

来年度は学園のテーマである「希望が芽吹く飛躍の年へ」を基に、希望を持ちながら、何事も成し遂げられるよう一致団結し、協力することの大切さを忘れず業務にあたっていく。

(2) 訓練支援課

千歳療護園では、男性22名、女性18名、計40名の利用者様に対し、理学療法士1名(兼任)、訓練支援員1名で、利用者様一人あたり1回30分の個別訓練支援を週1~2回実施した。

支援内容としては、利用者様の機能維持を心がけ、体力・筋力の維持、関節可動域の維持を目的に行った。具体的には、機能維持を目的として個別の能力に合わせた動作運動やバランス運動、筋力維持運動や、拘縮予防を目的として関節可動域維持運動を行った。筋緊張の強い利用者様には、ストレッチやマッサージにてリラクゼーションを行い筋緊張の緩和をはかった。身体に痛みがある利用者様には、ホットパックやマッサージを行い痛みの軽減・緩和に努めた。下肢に浮腫がある利用者様には、エアマッサージャー(メドマー)を使用して下肢の浮腫軽減を行った。また、座位保持の維持や上肢の巧緻動作維持を目的に、

パズルやトランプ、スキルスクリーン等の作製を取り入れた。

個別にかかわることで利用者様の希望・要望に沿えるよう心掛け、利用者様の話を傾聴し、気分転換に園周辺へ散歩に出かける等、コミュニケーションをはかりながらストレスの解消や情緒の安定をはかり、精神面から起きる機能低下防止にも心掛けた。

(訓練内容)

- 関節可動域運動
- 基本動作運動(寝返り・起き上がり・立ち上がり・立位保持・歩行等)
- 姿勢保持運動(座位バランス・立位バランス等)
- 日常生活動作運動(車椅子駆動・移乗動作等)
- 体力・筋力維持運動(腹筋運動・四つ這い運動・立ちかがみ運動等)
- 巧緻動作運動(パズル・ひも通し・スキルスクリーン等)
- リラクセーション(マッサージ・ホットパック・メドマー等)

補装具全般の交付・修理申請手続きを行い、車椅子(普通型・ティルト・リクライニング・座位保持装置)・電動車椅子・下肢装具・靴型装具等の作製・修理にも携わっている。令和4年度では、車椅子の修理申請8件、福祉用品の購入2件の手続きを行った。感染症予防対策のため補装具業者の来園等が制限され、交付・修理件数が例年よりも少なくなっている。

(出張関係)

- 福祉職員キャリアパス対応生涯研修過程チームリーダーコース
- 全国身体障害者施設協議会研究大会
- リスクマネジメント研修指導者・管理職員コース
- アンガーマネジメント研修
- 九州障害者支援施設研究大会
- 虐待防止マネージャー研修

(3) 相談支援課

【概況】

令和 4 年度も、新型コロナウイルス感染症の為に、基本行動の 3 密を避ける、マスク着用、こまめな手洗いと消毒、不要不急の外出を控える等の日常生活様式を継続した年になった。法人においても基本指針の見直しを策定し、それに沿った対応を行った。

7 月、8 月には、感染力の強いオミクロン株による感染が流行し、施設封鎖等の対応で、外出、外泊、面会等の自粛や法人行事が延期となる等、利用者様にとっては、ストレスの多い日々が続いた。

相談支援課は、一般生活支援業務（食事、排泄、移動）、相談室での散髪等の関わりを継続しながら利用者様お一人おひとりの一日の生活の流れ、身体面、精神面、対人面などを把握しながら、個別活動を中心にコミュニケーションを図り、信頼関係の構築に努めた。

新型コロナウイルス感染症の対策として、個別活動を中心に対応しながら出来る範囲で近隣の東部運動公園までの散歩を実施するなどして、ストレス解消や気分転換を目的に支援を行った。又、新たに外に出る機会を増やす為に、利用者様の希望に沿った、久留米、朝倉方面への午後 1 時間程度のドライブ外出を行い利用者様から笑顔と喜びの言葉を頂いた。利用者様の要望に速やかに対応できる様に時間割は設定していないが、利用者様の支援の中で話を聴く事に重点を置きながら、相談室の空間や関りを通して、穏やかな気持ちで生活できるように支援を行った。

【援助内容】

- ①面談活動（カタルシス）
- ②散歩療法（発散、リフレッシュ）
- ③表現療法（遊び活動、自己表現、生きがい、興味拡大、信頼関係）
- ④介護全般
- ⑤メンタルヘルス（ドライブ外出、カウンセリング）
- ⑥環境整備、その他

(4) 看護課

障害者支援施設に於て利用者様の高齢化に伴い、障害の重度化・重複化・疾病の多様化により、医療ニーズを抱える方も増加傾向であり、協力病院との連携が必要不可欠な状況です。また、近隣市町村で新型コロナウイルス感染症が長期化しており利用者・職員の身体面、精神面の負担も大きくなっている現状があります。今後、感染症への対応継続を図り、安心して過ごせる日常を取り戻せるよう努めていきます。

《令和4年度》

- | | | |
|-----------------|-------------------|-----|
| ① 委託入院 | 聖マリア病院 | 1件 |
| | 田主丸中央病院 | 5名 |
| | ゆうかり医療療育センターおひさま寮 | 1件 |
| ② 医療ケア | 膀胱瘻 | 2名 |
| | 経管栄養（胃瘻） | 1名 |
| | 吸入 | 1名 |
| | ストーマ | 2名 |
| | 留置カテーテル | 1名 |
| | 膀胱洗浄 | 1名 |
| ③ インフルエンザ予防接種 | | 40名 |
| ④ 新型コロナウイルス予防接種 | 4回目 40名 ・ 5回目 | 40名 |

⑤ 千歳療護園 年齢別入所者数 令和5年3月31日現在

年齢	30歳未満	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65歳以上	合計
利用者	0人	4人	3人	14人	13人	6人	40人
(%)	0%	10%	7.5%	35%	32.5%	15%	100%

⑥ 千歳療護園 病類別入所者数 令和5年3月31日現在

病名	人数	病名	人数
脳性麻痺	31		
頭部外傷後遺症	1	脳挫傷後遺症	2
精神遅滞（重度）	1	クモ膜下出血後遺症	2
進行性ミオクローヌスてんかん	1	重度知的障害	1
脳出血後遺症	1		

別表 (1)

地域別入退園者状況表

令和4年度

	区分 福祉名	前年度末 人員	本年度 入所人員	本年度 退所人員	本年度末 人員	性別		備 考
						男	女	
町 村 福 祉 関 係	志 免 町	1			1		1	
	上 陽 町							
	大 木 町							
	広 川 町	1			1	1		
	那珂川町							
	星 野 村							
	矢 部 村							
	苅 田 町							
	筑 前 町							
	福 智 町							
	小 計	2			2	1	1	
市 福 祉 関 係	福 岡 市	1		1		1	1	
	北九州市	2			2	2		
	大牟田市	2			2	2		
	久留米市	10	1		11	6	5	
	直 方 市							
	飯 塚 市							
	田 川 市	2			2		2	
	柳 川 市	3			3	1	2	
	宗 像 市	1			1	1		
	八 女 市	3			3	1	2	
	筑 後 市							
	大 川 市	3			3	1	2	
	小 郡 市							
	筑紫野市	1			1	1		
	春 日 市							
	大野城市							
	糸 島 市	1			1	1		
	山 田 市							
	行 橋 市							
	豊 前 市							
	中 間 市							
	古 賀 市							
	うきは市	5			5	1	4	
朝 倉 市	2			2	2			
みやま市	1			1	1			
福 津 市								
	小 計	37	1	1	37	21	18	
	目 田 市							
	佐 賀 市							
	佐賀中部							
	小 計	0	0	0	0	0	0	
合 計		39	1	1	39	22	19	

曜日	月	火	水	木	金	土	日
時間							
6:30	起床						
8:00	着替・洗面・移動						
9:00	朝食						
9:30	移動・排泄・歯磨き						
10:30	(朝礼・申し送り) (寝具交換・掃除)						
11:00	入浴 (女性)	入浴 (男性)	入浴 (女性)	入浴 (男性)	入浴 (女性)	入浴 (男性)	園長懇談会 (月最終日曜日)
12:00	訓 練	訓 練	ちとせ会 職員懇談会 訓 練	訓 練	訓 練	生け花	
13:30	昼食						
14:00	移動・排泄・歯磨き						
15:00	入浴 (女性) カラオケ 活動	入浴 (男性) 個別支援 暖和会	入浴 (女性) 個別支援	入浴 (男性) 個別支援	入浴 (女性) 個別支援	入浴 (男性)	
16:00	訓 練	訓 練	訓 練	訓 練	訓 練		
17:00	夕食						
18:00	歯磨き (自立者一部)、後片付け、排泄						
19:00	着替え、自由時間						
20:00	歯磨き						
21:00	消灯						
	<p>○月曜日 カラオケ活動</p> <p>○火曜日 個別支援活動、DVD鑑賞、暖和会(第3週)</p> <p>○水曜日 ちとせ会・職員懇談会(第4週)、個別支援活動、DVD視聴活動、</p> <p>○木曜日 個別支援活動、DVD視聴活動</p> <p>○金曜日 個別支援活動、DVD視聴活動、</p> <p>○月行事 体重測定(第1日曜)、出張散髪(最終月曜日) 利用者と園長懇談会(最終日曜日) 利用者買物(2週間に1回)、生け花(第3土曜日に千歳・第二が交互に実施) ネイルボランティア(今年度は中止)</p> <p>○隔月 防災教育、避難訓練、味彩クラブ(給食会議)</p> <p>※療育会議は、コロナウィルス感染対策の為に実施していない。</p>						

別表 (3)

年間実施行事記録表

令和4年度

月	日	行事等	月	日	行事等
4	8	千歳開園記念行事	10	5	秋のお茶会
				8	生け花(千歳)
5	18	安全対策防災教育	11	18	プロジェクションマッピングバス見学
	21	生け花(千歳)		24	運動会代替えレクリエーション
6			12	7	イルミネーション飾りつけ
				8	もち米贈呈式(第二のみ参加)
7	21	盆踊り代替え夕食会	1	15	生け花(千歳)
				31	出張散髪(斉田)
8			2	11	生け花(千歳)
	10	第二千歳開園記念行事		15	レクリエーション 豆まき
9	11	生け花	3	2	レクリエーション お雛様会
	22	納涼祭代替えレクリエーション			

【実習生受け入れ状況】

本年度の実習生受け入れは、コロナウィルス感染予防の為、中止している。

別表（４） 日常生活動作の介護状況（令和４年度）

生活動作	区分	男	女	計
食 事	自 立	0	0	0
	一部介助	10	13	23
	全介助	12	5	17
起 坐	自 立	1	0	1
	一部介助	9	10	19
	全介助	12	8	20
立ち上がり	自 立	1	1	2
	一部介助	5	6	11
	全介助	16	11	27
排 泄	自 立	0	0	0
	一部介助	6	8	14
	全介助	16	10	26
更 衣	自 立	2	1	3
	一部介助	1	4	5
	全介助	19	13	32
入 浴	自 立	0	0	0
	一部介助	4	3	7
	全介助	18	15	33
歩 行	自 立	1	1	2
	一部介助	5	1	6
	全介助	16	16	32
寝返り	自 立	7	4	11
	一部介助	0	1	1
	全介助	15	13	28
車椅子使用	自 立	5	2	7
	一部介助	10	12	22
	全介助	7	4	11

生活動作	区分	男	女	計	
夜間処遇	排便排尿	1回	6	5	11
		2回	6	7	13
		3回	4	1	5
		4回	5	1	6
		小計	21	14	35
	服 薬	1回	12	4	16
		2回	0	0	0
		3回	0	0	0
		小計	12	4	16
	体位変換	1回	2	2	4
		2回	1	0	1
		3回	1	0	1
		6回	0	0	0
		小計	4	2	6
	おむつ使用	昼・夜	3	1	4
夜間のみ		2	3	5	

- ・ 食事⇒配膳された状態で、魚の骨取りも含む。
- ・ 排泄⇒排泄後の処置、女性は生理処理も含む。
- ・ 更衣⇒ホックなど、着脱が行ない易く改良した衣類を使用して。
- ・ 入浴⇒一部自立とは、浴槽の中に独力で行っていることが出来たり、洗体の一部が出来る事。

(5) 通所支援課

障害者支援施設千歳療護園の通所事業として日中活動（生活介護）を実施した。現在、久留米市、うきは市、朝倉市を事業実施地域としてサービスを提供している。

令和5年3月31日現在の、支援センター利用契約者様は15名で、内訳は下記の通りである。

久留米市	10名
うきは市	5名
朝倉市	0名

今年度は、延べ1497名の方が利用され、1日平均6.1名の利用があった。内訳は下記の通りである。

久留米市	816名
うきは市	676名
朝倉市	5名

延べ利用人数は前年と比較すると394名の増となった。

今年度も、新型コロナウイルス感染症により見学や支援学校の実習が困難な状況だった。契約者様は12月に通所から入所へ変わられた方があり15名となる。現在19歳から70歳(男性6名女性9名)の方が利用している。

☆障害支援区分、主たる起因疾患別年齢表は、別表(A)の通りである。

☆月別・市別利用者数表は、別表(B)の通りである。

今年度は、7月に第二千歳療護園の新型コロナウイルス感染症によるクラスターが発生し、感染者の療養場所として支援センターを使用する。この間ゆうかり支援棟のホールを使わせて頂き入浴は典心の湯を使用。ご家族に状況を説明しご協力をお願い理解を頂き人数を4～5名に減らし場合によって夢の紀職員や基幹センター職員、外来に協力を頂き営業を行う。休んで頂いた利用者様には電話で心身の状態と生活状況を確認し記録を残す。感染症対策としてマスク着用をお願い、送迎時は朝の検温・移動時の換気千歳に到着後の手指消毒の徹底。検温時に37.5℃以上の時には利用を控えて頂いた。日中は、室内換気・人との間隔を空けて過ごしていただきテーブルには飛沫防止のパーティションを置いて対応し活動や創作活動、個別的機能訓練を実施した。また、発熱があった場合は解熱後24時間の様子観察後、風邪症状等なければ利用を再開して頂く事をご家族にお願いした。送迎終了後は、室内・トイレ・送迎車内の清掃と消毒を行い継続して業務を行った。

11月に支援センター職員の新型コロナウイルス感染が判明し、検査前のデイサービスを利

用されていた利用者様全員の抗原検査を行い陰性を確認後に再開する。

介護保険の共生型サービスは継続して行っている。

本年も、他施設との交流を行う事が難しかった。活動については、密を避ける為の対応を引き続き行いながらドライブやレクリエーションに取り組むことが出来た。

日中活動の支援内容

○身体介護 食事、入浴、排泄、移動、移乗介助

○創作的活動、文化的活動、社会適応訓練（個別活動・グループ活動）

<手工芸>

- 折り紙細工 花 小物 輪飾り
- 小物づくり 編み物 キーホルダー
- 造形 紙、布、ボタン、テープや毛糸、木の実など様々な材料を利用

○ジグソーパズルなど

<習字、読み、書き> 毛筆、読み書き練習、模写 作詞 詩

<制作> 貼り絵 自由画、ぬり絵、折り紙制作など

<外出> ドライブ

○機能訓練

日常生活動作訓練、四肢他動・抵抗運動、器具運動、積み木、紐通

○スポーツ、趣味娯楽活動

ポケネット、輪投げ、ナンバーストライク、トランプ、オセロ、

ジェンガ、ビー玉・おはじき、DVD鑑賞など

○更生相談

利用者様の要望や必要に応じて医療、福祉、介護等の相談を行っている。

別表（A）令和4年度

障害支援区分表

千歳療護園 通所支援課

	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	計
19歳以下				1		1
20～29			1	1	3	5
30～39					1	1
40～49			1		2	3
50～59			1		3	4
60～64						
65歳以上		1				1
計		1	3	2	9	15

主たる起因疾患別年齢表

起因疾患 年齢	(a)	(b)	(c)	(d)	(e)	(f)	(g)	(h)	(i)	合計
	脳性麻痺	脳血管障害	脊髄損傷	頭部外傷	特定疾病	特定疾患	リウマチ	進行性筋萎縮症	その他	
(1)19歳以下	1									1
(2)20～29	4								1	5
(3)30～64	2	1			2			1	2	8
(4)65歳以上		1								1
合計	7	2			2			1	3	15

別表 (B) 令和 4 年度 月別・市別利用者数表

千歳療護園 通所支援課

月	利用日数	利用者数	1日平均
4	20	142	7.1
5	19	109	5.7
6	22	162	7.3
7	20	58	2.9
8	21	147	7
9	20	134	6.7
10	20	129	6.4
11	20	115	5.7
12	21	105	5
1	19	114	6
2	19	131	6.8
3	22	151	6.8
計	243	1497	6.1

月	久留米市			うきは市			朝倉市		
	全体	男性	女性	全体	男性	女性	全体	男性	女性
4	72	19	53	70	36	34	0	0	0
5	61	14	47	48	24	24	0	0	0
6	86	22	64	71	34	37	5	5	0
7	30	7	23	28	13	15	0	0	0
8	75	16	59	72	36	36	0	0	0
9	70	18	52	64	30	34	0	0	0
10	71	22	49	58	23	35	0	0	0
11	65	17	48	50	21	29	0	0	0
12	55	11	44	50	21	29	0	0	0
1	65	17	48	49	19	30	0	0	0
2	79	22	57	52	21	31	0	0	0
3	87	22	65	64	27	37	0	0	0
計	816	207	609	676	305	371	5	5	0

令和4年度 出張報告

日付	出張用件	出張先	参加数
4/18	全国大会(福岡大会)三役会・実行委員会	WEB	2名
4/19	自民党社会福祉推進議員連盟ヒアリング	東京都	1名
4/20	九障協第1回理事会	WEB	2名
4/21	施設協連絡会 会長会議	WEB	1名
4/22	県経営協 総務委員会	WEB	1名
5/12	九社連 各県委員長会議	WEB	1名
5/15	公明党福岡県支部政策要望懇談会	福岡市	1名
5/17	常任協議委員会	WEB	1名
5/17・19	県社協 社会福祉施設役職員研修 新任職員研修	WEB	1名
5/20	県経営協 協議員会	WEB	1名
5/23	全国大会(福岡大会)三役会・実行委員会	WEB	2名
5/24	テクノエイド協会 理事会	WEB	1名
5/25	身障協 協議員総会	WEB	1名
5/26	福障協 幹事会・施設長会	WEB	2名
6/1	社会福祉振興・試験センター 理事会	東京都	1名
6/3	全社協 理事会	WEB	1名
6/6	福利厚生センター 理事会	WEB	1名
6/8	身障協 正副会長会議	WEB	1名
6/14	県経営協 経営セミナー	WEB	2名
6/15・17	県社協 社会福祉施設役職員研修 中堅職員研修	WEB	1名
6/16	施設協連絡会 会長会議	WEB	1名
6/21	特定給食施設等研修	WEB	1名
6/28～7/24	久留米市 集団指導	オンデマンド	1名
7/1～15	福岡県相談支援従事者初任者研修(講義のみ)	オンデマンド	1名

7/1	福利厚生センター 理事会	WEB	1名
7/6	全国大会(福岡大会)三役会・実行委員会	春日市	1名
7/8	県経営協 総務委員会	WEB	1名
7/13	県災害福祉支援ネットワーク協議会	WEB	1名
8/1・2	福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程 チームリーダーコース	WEB	1名
8/5	身障協 正副会長会議・委員長会議	WEB	1名
8/8	県福祉大会運営委員会	春日市	1名
	全国大会(福岡大会)実行委員会	春日市	2名
8/18	身障協 正副会長会議・委員長会議	WEB	1名
8/23	全国大会(福岡大会)拡大実行委員会	福岡市	2名
8/24	令和4年度施設長実学講座(第2回)	WEB	1名
8/29	県担当部局意見交換会	WEB	1名
9/7	全国大会(福岡大会)実行委員会	福岡市	2名
	常任協議員会	福岡市	1名
9/8・9	全国身体障害者施設協議会研究大会	福岡市	7名
9/16	福岡県サービス管理責任者研修(更新)	WEB	1名
9/20	障害者権利条約第1回建設的対話報告会	WEB	2名
9/26	県福祉大会運営委員会	WEB	1名
9/27	故安倍晋三氏葬儀	東京都	1名
	県身障協 施設長・職員研修会	WEB	1名
9/29	九社連 各県委員長会議	宮崎県	1名
9/29~10/12	九州身体障害児者施設研究大会	ホテマント [®]	2名
10/3	九障協 理事会	WEB	2名
10/5	厚生労働省との意見交換会	WEB	1名
10/11	全社協 福祉懇談会	東京	1名
10/12	全社協 福祉ビジョン21世紀セミナー	東京	1名
10/14	全国重症心身障害児者施設職員研修会 「栄養士・調理師コース」	WEB	1名
10/19・20	リスクマネジメント研修	WEB	2名

10/24・25	コーチング研修	WEB	1名
10/24・26	福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程 中堅職員コース	WEB	1名
10/25～11/7	ふくおかライフレスキュー事業 サポーター養成研修	オンデマンド	1名
10/26	福岡県社会福祉大会	春日市	1名
10/27	県経営協 会計・財務入門講座	WEB	1名
11/1	アンガーマネジメント研修	WEB	2名
11/2	事業継続計画(BCP)策定支援研修	WEB	1名
11/8・16	ふくおかライフレスキュー事業 サポーター養成研修	春日市	1名
11/11	全国健康福祉祭 福岡県選手団 団結式	福岡市	1名
	「報・連・相」強化研修	WEB	1名
11/16	広報力強化研修	WEB	1名
11/18	全社協 理事会	WEB	1名
11/24	福利厚生センター 理事会	WEB	1名
11/27	公明党 政策要望懇談会	福岡市	1名
11/29	県社協 施設委員会	春日市	1名
12/2	九障協 理事会	WEB	2名
	記録技術研修(実践コース)	WEB	1名
12/7	福障協 幹事会・施設長会	福岡市	3名
12/8	利用者・家族とのコミュニケーション力向上研修	春日市	1名
12/10～23	感染症予防研修(後期)	オンデマンド	2名
12/14	正副会長会議・常任協議員会	WEB	1名
12/15	施設協連絡会 会長会議・障害関係会長会議	WEB	1名
12/27	正副会長・委員長会議	WEB	1名
1/18	接遇マナー向上研修	春日市	1名
1/27～2/28	障害者虐待防止マネージャー研修	オンデマンド	全職員
2/1～14	福祉サービス苦情解決従事者研修	オンデマンド	1名
2/2	正副会長会議・常任協議員会 厚生労働省との意見交換会	WEB	1名
2/3	県身障協 役員会	春日市	1名

	事業継続計画(BCP)策定支援研修	WEB	1名
2/7	説明力向上研修	WEB	1名
2/8	県経営協 協議員会	春日市	1名
2/10	九障協 新旧理事会・施設長総会	福岡市	2名
2/14	県経営協 経営者セミナー	WEB	2名
2/16	施設協連絡会 会長会議他	WEB	1名
2/16~3/2	九障協研究大会(大分大会)	ホテマント [®]	5名
2/17	九障協研究大会(大分大会)分科会	WEB	5名
2/21	テクノエイド協会 理事会	WEB	1名
2/28	正副会長会議・常任協議員会	WEB	1名
3/2	九社連 各県会長会議	WEB	1名
3/6	社会福祉基金等運営委員会他	春日市	1名
3/7	県社協 理事会	春日市	1名
3/8	身障協 協議員総会	WEB	1名
	業務目標の設定・管理・達成研修	WEB	1名
3/9	全社協 理事会	東京都	1名
	給食施設関係者等研修会	WEB	1名
3/16	福利厚生センター 理事会	東京都	1名
3/17	社会福祉振興・試験センター 理事会	東京都	1名
3/22	県経営協 協議員会・総会	福岡市	1名
	県経営協 経営者セミナー	WEB	4名
3/27	県身障協 施設長・職員研修会	WEB	1名
3/29	福障協 幹事会・施設長会	春日市	2名
3/7~31	身障協 経営セミナー	ホテマント [®]	1名

第二千歳療護園

〈概況〉

令和4年の新語・流行語大賞の年間大賞は「村神様」。その他に「キーウ」、「きつねダンス」、「国葬儀」、「宗教2世」等が候補として挙がっており、ヤクルトの村上宗隆選手が王貞治さんの持つ日本人最多本塁打を58年ぶりに更新する56本の本塁打と史上最年少で3冠王を獲得という輝かしい記録が反映されたものが選ばれているが、令和4年の漢字では「戦」が選ばれ、「安」、「楽」、「高」、「争」等が候補に挙がっており、冬季オリンピック終了と同時に始まり、未だに終わりの見えないロシアによるウクライナ軍事侵攻、安倍前首相銃撃事件や、それに端を発した宗教2世問題、日々の生活の中で直面する急激な円安や物価高の影響が反映されたものが多くみられた。

新型コロナに関しては昨年引き続き法人の新型コロナ感染予防対策基本指針の下、利用者様やご家族に面会、外出、外泊自粛、禁止等への協力、また職員に対しても、県外をまたぐ不要不急の外出、外食、会食等の自粛、行動履歴の記録実施等、利用者様、ご家族、職員の理解と協力のおかげで、これまで利用者様には一人として感染者を出すことなく生活を送ることができていたが、6月末から7月末にかけて利用者様24名、職員8名が感染するクラスターが発生し、重症化の恐れのある利用者様6名が医療機関に入院し、うち1名の利用者様が施設では医療的ケアが困難であるとの判断で退所することとなり、利用者様やご家族に多大なご迷惑とご心配をかけてしまう事となってしまった。8月以降も職員や職員家族に陽性者が発生し、職員の自宅待機、施設閉鎖を繰り返すも利用者様に感染者がでることはなかった。年が明けて1月初旬に利用者様8名、職員1名のクラスターが発生したが、前回のクラスター時の反省点を活かし、感染された利用者様全員をリハビリ室で療養していただき、それ以上の感染者を出すことなく2週間程で終息できている。

行事においては昨年同様、法人行事の盆踊り花火大会、運動会は中止となったが、レクリエーション委員会や日中活動委員会が中心となり、感染予防対策を行いながら利用者様のストレス解消を図り、楽しんで頂ける行事やレクリエーション、相談支援課によるドライブ外出、園周辺散歩を実施してきた。

権利擁護・障害者虐待防止法・障害者差別解消法については、インカムの使用を継続しており、夜間帯でのコール対応についても同性での対応を心掛け、完全な同性介助の実現に向け努力している所である。

防犯対策に於いては、施設通用口各所に6台の防犯カメラと施設外周には赤外線センサーを設置し、更なる防犯対策の強化を図った。

利用者様の高齢化、重度化に伴い急変時への対策として、見守り支援システム『眠りスキャン』を新たに15台導入し、夜間帯に急変の可能性のある利用者様に使用して頂き、異常の早期発見・対応、夜間勤務職員の負担軽減を図ってきた。また、医療的ケアが必要な利用者様も年々増加しており、長期入院者を出さないよう口腔ケアによる誤嚥性肺炎予防、

異常の早期発見、早期治療を徹底し、利用者様に安心して生活を送っていただけるようなサービス提供を行ってきた。

1月のクラスター以降現在まで利用者様、職員に感染者は出ておらず全国的に感染者も減少傾向となり、3月13日よりマスク着用は個人の判断となり、5月8日から新型コロナウイルスは指定感染症としての2類から5類に引き下げるなど国のウイルス感染症対策も緩和されてきているが、利用者様の命を守るため、法人の新型コロナウイルス感染予防対策基本指針に沿った対応を継続しながら、今年のゆかり学園のスローガンである「希望が芽吹く、飛躍の年へ」～手と手をさし伸べて、やがて「和」へ～を支えとして法人全体がひとつになって利用者様のQOL向上に努めていかなければならないと思っている。

総務部

<第二千歳療護園 総務課>

1. 本年度の各事業別利用状況

【施設入所支援：定員40名】

定員延数 14,600名 年間実利用者数 14,022名 充足率 96.0%、
1日平均利用者数 39,2名

【生活介護：定員40名】

定員延数 10,440名 年間延べ利用者数 10,024名 充足率 96.0%

【短期入所：定員2名】

1名の利用者様が、年間延べ 2日間利用。

【日中一時支援】

利用なし

【入院・外泊者】

入院者数 14名、入院延日数 401日間。

外泊者数 0名、外泊日数 0日

入院状況として入院者14名のうち6名の利用者様がコロナウイルス感染症に罹患し久留米市内の医療機関に入院されたが、約一週間程で回復し5名の方が退院し1名の方は継続的な医療的ケアが必要となり他医療機関に転院し退所となった。また、利用者様の高齢化や障害の重度化、身体機能の低下、疾病の多様化等により様々な疾患に罹患するリスクが高くなっており、一度入院されると長期化したり、入退院を繰り返す傾向が窺えた。

外泊についてはコロナウイルス感染によるクラスターが2度発生したこともあり、今年度は、利用者様、ご家族様のご理解、ご協力により外泊される利用者様はいなかった。

尚、令和5年3月31日現在の入院者は2名である。

【入所・退所】

令和4年6月1日付、1名入所。
令和4年9月5日付、1名退所（医療機関へ）。
令和4年11月1日付、1名退所（医療施設へ）。
令和4年11月11日付、1名入所。
令和4年12月20日付、1名入所。
退所者等による減数177日間。

2. 本年度の地域別入退所者状況は別表（1）の通りである。

別表（1）本年度の地域別入退園状況

生活部

（1）生活支援課

[パートナー係]

個別支援計画のニーズを中心に月一回の自治会役員との話し合いの場（ちとせ会）を通して利用者様の自主性・選択制・対等性を尊重しながらサービス提供を行ってきた。

今年度も新型コロナウイルスの第5波となる感染力の強いオミクロン株の感染拡大にて第二千歳では6月末からと令和5年1月に利用者様への感染が確認され、6月末からは一か月程、1月は二週間程の施設閉鎖となっている。利用者様のニーズとして最も楽しみとされている外出（買い物・食事）が今年度もできていない為、2週間に1回の買い物代行とネットでの購入支援・支払い代行等を行っている。利用者様の誕生日にはご希望のプレゼントをお尋ねしてプレゼント購入を行っていたが、閉鎖や職員、職員家族の感染に伴い買い物に行く時間を確保できずに今年度は皆さんにバスタオルセットをお配りしている。

ご家族様との面会は感染状況をみながら窓越し面会やオンラインでの面会を行っているが、園内での生活の様子など安心していただけるように個別支援計画のニーズの定期的な確認、見直しを行い状況調書の発送を行った。様々な行事も行うことができず中止となっているが、その様な状況の中でも利用者の皆様には少しでも気分転換となるよう、また安心して楽しんでいただける様、感染対策をしながら日中活動としてビデオ視聴、カラオケ、個別活動を試行錯誤しながら担当職員、各委員会で行っている。＜花火鑑賞・開園記念・納涼祭・レクリエーション大会(秋の運動会)・忘年会・お楽しみ会・ドライブ外出など＞

今年度もネイルボランティアをはじめ理・美容の訪問もご遠慮いただいているが、活動として行っている月一回の生け花はタブレット端末を使用し、先生による生け方のポイントや手順の説明をお聞きしながらオンラインにて実施、完成した作品は千歳、第二千歳、渡り廊下等に飾り、季節の花を皆様に楽しんでいただいている。散髪は職員による散髪を定期的に行っている。

高齢化に伴い医療的ケアを要する利用者様が増え今年度も入院のご利用者様の入院時支援や入退所に伴う手続きを行っている。

ゆうかり学園新型コロナウイルス感染予防対策基本指針に沿って感染予防対策を行う中、コロナ感染者数も減少傾向にある事から買い物外出のご希望が多くあり、来年度は十分な感染対策を行いながら近隣への買い物外出、ドライブを計画している。安心して少しでも楽しい生活を送っていただける様、最善の努力をしていきたい。

☆週生活表、年間実施行事は別表の通り

(サポート係)

施設入所支援 40 名、生活介護 40 名、短期入所 2 名。現在、男性 21 名、女性 19 名（最少年齢 36 歳、最高年齢 80 歳、平均年齢 59 歳、退園 2 名、入園 3 名、3/31 現在）の方の日常の生活介護・精神的支援、個別のニーズに沿った支援を行った。

今年度も、サービス管理責任者を中心に、利用者様の自立支援を目標に、ケアプランの作成・実施・検討を行いながら日々の支援を行った。

今年度、第二千歳療護園は開設 8 年を迎え、利用者様の平均年齢も 59 歳となり、加齢に伴い身体の機能低下も著しく見られ、介護や医療を必要とする場面が多くなって来ている。健康維持(誤嚥性肺炎予防など)を目的とした口腔ケアの実施も継続して行っているが、入院者数に関しては、過去最多(新型コロナウイルス感染症含む)となっている。

新型コロナウイルス感染予防に於いては、ゆうかり学園新型コロナウイルス感染予防対策基本指針の下に利用者様の命を守るための対策を行っていたが、6月26日夕刻、利用者様1名発熱し、翌日、ゆうかり医療療育センターにてPCR検査を行ったところ陽性であることが判明、その後も、感染者が増え続け、利用者様24名、職員8名のクラスターとなってしまった。療養については、千歳療護園支援センターにて療養者を観察していたが、感染力の強さから、新規感染者の増加により、回復期にある利用者様を可能な限り感染対策を行いながら、第二千歳療護園内(リハビリ室・居室)で観察を行った。ほとんどの入所利用者様は基礎疾患や内科疾患等により重症化の可能性が高い為に、コロナ陽性が確認された初日より、新型コロナウイルス治療を実施し、6名の利用者様は、医療機関での入院治療となった。幸いほとんどの利用者様が軽症で経過された。また、クラスター中には、感染防止の体制強化として、感染専門派遣看護師の指導を受け、体制を整えた。法人内からの職員応援要請として、千歳療護園から看護師2名、支援員4名、ゆうかり医療療育センターから看護師2名の応援協力を受けクラスターを乗り越える事が出来た。しかし、令和5年1月にもコロナウイルス感染症が猛威を振るい利用者様8名に感染、リハビリ室にて療養を行い新型コロナウイルス感染症の2つ目の山を乗り越えた。

利用者様に於いては、新型コロナワクチン接種(39名)の5回目を実施したが、特に大きな副反応は観られなかった。感染防止対策としては、引き続き、食堂テーブルパーテーション、手指消毒の徹底、食事支援や移乗支援等接触場面での使い捨てエプロンの着用、自動おしぼり機の使用(食事・口腔ケア)、コロナ対応時のゾーニング用パーテーション、などコロナ感染防止対策に万全を尽くした。

利用者様の面会については、コロナ感染状況を見ながら慎重に行い、パーテーション越しの対面面会や、玄関での窓越し面会、オンライン面会、など感染対策を万全に実施した。年末年始の自宅帰省については、慎重に協議を重ね、地域での感染状況も減少していたため、希望者のみ期間を限定して予定していたが、年末に地域および法人内での感染者が拡大したため中止となった。

福祉機器に於いては、ICT、IOT 活用による業務効率化を目的として、コロナ感染予防対策による面会の自粛期間も長くなり、その対応としてタブレットによるオンライン面会に活用、遠方のご家族など好評を得ている。また、眠りスキャン 15 台（計 20 台）を導入、高齢の利用者様および健康観察が必要な方に使用し、ベッド就床時での、体動（呼吸、心拍など）の測定や睡眠状態が把握でき、生活リズムの改善や健康状態の把握が出来た。

防犯対策に於いては、施設通用口各所に 6 台の防犯カメラと施設外周には赤外線センサーを設置し、更なる防犯対策の強化を図った。

法人の恒例行事である盆踊り大会および運動会がコロナ感染症を考慮し中止となったが、レクリエーション委員会及び日中活動委員会を中心に多くの行事を企画し開催した。開園記念、夏祭り風納涼祭（盆踊り代替え）、レクリエーション大会（運動会代替え）、秋のお茶会、ペルバス慰問、忘年会など、恒例の行事に加え工夫を凝らした行事に利用者様から好評を得た。個別活動も、コロナ感染対応等で実施できない事も多かったが、相談支援課にて、コロナ禍でストレスを抱えている利用者様の気分転換を図る目的で施設周辺へのドライブ外出や屋外散歩を実施し、楽しんで頂いた。

環境衛生委員会による定期的な花苗の植替えは利用者様も楽しみにされており恒例活動となっている。

今後も多様化してくる利用者様のニーズに応えるべく、全職員で支援に取り組んでいきたい。

(2) 訓練支援課

第二千歳療護園においては、利用者様 40 名(男性 21 名・女性 19 名)に対し、理学療法士 2 名(1 名兼任)で訓練を実施した。

利用者様 1 人あたり 1 回の訓練時間を 30 分とし、身体状況によって週 1~2 回実施した。個別に関わり状況に応じて居室を使用するなど、充実した訓練内容となるよう支援を行った。

訓練内容については、利用者様の高齢化に伴う身体機能の低下がみられるため、主に体力・筋力・バランス能力の維持、残存機能の維持、関節可動域の維持、拘縮の予防、痛みの軽減等を目的として実施した。訓練を行いながら利用者様の思いや不満に傾聴することで、ストレスの解消や情緒の安定にも務めた。また利用者様の希望される、折り紙や塗り絵等の制作活動や、バッティング、キャッチボールといった体を動かす活動、オセロやトランプ、パソコン(インターネット検索)等の趣味活動、施設外周や運動公園へ散歩を行うことで、訓練時間をより楽しいものと感じていただけるよう関わり、訓練への参加意欲

向上を図った。

(訓練内容)

- 関節可動域運動
- 体力、筋力、バランス能力運動
(腕立て、腹筋、背筋、スクワット等)
- 巧緻動作訓練(パズル、はめ絵、折り紙等)
- 姿勢保持運動(立位、座位バランス等)
- 日常生活動作運動(車椅子移動、移乗動作等)
- 歩行運動(歩行器歩行)
- 趣味活動(バッティング、ゲーム、パソコン等)
- リラクセーション(マッサージ、ストレッチ、プロンキーパー等)

補装具の交付修理申請については、車椅子支給申請2名、修理申請5名、福祉用具購入2名について実施した。感染症予防のため車椅子業者の施設内立ち入りが制限され、車椅子作製や修理、姿勢保持テーブル・クッション等の補装具作製が思うように出来ていない。

今年度は利用者様が新型コロナウイルスに罹患され、隔離対応室として訓練室を使用した。

(出張関係)

- 九州障害者支援施設研究大会

(3) 相談支援課

【概況】

令和4年度は、前年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の拡大防止に努め、感染対策に沿った生活様式を継続した。

新型コロナワクチン接種も5回目を実施し、希望をされた利用者様は全て完了しているが、6月下旬と1月に新型コロナウイルス感染症によるクラスターが2回発生し、利用者様、ご家族様にとっては、ストレスや不安の多い日々が続いている状況であった。

相談支援課は、新型コロナウイルス感染症による施設閉鎖もあり、一般生活支援業務での関わりが中心となることがあり、利用者様お一人おひとりに合った関係を築けるよう努めた。

行事関係は、レクリエーション委員会をはじめ、全ての職員で感染対策など色々工夫を凝らし計画されているにも関わらず、ゆうかり学園新型コロナウイルス感染予防対策基本指針での制約により、屋外での活動は少なく利用者様より「外に出たい」という声を多く聞くため、なるべく屋外散歩やコミュニケーションを取り入れ活動した。また、限られた

生活空間だけでなく外に出る事により、季節を肌で感じ、日光を浴びストレス解消へとつながるよう相談支援課の働きかけの一つとして、ドライブ外出を1時間程度ではあるが実施し、利用者様からは「楽しかった、また行きたい」などの声が聞かれた。

制限された生活様式の中ではあるが、ストレス解消や気分転換を目的に支援を行い、穏やかな安定した気持ちで生活できるよう支援を行った。

【援助内容】

- ①面談活動（カタルシス）
- ②散歩療法（発散、リフレッシュ）
- ③前頭前野活性化法（読み聞かせ等）
- ④介護全般
- ⑤メンタルヘルス（外出、カウンセリング）
- ⑥その他

(4)看護課

障害者支援施設に於て利用者様の高齢化に伴い、障害の重度化・重複化・疾病の多様化により、医療ニーズを抱える方も増加傾向であり、協力病院との連携が必要不可欠な状況です。また、近隣市町村で新型コロナウイルス感染症が長期化しており利用者・職員の身体面、精神面の負担も大きくなっている現状があります。今後、感染症への対応継続を図り、安心して過ごせる日常を取り戻せるよう努めていきます。

《平成4年度》

①委託入院	田主丸中央病院	8件	
聖マリア病院	4件	久留米記念病院	1件
久留米大学医療センター	1件	朝倉医師会病院	2件
久留米総合病院	1件	新古賀病院	1件
②医療的ケア	経管栄養（胃瘻）	2名	
	吸引 1名 ・ 吸入	2名	
	膀胱瘻 2名 ・ 膀胱洗浄	1名	
	ストーマ	1名	
③インフルエンザ予防接種		35名	
④新型コロナウイルス予防接種	4回目 37名 ・ 5回目	38名	
⑤新型コロナウイルス罹患患者		31名	

⑥第二千歳療護園 年齢別入所者数

令和5年3月31日現在

年齢	30歳未満	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65歳以上	合計
利用者	0人	1人	4人	15人	7人	13人	40人
(%)	0%	2.5%	10%	37.5%	17.5%	32.5%	100%

⑦第二千歳療護園 病類別入所者数

令和5年3月31日現在

病名	人数	病名	人数
脳性麻痺	27	頭部外傷後遺症	1
先天性骨発育不全症	1	糖尿病	1
脳梗塞後遺症	1	脳出血後遺症	2
脳炎後遺症	1	精神発達遅滞	1
白内障術後無水晶体眼・左眼球萎縮	1	精神発達遅滞（重度）	1
クーゲルベルグ・ヴェランダー病	1	難治性統合失調症	1
脊椎損傷（第7胸椎）	1		

別表 (1)

地域別入退園者状況表

令和4年度

	区分 福祉名	前年度末 人員	本年度 入所人員	本年度 退所人員	本年度末 人員	性 別		備 考
						男	女	
町 村 福 祉 関 係	志 免 町							
	上 陽 町							
	大 木 町	2			2	1	1	
	上 毛 町	1			1	1		
	那 珂 川 町							
	星 野 村							
	矢 部 村							
	苅 田 町	1			1	1		
	筑 前 町	1			1	1		
	福 智 町	1			1		1	
小 計	6			6	4	2		
市 福 祉 関 係	福 岡 市	3			3	2	1	
	北九州市							
	大牟田市							
	久留米市	11	1	1	11	4	7	
	直 方 市							
	飯 塚 市	2			2	1	1	
	田 川 市							
	柳 川 市	1			1		1	
	宗 像 市							
	八 女 市	1			1	1		
	筑 後 市							
	大 川 市	1			1	1		
	小 郡 市	1			1		1	
	筑紫野市	2			2	1	1	
	春 日 市							
	大野城市							
	糸 島 市							
	山 田 市							
	行 橋 市							
	豊 前 市							
中 間 市								
古 賀 市								
うきは市	4	2		6	3	3		
朝 倉 市	3			3	3			
みやま市	3		1	2	1	1		
福 津 市								
小 計	32	3	2	33	17	16		
県 外	鳥 栖 市				1		1	
	日 田 市							
	佐 賀 市							
	佐賀中部							
小 計				1		1		
合 計	38	3	2	40	21	19		

曜日	月	火	水	木	金	土	日
時間							
6:30	起床						
8:00	着替 ・ 洗面 ・ 移動						
9:00	朝食						
9:30	移動 ・ 排泄 ・ 歯磨き						
9:30	(朝礼・申し送り) (寝具交換・掃除)						
9:30	入浴 (女性)	入浴 (男性)	入浴 (女性)	入浴 (男性)	入浴 (女性)	入浴 (男性)	フリー
10:30	訓練	訓練	訓練	訓練	訓練	訓練	【生花】
11:00	訓練	訓練	訓練	訓練	訓練	訓練	
12:00	昼食						
12:00	移動 ・ 排泄 ・ 歯磨き						
13:30	訓練	訓練	訓練	訓練	訓練	訓練	
14:00	入浴 (女性)	入浴 (男性)	入浴 (女性)	入浴 (男性)	入浴 (女性)	入浴 (男性)	
15:00	訓練	訓練	訓練	訓練	訓練	訓練	
16:00							
16:20							
17:00	※入浴は、週 2 回と 3 回を隔週で行い、男女各 2 グループに分け、1 ヶ月交代で午前と午後を入れ替えて実施						
17:00	夕食						
18:00	歯磨き (自立者一部)、後片付け、排泄						
19:00	着替え、自由時間						
20:00	歯磨き (介助者)						
21:00	歯磨き (自立者)						
21:00	消 灯						
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 月 曜 日 ビデオ視聴・個別活動・製作活動・ドライブ外出・レクリエーション (月～土) ○ 火 曜 日 利用者買物(隔週)・暖和会(第2週)・ネイルボランティア(今年度は中止) ○ 水 曜 日 買物外出、療育会議(コロナ感染予防対策のため今年度は全て中止) ○ 木 曜 日 買物外出、ちとせ会・職員懇談会(第2週) 午後カラオケ ○ 金 曜 日 ビデオ視聴・個別活動・制作活動・レクリエーション ○ 土 曜 日 生け花(第3週、千歳と交互に実施)オンラインで先生の指導の下実施 ○ 日 曜 日 体重測定 (第2日曜) ○ 月 行 事 出張散髪(第一週火曜日、最終月曜日)、園長との懇談会(水曜日又は木曜日) ○ 隔 月 防災教育、避難訓練、味彩クラブ(給食会議) 						

月	日	行 事 等	月	日	行 事 等
4	16	カラオケ	10	5	秋のお茶会
	12	散髪(職員)		14	散髪(職員)
	16	生け花		15	生け花
	29	散髪(職員)			
		※19日～21日施設閉鎖			
5	18	防災教育	11	4	レクリエーション大会(運動会代替え)
	28	生け花		18	えんとつ町のプペル光る絵本展
				19	生け花
6	1	散髪(職員)	12	14	忘年会
	2	カラオケ		17	生け花
	8	散髪(職員)			
	16	散髪(職員)			
		9日～10日、21日～30日 施設閉鎖			※19日～21日施設閉鎖
7		※1日～22日、29日～30日 施設閉鎖	1		※15日～23日施設閉鎖
8	4	散髪(職員)	2	2	散髪(職員)
	5	散髪(職員)		11	生け花
	10	第二千歳開園記念日(8周年)		14	散髪(職員)
	21	生け花		21	散髪(職員)
	25	納涼祭			
		※10日～16日施設閉鎖			
9	18	散髪(職員)	3	1	防災教育
	19	散髪(職員)		2	散髪(職員)
	27	散髪(職員)		11	生け花
	28	散髪(職員)		28	散髪(職員)

別表(4)

日常生活動作の介護状況

生活動作	区分	男	女	計
食 事	自 立	3	4	7
	一部介助	10	10	20
	全介助	8	5	13
起 坐	自 立	7	9	16
	一部介助	2	0	2
	全介助	12	10	22
立ち上がり	自 立	2	5	7
	一部介助	5	3	8
	全介助	13	11	24
排 泄	自 立	1	4	5
	一部介助	8	3	11
	全介助	12	12	24
更 衣	自 立	2	5	7
	一部介助	8	2	10
	全介助	11	12	22
入 浴	自 立	0	0	0
	一部介助	4	5	9
	全介助	17	14	31
歩 行	自 立	0	2	2
	一部介助	3	2	5
	全介助	18	14	32
寝返り	自 立	10	9	19
	一部介助	3	1	4
	全介助	8	9	17
車椅子使用	自 立	5	3	8
	一部介助	8	9	17
	全介助	7	4	11

生活動作	区分	男	女	計	
夜間処遇	排便排尿	1回	2	2	4
		2回	5	7	12
		3回	5	5	10
		4回	5	2	7
		計	17	16	33
	服 薬	1回	12	6	18
		2回	7	10	17
		3回	0	0	0
		計	19	16	35
	体位変換	1回	0	1	1
		2回	1	0	1
		3回	0	1	1
		6回	0	0	0
計		1	2	3	
おむつ使用	昼・夜	13	7	20	
	夜間のみ	0	4	4	

- ・食事 ⇒ 配膳された状態で、魚の骨取りも含む。
- ・排泄 ⇒ 排泄後の処置、女性は生理処理も含む。
- ・更衣 ⇒ ホックなど、着脱が行ない易く改良した衣類を使用して。
- ・入浴 ⇒ 一部自立とは、浴槽の中に独力で入っていることが出来たり、洗体の一部が出来る事。

令和4年度 出張報告

日付	出張用件	出張先	参加数
5/26	福障協 施設長会	WEB 会議	1名
6/14	社会福祉法人経営者セミナー	WEB 研修	2名
6/15,6/17	社会福祉施設役職員研修中堅職員研修	WEB 研修	1名
6/28～7/24	集団指導実施	動画配信	1名
7/16～7/29	県社協 感染予防研修(前期)	動画配信	1名
8/23	全国大会(福岡大会)拡大実行委員会	福岡市	1名
9/7	全国大会(福岡大会)実行委員会	福岡市	1名
9/8,9/9	全国身体障害者施設協議会研究大会	福岡市	4名
9/27	県身障協 施設長・職員研修会	WEB 研修	3名
9/27	福岡県サービス管理責任者更新研修	WEB 研修	1名
10/19,10/20	リスクマネジメント研修	WEB 研修	1名
10/24,10/25	コーチング研修	WEB 研修	3名
10/26	福岡県社会福祉大会	春日市	1名
10/27	県経営協 会計・財務入門講座	WEB 研修	1名
10/28	県経営協 会計・財務実務者セミナー	WEB 研修	1名
11/8,11/16	福岡ライフレスキュー事業 サポーター養成研修	春日市	1名
11/11	「報・連・相」強化研修	WEB 研修	1名
11/25	アンガーマネジメント研修	WEB 研修	1名
12/2	県社協 記録技術研修(障害者分野)	WEB 研修	1名
12/7	福障協 施設長会	福岡市	2名
12/8	利用者・家族とのコミュニケーション力向上研修	春日市	1名
12/1～12/23	県社協 感染症予防研修(後期)	動画配信	1名
1/18	接遇マナー向上研修	春日市	1名
1/27～2/28	障害者虐待防止マネジャー研修会	録画配信	1名
2/1	福岡県身体障害者施設協議会研修員会	WEB 会議	1名
2/1～2/14	福祉サービス苦情解決従事者研修会	動画配信	1名
2/3	事業継続計画(BCP)策定支援研修	動画配信	1名
2/10	九障協 施設長総会	福岡市	1名
2/16～3/2	九州障害者支援施設研究大会	録画配信	1名
2/17	九州障害者支援施設研究大会(分科会)	動画配信	4名
3/1	業務目標の設定・管理・達成研修	WEB 研修	1名
3/7～3/31	全国身体障害者施設協議会 経営セミナー	録画配信	1名
3/9	給食施設関係者等研修会	WEB 研修	1名
3/22	社会福祉法人経営者セミナー	WEB 研修	3名
3/27	福岡県身体障害者施設協議会 施設長・職員研修会	WEB 研修	3名

久留米市東部障害者基幹相談支援センター

1. 委託相談概況

委託相談では、担当の東部地区である山川、山本、草野、善道寺、大橋、船越、水縄、田主丸、水分、竹野、川会、柴刈の各小学校区エリアに在住の本人・家族からの相談対応を行った。相談件数全体は昨年 839 件に対して、1264 件と 1.5 倍の増加だった。電話相談が中心ではあるが、新型コロナ対策で控えていた訪問や同行、会議出席などのアウトリーチ支援が増加したことも要因と思われる。世帯の高齢化や交通手段がないために来所相談できない当事者や家族もあり、初回相談から訪問を希望されるケースも多かったが、関係機関から訪問などに同行依頼されるケースも増加した。

相談内容では、「福祉サービスの利用に関する相談」、「健康・医療に関する相談」、「家族や人間関係に関する相談」が多かったが、「家計・経済」や「就労に関する相談」も多く、年金申請や障害者手帳取得なども併せて対応する必要があり、課題の解決には継続的な対応を行っている。

障害種別では精神に障害のある方からの相談が圧倒的に多く、知的や発達障害のある児童の相談が増加した。

関係機関との連絡調整では、昨年 2113 件に対して 3150 件と増加した。特に、行政機関や医療機関との連携が増加しており、重層的に世帯の課題があるケースを行政各課と協議したり、地域で生活する精神障害者の支援に関して医療機関と連携するケースが多かった。一方で、地域の社会資源として専門の支援者からのサポートだけでなく、相互支援力を高めるピアサポート活動を行っている団体の活動状況を把握していくことにも注力した。(田主丸校区のフードドライブやこども食堂、親の会、当事者の会など)

【1】総合的・専門的な相談支援

○相談支援実績

相談件数 合計：1264 件

相談方法	訪問	来所相談	同行	電話相談	電子メール	個別支援会議	その他	合計
計	134	64	63	901	27	72	3	1264

○相談内容別件数 合計：1687 件

相談内容	福祉サービスの利用等	障害や症状の理解	健康医療	不安の解消 情緒安定	保育教育	家族関係 人間関係	家計 経済
計	659	23	147	346	62	163	72

生活技術	就労	社会参加 余暇活動	権利擁護	その他	住宅	合計
54	111	10	2	28	10	1687

○障害種別相談人数

実相談人数：410名(内児童112名) ()内は児童

	身体障害	知的障害	精神障害	重症心身障害	発達障害	高次脳機能障害	難病	その他	合計
計	46 (7)	146 (49)	198 (13)	0 (0)	92 (75)	12 (0)	20 (0)	21 (14)	535 (158)

※重複障害の場合があるため、実人数≦合計

○エリア別相談件数：1264件

東部	西部	南部	北部	市外	県外	不明	合計
1241	0	0	14	4	4	1	1264

○関係機関との連絡・調整

合計件数：3150件

	行政機関	就労機関	医療機関	福祉サービス事業所	居宅介護事業所	地域包括支援センター	相談支援事業所	教育機関
計	650	84	443	378	53	97	1067	62

成年後見関係	住宅関係	療育機関	発達障害者支援センター	その他	合計
20	26	0	1	269	3150

2. 基幹相談概況

今年度も新型コロナの感染対策を行いながら、相談支援事業所に対してサービス等利用計画作成についての指導、助言を行った。対応数は前年度、736件に対して今年度は868件と対応件数が100件以上増加した。兄弟児支援、生活困窮による支援など課題が混在する世帯支援を行ったことが件数増の要因だと思われる。

相談支援事業所に対する計画の繋ぎは昨年児・者合わせて22件、昨年度の19件から微増であり、今年度の繋ぎは新規委託相談からの繋ぎが多かった。相談支援事業所との連携は今後も関係構築に努めながらサービス等利用計画の推進を実施していきたい。

基幹研修については久留米市市民活動絆づくり推進事業と共同開催で「老病死喪

失を受けとめ、「支え合うコミュニティ」をテーマに久留米シティプラザで研修会を行った。また、基幹センターの機能強化を目的に福岡県自立支援協議会コーディネーター、日本相談支援専門員協会に所属する主任相談支援専門員を講師に招聘し研修を行った。

八女筑後・久留米圏域相談従事者情報交換会では、北部基幹相談支援センターと連携し、オンライン、書面開催の2回の情報交換会を開催した。

久留米市障害者地域生活支援協議会は、各部会の事務局として運営を行った。当センターでは、施策推進部会の重心分科会、こども分科会、おとな分科会の事務局を担った。重心分科会は重心医ケア児・者を担当している相談支援事業所との意見交換会、久留米市内の在宅医ケア児・者の実態調査を実施し、久留米市福祉サービス介護事業者協議会重心連携会議にて情報提供した。こども分科会では思春期を迎えた中高生等の実態等を把握し、課題の整理や補完できる仕組みづくりについて協議を行った。おとな分科会では就労支援を行う事業所、当事者を対象にシンポジウムを計画し3月に開催することができた。

地域との連携では、東圏域地域包括センター主催の民生委員・児童委員連絡会義や権利擁護地域ケア会議に出席し、民生委員、児童委員、関係機関と情報共有を行った。今年度は田主丸圏域の会議に加え草野、大橋校区の会議にも出席した。会議後、関係機関より情報提供のあった世帯に対して支援を行ったケースもあった。

久留米市では障害福祉や高齢者支援、生活困窮支援など、一機関だけでは対応が難しく課題が複雑化している世帯に対して、包括的な支援を検討していくことを目的に重層的体制整備事業の取り組みが進んでおり、基幹センターでも支援会議に参加し連携を図っているところである。

基幹相談支援センターでは今年度まで年2回発行していた機関誌を廃止し、次年度より基幹ホームページのリニューアルとSNSを活用することで、これまで届かなかった当事者などへ情報発信ができるように準備を進めている。

【1】指定相談支援事業者等に対する指導、助言

○支援内容：868件

	基幹から計画相談依頼	事業所からのケース相談	会議等の出席	同行	情報共有	情報提供のみ	計画作成における助言	その他	合計
合計	22	19	97	80	617	13	16	4	868

【2】サービス等利用計画作成の推進に伴う指定相談支援事業所への繋ぎ人数

	障害者	障害児
合計	15	7

【3】久留米市障害者地域生活支援協議会について

- 全体会
- 権利擁護部会
- 施策推進部会
- 重心分科会、こども分科会、おとな分科会、相談分科会

各部会、分科会の事務局として出席

【4】出張及び研修（13件）

久留米市介護福祉サービス事業者協議会「地域生活サポート研修会（防災編）」
(6月11日)

備えるくるめ研修会・Zoom（6月24日）

令和4年度地域自立支援協議会担当者会議（8月31日）

相談支援従事者現任者研修（9月27日、10月19日、11月15日、12月14日）

令和4年度八女筑後・久留米圏域相談支援従事者研修会・Zoom（10月28日）

令和4年度サポートステーション連携会議・オンライン（10月31日）

第2回コンソーシアム会議（11月21日）

令和4年度依存症関係機関意見交換会（11月28日）

九州地区障がい者相談支援事業合同研修会・Zoom（12月23日）

県南地域情報交換会（1月16日）

令和4年度福岡県ひきこもり支援者等地域ネットワーク会議（1月16日）

第3回コンソーシアム研修（2月7日）

令和4年度電話相談実務者研修会・オンライン（2月14日）

【5】主催・共催研修（4件）

久留米未来官民協働プロジェクト第3回拡大コンソーシアム（2月7日）

久留米市障害者基幹相談支援センター機能強化研修会（3月11日）

八女筑後圏域委託相談支援事業所情報交換会・書面（3月24日）

久留米市地域生活支援協議会おとな分科会就労シンポジウム（3月24日）

【6】会議

基幹相談センター委託運営会議（第3木曜日）

基幹相談センター長会議（第1木曜日）

基幹研修ワーキング

機関紙編集会議（11号・12号）

ホームページ・公式ライン検討会議

久留米市障害者地域生活支援協議会（全体会、施策推進部会、相談分科会、重心分科会、こども分科会、各部会・分科会事務局会）

重症心身障害児者地域生活支援事業連携会議

東部圏域権利擁護個別支援地域ケア会議

東部圏域地域ケア会議

田主丸地域民児協包括連絡会議(竹野校区、水縄校区、船越校区、水分校区、川会校区、柴刈校区、田主丸2校区を毎月ごとに開催)

大橋校区民児協包括連絡会議

草野校区民児協包括連絡会議

山本小学校生徒指導連絡会議

重層的支援体制整備事業会議

居住支援協議会生活支援部会

久留米市自殺対策連絡協議会

精神保健福祉関係機関連絡会議

他、医療・教育・福祉施設等、行政との関係者会議・個別支援会議

【7】連携した主な機関

医療機関(市内外)、訪問看護事業所、小・中学校、保育所、久留米市特別支援学校、田主丸特別支援学校、福祉サービス事業所(市内・外)、民生委員、児童委員、相談支援事業所(市内・外)、久留米市役所(田主丸総合支所)各課、久留米市保健所、他市役所各課、地域包括支援センター、発達障害者支援センター、障害者・就業生活支援センター、幼児教育研究所、久留米児童相談所、生活自立支援センター、市社会福祉協議会、若者サポートセンター、ハローワーク、年金事務所、障害者生活就労支援センター、家庭裁判所、成年後見センター、警察、NPO法人、ひきこもり支援センター、男女平等参画センターなど

委員会報告

- 苦情解決委員会
- 虐待防止委員会
- 安全管理委員会
- 医療機器安全管理委員会
- 医療ガス安全管理委員会
- 防災対策委員会
- 院内感染対策委員会
- 衛生委員会
- 広報委員会
- 療育会議運営委員会
- 福祉 QC 委員会
- ゆうかり医療療育センター防犯対策委員会
- 研修委員会

苦情解決委員会

《概況》

当委員会は利用者様が安全に安心して生活が送れるように、各施設で定期的に委員会を開催、各課連携を図り権利擁護、不適切な身体拘束やケアが行われていないか等、虐待の早期発見、防止を図る事を目的とし各施設で取り組みを行った。

新型コロナウイルス感染拡大防止の為 12月の第三者委員報告会、虐待防止研修会は書面での報告会開催とした。第三者委員の方からはコロナ禍で日々利用者様へ支援を行う職員へ暖かい労いの言葉を添えて頂いた。

《苦情・要望件数》

令和4年4月1日～令和5年3月31日

	ゆうかり医療療育センター	コアラ園	耳納学園	千歳療護園 第2千歳療護園
1. 職員の言動・対応等に対する苦情	1	0	2	1
2. 施設への要望	2	0	0	0
3. 利用者様から要望	0	0	5	0
4. 保護者（後見人）よりの苦情	1	0	0	0
5. 利用者様同士の苦情	0	0	1	0

《基本的取り組み内容及び状況》

ゆうかり医療療育センターにおいては、施設への要望2件、職員の態度、行為に対する苦情1件、地域の方より苦情1件あった。要望に対しては、速やかに掲示板に回答を掲示、保護者様からの要望に対しては電話での対応を行った。地域の方からの苦情に対しては、謝罪を行い再発防止と信頼回復の為、職員への周知徹底を図った。

職員の態度、行為に対する苦情については、事実確認や今後の仕事に対する姿勢などを面談にて対応中である。職員の職場環境を整えることも必要で、利用者様が安心してより快適な生活が送れるように支援を行っていかなければならない。

コアラ園苦情解決マニュアルの内容確認を、会議等にて定期的に周知を図った。

令和4年度は、特に苦情の届出等は無かった。

年度内に1回、保護者へのアンケート調査を行い、アンケート結果に基づく要望等の改善策を記入し、コアラ園自己評価表としてホームページにて公表した。

新型コロナウイルス感染拡大防止対策の為、5月16日～5月31日、12月14日～12月29日まで臨時休園を実施する事となり、その期間、在宅支援として各保護者への電話での状況確認や相談、療育教材等を各自宅へ郵送するなどのサポートを行う。(6/30～7/4の期間は在宅支援無し)

また、お盆・お正月期間等に、感染者が多い地域への里帰りをされる保護者様に対して、帰宅後に1週間の登園を控えていただく事をお願いする。

上記対応について、特に苦情等の申し出は無かった。

千歳療護園、第二千歳療護園では普段から利用者様への権利擁護や身体拘束等については、最重要事項として捉え支援の中で留意している所であるが、令和4年度の千歳療護園で苦情にあがってきた事例が11月に1件「職員からの言動」で上がっており、ご本人に謝罪し、以後定期的に話を聴きながら同様の訴えを繰り返さないよう対応を継続中である。

千歳療護園、第二千歳療護園では「社会福祉法人ゆうかり学園 理念・使命」、「身体拘束の3要件」、「具体的な虐待事例」、「障害者支援施設事例（明らかな虐待ではない不適切

ケアの中に本質がある)」等を朝礼時に読み上げる時間を設けるなど、利用者様への権利擁護や虐待、身体拘束等について職員に周知を行い、意識の向上を図る中で職員への苦情が上がってきたことは残念であるが、利用者様の思いを組み取りながら継続して支援を行っていききたい。

耳納学園は福祉的就労の場として、先ずは利用者様同士にて解決の努力、自治会活動にて対応の話し合いを行い、自立した生活を尊重し自己決定、自己責任、自己解決の努力をして頂いている。その上で職員は相談、助言を行い、利用者様に不満を抱かせない様、速やかな解決、対応が出来るように心がけ支援を行っている。

引き続き新型コロナウイルス感染症対策として、法人行事、園内行事の中止や利用者様への外出、外泊の自粛をお願いしていた。外出・外泊の件に関して苦情としてあがることは無かったが普段の生活の中で「自由に外出がしたい。スポーツ観戦に行きたい。」などの声はよく聞かれた。

長期に渡って利用者様の生活が制限されていることから疲れが出てきており、精神的に敏感になっているところも見られ、通常ではなかなかあがってこない声が意見箱に投書される事が多くあった。

長引くコロナ禍で利用者様に心身的な変化が見られた一年であり、職員一人ひとりが利用者様の声に耳を傾け寄り添うことが重要だと再認識した。今後も利用者様の自立した生活を尊重しながらも安心した生活を送って頂けるよう支援を行い、また職員は自身の言動に責任をもち、権利擁護の意識、福祉施設職員としての自覚や意識の向上に努めていく。

虐待防止委員会

《概況》

当委員会は、利用者様が安全に安心して生活が送れるように、各施設で定期的な委員会を開催、各課連携し権利擁護、不適切な身体拘束やケアが行われていないか等、虐待の早期発見、防止を図る事を目的とし各施設で取り組みを行った。

虐待防止セルフチェックアンケートを実施し、結果については周知徹底を図った。問題点については対応等を検討、権利擁護と虐待防止に努めた。

新型コロナウイルス感染症拡大の為、12月の第三者委員報告会、虐待防止研修会は書面での報告会開催とした。

《取り組み》

ゆうかり医療療育センターでは、各寮において、権利擁護委員会を1回/月開催した。権利擁護、身体拘束の視点から問題提起し、利用者様が安心して生活が送れるように人権に対する意識を高め支援の質向上に努めた。また、虐待防止セルフチェックアンケートを実施し、職員へ虐待に対する再認識を図るとともに、コロナ禍による職員の精神的、身体的負担へも寄り添いながら虐待防止に努めた。

コアラ園は毎月第 3 水曜日に開催するコアラ園会議内にて委員会を実施し、虐待に関する情報等を各委員より出してもらい記録を残した。

登園児保護者の子供への気になる接し方（身体を叩く行為）など虐待と思える状況や情報は無かった。

園児の身体の傷や、身体整容の気になる状況等の情報があった場合は、相談支援事業所「夢の紀」スタッフと連携し、各当該市町村へ情報を提供していくようにしている。

千歳療護園、第二千歳療護園では、昨年に引き続き今年度も新型コロナウイルス感染予防対策として、9月と3月に合同で開催していた権利擁護委員会を千歳、第二千歳それぞれのカンファレンスの時間に開催し、現在身体拘束状態にある利用者様の現状報告（第二千歳のみ）、及び身体拘束廃止に向けた検討、評価、各種研修会への参加状況報告を行っている。9月と3月のカンファレンス開催前に「施設・地域における障害者虐待防止チェックリスト」を実施し、具体的な内容を記入して頂き、問題点への対応等を検討している。また朝礼時に千歳療護園では「虐待ゼロへの誓い」から身体拘束の3要件や具体的な虐待事例を、第二千歳療護園では身体拘束の3要件、具体的な虐待事例の他に、障害者支援施設事例（明らかな虐待ではない不適切ケアの中に本質がある）を朝礼時に読み上げ、全職員への周知を行い虐待防止の意識向上を図っている。

耳納学園虐待防止委員会は、常日頃から職員に対して利用者様への虐待防止（特に言葉による暴力等）、また、人権を尊重するよう注意喚起を行った。10月には昨年と同様、虐待防止の自己チェックのアンケートを実施し虐待等に対し職員の再認識をはかるとともに、職員間でチェック機能を高め虐待防止につとめた。

安全管理委員会

《概況》

当委員会は、利用者様と職員が安全、かつ安心な生活、又高度な医療を受けられるよう環境を整え、利用者様本位のサービスの質の向上を重点課題とし、医療・介護・療育場面における事故防止を図る事を目的とし、各施設においてそれぞれの活動を行った。職員より提出されたインシデント報告書、及びアクシデント報告書の評価を行い、事故防止対策の具体的内容について検討し、再発防止、未然防止につとめた。

《具体的取り組みと事故発生状況》

[ゆうかり]

*本年度の年間目標は、昨年同様に『医療安全対策分析用紙を活用し、事故防止対策に努める』と『危険予知トレーニング（KYT）の取り組みを行い、再発防止につなげる』を掲げ、継続目標とした。

医療安全対策分析用紙では、①利用者様②職員③環境など④管理などの4項目に対してそれぞれ要因、問題点に対して対策を講じ、改善を図ることにより再発防止に努めた。提出された分析用紙の報告書は、すべての部署へ配布、及び回覧して他部署、他寮においての重大アクシデントの再発防止対策とした。『危険予知トレーニング（KYT）の取り組みを行い、再発防止につなげる』の年間目標は、新型コロナウイルス感染症対応、及び対策の影響により、各寮、各部署での様々な制限があり、十分な委員会活動ができなかった。毎月の委員会では、各寮、及び各部署からのアクシデントの発生状況についての分析と問題点を検討、又各寮、各部署での取り組み状況についての報告を行い、職員の安全に対する意識向上に努めていたが、コロナ感染症対応の為、委員会を開催できないこともあった。

アクシデント件数は、前年度209件より80件減少の129件となった。

(事故報告件数)

転倒、転落・・・11件	外傷・・・17件	与薬関係・・・25件
注入カテーテル関係・・・31件	その他・・・36件	寮外・・・9件
合計・・・129件		

[千歳]

安全管理の取り組みとしては、施設内に危険予知を呼びかける安全管理啓発ポスターを設置。また、アクシデントレポートと別に分析用紙を設置し、事故防止の意見を出し合い、事故防止に努めている。加齢とともに機能低下が進んでおり、利用者の精神面の配慮、観察を怠らない様に注意し、アクシデント防止に努めて行きたい。今後も、利用者様にとってより安全で快適な園生活を提供できる様、職員一人ひとりが事故防止に努め、意識・注意力の向上を目指していきたい。尚、本年度のアクシデント件数は19件であった。

(事故報告件数)

○転倒・・・6件 ○外傷・・・8件 ○骨折・・・1件
○その他(左目擦り)・・・1件 ○他害(引っ掻き)・・・1件 ○誤嚥・・・2件
合計・・・19件

[第二千歳]

*安全管理の取り組みとしては、アクシデントレポートを提出してもらい、キャリアの浅い職員への教育・書き方の指導にも活用している。また、2月・3月と続けて誤薬事故が発生している。食堂テーブルに服薬マニュアルを設置し、服薬前・食事介助に入る前に確認するよう周知徹底している。職員には、より一層、気を引き締めてもらい全職員が意識し再発防止に心掛け、事故を未然に防ぐというプロ意識を持って業務・支援に取り組んでもら

いたいと思っている。今回、介助中の事故が 9 件と多く発生しており、介護事故を未然に防ぐ為にも、お気付き報告書を書いて頂き、環境整備に努めていきたい。

(事故報告件数) R4.4～R5.3

転倒、転落・・・6件 外傷・・・1件 与薬・・・2件 他害・・・2件

その他・・・3件

合計・・・14件

[耳納]

*本年度のアクシデント報告は8件で、そのうち5件は転倒事故、他2件は与薬、1件は自傷行為であった。転倒事故では骨折があり手術での治療となった。自傷行為後は精神面のフォローをしながら精神科通院治療中である。利用者様の高齢化に伴う体力の衰えを考慮しながら精神面のフォローと環境整備を行い、利用者様と共に事故防止の意識向上を目指した。

(事故報告件数)

転倒・・・5件、与薬・・・2件、自傷・・・1件

合計・・・8件

医療機器安全管理委員会

《概況》

医療機器安全管理委員会は、2ヶ月に一回その月の最後の月曜日に委員会を実施し、感染症が流行している時は、中止にしている。

構成メンバーは、臨床検査技師・診療放射線技師・薬剤師・歯科衛生士・各寮看護師の7名。

《開催日の状況》

R4年6月27日 8月29日 10月31日 R5年2月27日

※4月・12月は感染拡大防止の為中止

《内容》

1. 医療機器修理・点検・購入について

修理対応年数や機器の耐用年数が超えている機器が多くなり、再度新しく機器を購入するまでの流れや、廃棄するまでの流れの確認を行った。

《内部研修会》

AEDの耐用年数が超えているために、新しいAEDを第二千歳・耳納学園で購入し、納品の際にAEDの取り扱い方について業者による研修を行った。参加出来なかった職員は、取り扱い方の動画を視聴し、視聴した日付をチェックし、関係職員の周知を図った。耳納学園は、夜間の緊急時に備え、宿直者へも動画研修を行った。

※千歳療護園で使用しているAEDを修理・点検に出すために、代替えを借りたが、初めて使用するために、業者による研修を行った。

医療ガス安全管理委員会

《概況》

医療ガス安全管理委員会は、医療機器安全管理委員会と並行して行った。

《内容》

- ・医療ガス定期点検を4回行うが、新型コロナウイルスの影響で病棟閉鎖になっていたために、予定通り点検を行うことが出来なかったが、業者の方と連絡を取り、点検出来る所から行い、閉鎖解除になった時点で、病棟の点検を行った。予定通りにはいかなかったが年4回の点検を行うことが出来た。

防災対策委員会

《概況》

社会福祉施設においては、各種の災害時の際に特に配慮を要する利用者様が入所されており、その防災対策を確立することが強く要請されている中、当委員会ではより良い防災対策を確立することを目的に活動を行った。その中でも火災時・水害時・地震等の対策に重点をおいていたが、今年度においては、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、6月に行う予定であった日勤想定火災避難訓練は中止し、又、7月に第8波のコロナ感染症の増大により、各施設(耳納・千歳・ゆうかり)での合同避難訓練および、12月に行う予定であった夜間想定火災避難訓練も中止した。その他の水害時・地震等の避難訓練も実施していない。代わりに常日頃から職員及び利用者様の防災に対する意識向上を図り、地震災害・風水害等の自然災害にも対応できるようマニュアルに基づき、火災避難訓練場面や大雨による水害地震等のDVD視聴も含めて5月、10月、3月に防災教育を行った。夜間時に発生すると思われる風水害に対しては、9月に2回、台風11号と14号が発生し、事前に待機できる人員を確保した。発生した際には各施設で待機を行い、風水害の被害を

最小限に留め、利用者様の安全確保が出来るようにした。久留米市消防計画に定められた避難確保計画の作成を行い、久留米市防災対策課へ提出している。又、災害時事業継続計画（BCP）についても千歳・第二合同で見直しを行っている。

毎年開催されている浮羽消防署管内の屋内消火栓・消火器操法大会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、千歳療護園・第二千歳療護園は出場を見合わせ参加していない。

《火災想定避難訓練実施状況》

（千歳療護園・第二千歳療護園）

ゆうかり合同による日勤時・夜間想定避難訓練・千歳療護園・第二千歳療護園合同訓練は、第8派新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、実施していない。

院内感染対策委員会

<概況>

令和4年度は新型コロナウイルスオミクロン株による感染が猛威を振るった。法人内の多くの部署で陽性者が発生し、施設閉鎖が相次いだ。また、クラスターも頻発し対応に追われた。

委員会の開催も出来ず、書面報告が半数であったが、議事録や資料、新型コロナの発生状況については、施設内LANのインフォメーションにて情報提供した。

新型コロナの感染発生時、濃厚接触者（利用者様、職員）に対してPCR検査や抗原検査を実施、当該施設内に於いて拡大防止のための、感染物品（PPE）の配給やゾーニングなどの対応を実施。

アルコール手指消毒の使用量を毎月グラフ化し指導しており、各施設で取り組みを行っているが、適性の使用量には至っていないことが殆どであり課題である。

<活動内容>

月	内 容
4月	*令和4年度年間計画 ・委員会指針について
5月	*手洗いパトロール
6月	ともだち寮における新型コロナウイルス感染発生事例報告
7月	*感染性胃腸炎について
8月	*新型コロナウイルス BA.5 系統への置き換わりを見据えた感染拡大への対応について
9月	手洗いパトロール
10月	インフルエンザ感染症対策 研修会（ビデオ）「第二千歳療護園コロナ感染症クラスター発生の検証」
11月	オミクロン株対応2価ワクチンについて
12月	*ノロウイルス感染症について
1月	*インフルエンザ対応について
2月	手洗いパトロール 研修会「令和4年度感染症発生報告」
3月	*令和4年度感染症報告

開催日 毎月第3金曜日 9:30~10:00

*はコロナ関連で資料配布のみとなった

<施設内感染症発生状況>

令和4年4月～令和5年3月

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
インフルエンザA													
											1	2	
ノロウイルス	利用者												
	職員				1			1	1	3	2	2	
下痢原性大腸菌	利用者		1	2	1								
	職員	1	1	1	1					3	2	2	
新型コロナウイルス	利用者		4	11	17	12	2			47	23		
	職員	4	6	12	14	21	4	2	13	44	22	2	
クラミジア肺炎	利用者												8
	職員												

<利用者様施設別発生状況>

- R4. 5/13～26 ともだち寮 利用者 4名
- 6/27～7/21 第二千歳療護園 利用者 24名 職員 9名
- 7/15～8/5 ともだち寮 利用者 4名
- 8/4～9/5 耳納学園 利用者 12名
- 9/4～9/18 なかよし寮 利用者 1名
- 12/4～12/26 なかよし寮 利用者 36名 職員 22名
- 12/30～R5. 1/18 ともだち寮 利用者 9名 職員 1名
- R5. 1/5～1/20 第二千歳療護園 利用者 9名
- 1/8～1/27 おひさま寮 利用者 3名 職員 4名
- 1/21～2/3 ともだち寮 利用者 6名

* [] はクラスター発生

- クラスター発生の施設においては検証を行い、課題や感染対策の見直しを図った。
- 職員の体調不良者、濃厚接触者等の検査（PCR, 抗原定性）をドライブスルー形式にて実施。また、PCR検査機械の導入により、検査件数も増え、接触者や無症状者の感染の有無が短時間でわかるようになった。
- 罹患者に対しては、復職時に産業医による面談を行い、罹患後の後遺症等を聴取し、勤務の可否や業務の配慮を図った。

<新型コロナウイルスワクチン接種状況> *地域で接種した職員の数に含まない

○4 回目接種（モデルナ社ワクチン）

接種期間：R4 年 7 月 22 日～9 月 4 日

利用者：221 名

職員：180 名

○5 回目接種（ファイザー社オミクロン株対応 2 価ワクチン）

3 回目、18 歳以上（接種期間：R4 年 11 月 28 日～12 月 19 日）

利用者：213 名（内 13 名は 18 歳未満の利用者様で 4 回目の接種）

職員：159 名

ワクチン接種は、4 回目以降は直接処遇職員は各施設、間接処遇職員は外来にて実施。

衛生委員会

《概況》

職場の衛生管理体制を整備確立するとともに、職員の健康保進を図り、明るく快適な職場環境を形成するために、月 1 回、院内感染対策委員会と一緒に開催。年 1 回の全体のメンタルヘルス研修会は参加人員を制限し対面研修を行った。参加できなかった職員はビデオ視聴とし、全職員受けることができた。

年間を通して、心と体の健康づくりを主体に計画し、施設内 LAN のインフォメーションにて全職員に提供できるようにした。

ストレスチェックでは全職員を対象とし 8 月に実施。長期休暇中の職員を除き 311 名が受検できた。分析結果は所長会議、メンタルヘルス研修会において報告した。総合健康リスクが高い部署には業務改善等の取り組みを推奨した。面談希望者には産業医の面談を行った。

今年度は、コロナ罹患後の後遺症で体調不良となる方や精神的不調など理由はさまざまであるが、産業医の面談を行いながら対応するケースが増加している。

次年度は職場の環境改善を含めたラインケアやセルフケアのメンタルヘルス支援を提供していきたい。

<活動内容>

月	内 容
4月	令和4年度年間計画について
5月	メンタルヘルス①「5月病」 資料配布のみ
6月	体の健康づくり①「天気痛を防ぐには」
7月	職場環境①「熱中症予防」 資料配布のみ
8月	◎ストレスチェック実施
9月	メンタルヘルス②「感情コントロールは難しい」
10月	体の健康づくり②「腰痛対策」
11月	メンタルヘルス研修③「ストレスチェック結果報告」 「セルフケア」ビデオ視聴
12月	職場環境②「温度管理と換気」 資料配布
1月	体の健康づくり③「睡眠」 資料配布
2月	メンタルヘルス④「人生は感謝するだけで好転する」
3月	体に健康づくり④「春は自立神経の乱れに注意！」 年度活動報告

広報委員会

≪概況≫

広報委員会は、広報紙の発行とホームページの管理を担っている。

広報紙は6月1日（68号）、10月1日（69号）、2月1日（70号）の年間3回発行し、委員8名で構成した編集会議は、施設内LANを活用して年間3～4回にとどめ、締め切り内に発行できるように、努力している。

ホームページに関しては、インフォメーションなど手軽に更新できるようにリニューアルしているが、更新数は多くない。

広報紙各号の内容および配布先や発行部数は、以下の通りである。

[発行内容]

- 第68号（令和4年6月1日発行） 表紙…耳納学園
 - ・ コロナ禍での障害者相談支援事業所「夢の紀」の取り組み…障害者相談支援事業所「夢の紀」 所長 梅木 猛
 - ・ 施設だより（各施設・寮の行事紹介）
 - ・ 今日の仲間51（ともだち寮、なかよし寮の仲間）
 - ・ ニュースやお知らせ、善意のかずかず、新人紹介他
 - ・ 令和3年度事業報告、決算状況報告および令和4年度事業計画の報告記事

- 第 69 号（令和 4 年 10 月 1 日発行） 表紙…おひさま寮
 - ・ 《コロナとの闘い！》…事務局長 日野 康英
 - ・ 施設だより（各施設・寮の行事紹介）
 - ・ 今日の仲間 52（なかよし寮、耳納学園、千歳療護園、障害者支援センターちとせの仲間）
 - ・ ニュースやお知らせ、善意のかずかず、新人職員紹介他
- 第 70 号（令和 5 年 2 月 1 日発行） 表紙…第二千歳療護園
 - ・ 新年のご挨拶…理事長 日野 博愛
 - ・ 施設だより（各施設・寮の行事紹介）
 - ・ 今日の仲間 53（ともだち寮、おひさま寮、第二千歳療護園、コアラ園の仲間）
 - ・ ニュースやお知らせ、善意のかずかず、新人職員紹介他

[配布先および発行部数]

- ◎ 学園関係（利用者様及び園内各部署、全職員、賛助会員様等に配布…850 部。）
- ◎ 行政や地域、関連諸施設、学校などに配布（500 部）
- ◎ 1 回の発行部数は 1,450 部。年間発行部数は 4,350 部であった。

療育会議運営委員会

令和4年度 表の通り計画しました。

今年度も新型コロナウイルスの影響により、参加人数を決め4月の『理事長講義』を2回、11月の『衛生管理・メンタルヘルス研修会』、2月の『報告会』を研修室で実施し、参加者以外の職員はビデオで視聴。5月の『薬局研修会』、10月の『医療安全・感染症研修』はビデオ配信とし、6月『QC発表』、12月『虐待防止研修会』は資料の配布。9月『外部講師』、1月『局長講義』は中止という形を取りました。

令和4年度 療育会議実施表

日付	会議名	司会	記録	準備・片付け	日付	会議名	司会	記録	準備・片付け
4/13・27	講義 (理事長)	相良昭宏	浦塚多恵	なかよし育成	10/12・19	医療安全・感染症研修会(ビデオ)	桑原景子 占部千里	占部千里 石井二貴子	おひさま育成
4/27	各施設・寮				10/26	各施設・寮			
5/11	薬局研修会(ビデオ)	浦塚多恵	後藤女子	千歳	11/9	衛生管理・メンタルヘルス研修会	石井二貴子	水城秀憲	耳納・給食・心理
5/25	各施設・寮				11/30	各施設・寮			
6/8・15	QC発表会(資料)	後藤女子 福山和也	福山和也 名切和美	第二千歳	12/14	虐待防止研修会(資料)	水城秀憲	武藤美智恵	ともだち育成
6/22	各施設・寮				12/28	各施設・寮			
7/13	盆踊り最終打ち合わせ			訓練	1/11	局長講義(中止)	武藤美智恵	原貴子	おひさま看護
7/27	各施設・寮				1/25	各施設・寮			
8月	予備日			ともだち看護	2/8	報告会(苦情解決・安全管理・感染症委員会)	原貴子	堤大輔	なかよし育成
8/24	各施設・寮				2/22	各施設・寮			
9/14	外部講師(人権研修)(中止)	名切和美	桑原景子	なかよし看護	3月	予備日			千歳
9/28	各施設・寮				3/22	各施設・寮			
<small>※第2週目にできなかった場合は、変更することがある。 ※感染症(新型コロナウイルスなど)の影響により、ビデオ研修になる場合もある。</small>									

福祉QC委員会

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、書面での報告を行った。

ゆうかり医療療育センター防犯対策委員会

《概況》

当施設においては、身体的、精神的にも配慮を要する利用者様が多く入所されており、当委員会ではより良い防犯対策を確立することを目的に活動を行った。

《具体的取り組み状況、及び内容》

各寮の設備面（自動ドア、窓周辺、インターホン、さすまたなど）のチェック報告、ゆうかり敷地内の確認、門扉、全周囲フェンスの確認、又は、防犯監視システム、防犯カメラ、センサーライト、外灯等の外部設備等の動作確認を行い『防犯設備チェックリスト』への入力により、日常的に防犯に対する意識向上を図り、書面での報告を毎月実施した。

令和 5 年 3 月には、他事業所も含めた法人全体での委員会を開催し、それぞれの事業所での委員会活動状況の確認、及び報告を実施した。

緊急時の連絡方法を令和 3 年度より見直し、職員（警備員）又は夜勤者より連絡を受けた事務長、及び防犯対策責任者は、13 名の各施設、事業所責任者へ一斉送信にて報告連絡ができる内容の再確認をした。

新型コロナウイルス感染症対策の為、ゆうかり医療療育センター全体での防犯訓練は実施できなかったが、それぞれの寮などで訓練、又は防犯設備の確認を実施した。全体訓練、又夜間帯を想定した訓練などの実施を今後の課題とした。

新任職員研修の中では、防犯対策委員会設立の経緯、防犯対策委員会の活動状況、防犯対策用品などの紹介を含めて報告をした。

【防犯訓練等実施状況】

6 月…なかよし寮	6 月…総務・外来	8 月…おひさま寮
8 月…ともだち寮	9 月…なかよし寮	11 月…新任職員研修会
12 月…ともだち寮	1 月…総務・外来	

研修委員会

《概況》

法人全体の研修の企画、実施を行うことを目的とした委員会であり、令和3年度から開催している。

研修の内訳は新入職員を対象とした新任職員研修、2年目以降の既存職員を対象とした基礎研修、各部署、各施設に分かれ専門的な研修を行う専門研修となっている。

令和4年度の活動は新任職員研修を4月と11月に実施した。その他の基礎研修、専門研修は行っていない。

《活動状況》

委員会は毎月開催予定であったが、感染症の影響もあり6回/年の開催であった。

委員会での議題の中心はゆうかり学園の研修をどのようなコンセプトを持って枠組みをつくり、体系化していくかということであった。

協議の結果、ゆうかり学園職員研修プログラム(別紙参照)に沿って実施していくことが決まった。

令和4年度内は研修開催までは至らなかったが、研修案をいくつか企画できている。

新任職員研修は2回/年実施することができたが、内容は前年迄のものを踏襲したものであった。

今後は今までのノウハウを活かしつつ、新たな内容の研修を検討する

	大項目	項目	研修内容	頻度、開催方法	既存の研修有無	実施主体	担当委員
基礎	医療・福祉制度	医療の仕組み	医療制度、ゆうかり内の医療行為				
		福祉の仕組み	福祉制度、施設の役割や位置づけ				
		部署ごとの役割	部署の医療、福祉、法人内のそれぞれの役割				
		他事業所との連携					
	個別支援・社会参加	個別支援	個別支援計画とは、会議のポイント				
		意思決定	利用者の個別性を踏まえた意思決定を理解する				
		社会参加	社会参加の意義を理解し、必要性を考える				
	業務遂行、経営	虐待防止	権利擁護（虐待防止）委員会の内容に準ずる				
		安全管理	医療安全対策委員会の内容に準ずる				
		経営・運営への参画					
	基礎力	パソコンスキル	ワード、エクセル、パワーポイント アンケート管理ソフト、ウェブ会議ソフトなど				
		介護スキル	日常生活介護、トランスファー、リフトなど器具、の技術取得				
		医療知識	医療知識の学習、技術の研鑽				
接遇							
専門	既存の職員、新任職員向けに各部署、各施設にて実施						
	新任職員研修		新任職員の研修				